

## 第2節 櫃石島の遺跡

櫃石島は、旧石器時代から中世・近世に至るまでの遺跡の宝庫である。各時代の遺跡がほぼ万遍なく存在し、備讃瀬戸の歴史を語る上で欠くことのできない貴重な資料を提示してくれた。発掘調査が終了した現在、その成果を中心に旧石器時代から中世に至る櫃石島の遺跡を大雑把に述べてみたい。

旧石器時代の遺跡としては、調査された遺跡として、花見山遺跡<sup>(1)</sup>・大浦遺跡<sup>(2)</sup>・ヤケヤマ遺跡<sup>(3)</sup>・長崎通り遺跡<sup>(4)</sup>・北浦遺跡<sup>(5)</sup>・トビノス遺跡<sup>(6)</sup>が挙げられる。花見山遺跡では各文化期に属する遺物が出土し、大浦遺跡では縦長剝片・同石核・細石刃・同石核が主体となっている。ヤケヤマ遺跡では、縦長剝片・同石核・横長剝片・同石核・ナイフ形石器が出土している。長崎通り遺跡は、ナイフ形石器から細石刃に至る各文化期の遺物が出土している。

繩文時代の遺跡としては、早期の押型文土器の出土した海床鼻遺跡<sup>(7)</sup>が古くから知られていたが、大浦遺跡にも押型文土器が出土している。次の前期から晩期にかけての遺物は、大浦浜<sup>(8)</sup>およびその周辺地区に集中して出土している。前期前半に比定される羽島下層式の土器片が大浦浜の南西部に位置するたては北麓から出土し、同じく北西部のヤケヤマ東麓地区からは、前期から後期初頭までの土器片が多数出土しており、それに伴う遺構も検出されている。晩期における土器片は大浦浜中央部で出土している。

弥生時代の遺跡は大浦浜遺跡である。前期から後期終末期までの土器が出土している。ただ中期に比定できる土器の量は極めて少ない。

古墳時代に入ても、島の中心地は大浦浜遺跡にあったと思われる。古墳時代全般を通じての遺物が多数出土している。この時期の大浦浜遺跡の特徴として挙げられるのは、土器製塩であろう。弥生時代から既に大浦浜に登場していた製塩土器は、古墳時代に入って数が増大し、ことに古墳時代後期には多量に使用された。またこの時期の製塩炉も検出されており、大浦浜遺跡が生産活動の場であったことを示している。このほか島の西にある西浦浜<sup>(9)</sup>でも、製塩土器が採集されている。一方島の数ヶ所で古墳が築造されている。島の南東端に位置する歩渡島では箱式石棺が3基確認されており、珠文鏡・銚が出土している<sup>(10)</sup>。また大浦浜背後の「たては」には横穴式石室が数基発見されている。今回の調査において長崎古墳が新たに検出された。その他、古墳と伝えられる遺跡としては宮崎古墳があるが、墳丘の形態・主体部などは全く不明である。

奈良時代においても、大浦浜遺跡は依然として櫃石島の中心であった。前代に引き続いて土器製塩も行なわれていたようであり、尖底をもつ製塩土器が出土している。また奈良三彩・帶金具も出土し、国家的祭祀の場として大浦浜が利用されたと思われる。

平安時代から中世初頭にかけては、大浦浜や、大浦浜南端地区・ヤケヤマ東麓地区で青磁・白磁などの輸入磁器、黒色土器、瓦器が出土し、やはり大浦浜が中心となっているようである。大浦浜遺跡で行なわれていた土器製塩は、10世紀には衰退し、代って粘土土坑を用いての作業が、12世紀末~13世紀初頭の時期に行なわれていたようである。

鎌倉時代末~室町時代にかけての遺跡にはがんどう遺跡<sup>(11)</sup>がある。この遺跡は島の北部に位置し、寺院・墳墓跡としての性格付けがなされている。この時期における住民の居住区は、現在の居住区である港の周辺部と思われるが、調査が実施されていないので、推定の域を出ない。



1. トビノス遺跡 5. ヤケヤマ遺跡 9. 歩島1号石棺 13. たては1号墳 17. がんど遺跡  
 2. 北浦遺跡 6. 長崎通り遺跡 10. // 2 // 14. // 2 //  
 3. 花見山遺跡 7. 海床鼻遺跡 11. // 3 // 15. 長崎古墳  
 4. 大浦浜遺跡 8. 大浦浜遺跡 12. // 4 // 16. 宮崎古墳

第2図 檜石島の遺跡

## 注

- (1) 香川県教育委員会「花見山ホウロク石地区第1次調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(III)』  
1980年3月  
香川県教育委員会「花見山遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)』 1981年3月
- (2) 香川県教育委員会「大浦遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)』 1981年3月
- (3) 本概報に掲載
- (4) 本概報に掲載
- (5) 香川県教育委員会「北浦遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(III)』 1980年3月
- (6) 香川県教育委員会「櫻石島第1次調査区」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財予備調査報告(1)』 1976年3月  
(7) 1957年に瀬戸内考古学会が刊行した「瀬戸内考古学創刊号」に本遺跡が一覧表として掲載されている。
- (8) 香川県教育委員会「大浦浜遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV), (V)』  
1981, 82年3月
- (9) 水原岩太郎「師業式土器図録」 1939年
- (10) 1974年に坂出市川畠道氏によって調査が実施され、本概報でその成果を一部借用し掲載した。
- (11) 香川県教育委員会「がんじ遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(III)』 1980年3月  
(安田)

## 調査日誌抄

- 4月6日 本日より調査開始。前年度残りの大浦浜遺跡調査区及び北端調査区に入る。南端調査区の区画設定終了。
- 4月13日 大浦浜北端調査区終了。特に遭構なし。まだ冷たい春の水の為に、全員疲労感が増していく。南端調査区、調査開始。
- 4月16日 長崎通り伐開。南端調査区、石組み遭構(S Z 8201)検出。トレント拡張する。
- 4月22日 南端調査区さらに拡張。遭構はひとつではなきそうだ。
- 4月26日 ヤケヤマ遺跡伐開開始。杭打ち。
- 5月6日 南端調査区S Z 8201平面実測、写真撮影終了。ヤケヤマ、発掘開始。R-56~69区表土除去。N-56~57区表土除去。
- 5月10日 ヤケヤマ地区R-56~69区表土除去終了。遺物は少ない。第2層を掘り下げ。南端調査区、S Z 8201平面実測終了。
- 5月12日 南端調査区、トレントをさらに拡張する。「泥鰌式」と調査員自己反省しきり。ヤケヤマ地区、調査順調。
- 5月14日 雨のために注記作業。ヤケヤマ遺跡、R-56~69区地山検出。
- 5月17日 ヤケヤマ、R-56~59区深掘り開始。尾根の平坦地の表土除去進む。南端調査区、写真撮影の為の清掃。
- 5月19日 長崎通り遺跡、杭打ちに入る。ヤケヤマ調査区、R-68区で尖頭器出土。
- 5月24日 ヤケヤマ遺跡の調査ほぼ終了。作業員の半分を長崎通りにまわす。長崎通り下草刈りを開始する。
- 5月26日 ヤケヤマ遺跡の発掘終了。土層の線引き。写真撮影を残すのみ。
- 5月28日 長崎通りにて表土除去開始。
- 6月1日 作業員全員長崎通りに集合。比高差があるため、通路を作る。しかし急斜面の為に、登り下りが厳しい。
- 6月4日 長崎通り、精査継続。ヤケヤマ遺跡、写真撮影・土層実測、撮影終了。危険地区埋め戻し。発掘後の環境整備に重点を置いて確認する。
- 6月7日 長崎通り、P-33~36区の第2層除去。遺物は2層にも含まれている。
- 6月9日 南端調査区に掘削重機を導入して、調査区を拡張する。
- 6月14日 南端調査区にて新たな石組み遭構(S Z 8203)を検出する。S Z 8201ほど残存はよくない模様。長崎通り、P-23~31区の第2層除去。
- 6月17日 梅雨入り宣言はされているのに、全く雨降らず。調査区が、現場事務所と離れているため、往復が大変。
- 6月22日 長崎通り、M・N-22区第2層より須恵器片出土。磨滅が著しいので、二次移動と断定し取り上げたが……。南端調査

- 区、実測用杭打ち。
- 6月23日** 久し振りの雨。現場作業を中止し、現場事務所にて出土遺物の整理と、今後の調査計画の見通しを検討する。櫛岩周辺の調査計画完成。新たな決意が湧いてくる。
- 6月25日** 南端調査区、石組み遺構実測。
- 6月28日** 長崎通り、周辺部の確認調査の為に伐開を始める。
- 6月30日** 長崎通り、先に出土したM・N-22地区と隣接して、多量の須恵器片が出土。写真撮影、実測の後に遺物を取り上げることに決定。付近に古墳があった可能性が出てくるが、地形から考えて疑問を持つ調査員もいる。
- 7月5日** 長崎通り、地形測量・南端調査区、石組み遺構実測継続。多量の礫のため手間取る。
- 7月9日** 長崎通り、高台地区精査する。遺構は検出できず。南端調査区さらに拡張することに決定する。
- 7月12日** 南端調査区、掘削重機にて斜面を切り開く。長崎通り、高台精査継続。
- 7月14日** 長崎通り、L・M-22区で新たな土器溜りと、石組み状の遺構の検出。古墳か？ 調査員色めく。
- 7月16日** 雨のため、作業中止。梅雨明けも近いのか、豪雨。現場の安全確認の為、雨の中を見廻る。
- 7月19日** 南端調査区、掘削重機による土砂の排土と精査を開始。長崎通り、石棺でなく天井石及び側壁を抜かれた石室と思われる。雨後の為に土の色が明瞭になり、周溝を検出する。
- 7月22日** 南端調査区、崩壊した土砂の排除。長崎通り、古墳状造構及び周溝の精査。
- 7月26日** 長崎通り、周溝検出継続。周溝は環状ではない模様で、東半分は途切れている。高台地区で、ハリ貫安山岩の細石刃出土する。南端調査区、写真撮影。
- 8月2日** 南端調査区、実測用杭打ち。長崎通り、古墳状遺構を長崎古墳と呼称する。
- 8月4日** 長崎古墳精査。南端調査区実測開始する。
- 8月5日** 長崎古墳精査。高台地区、精査を続ける。黒曜石ナイフ出土する。
- 8月10日** 長崎古墳の石室内に石棺が据えられているのを確認。周溝内精査。新たな土器溜り検出。
- 8月13日** お盆休みで現場作業休止。調査員は全員で高台地区的土層図、長崎古墳の周溝内の土器溜り実測。
- 8月17日** 長崎通り、高台地区終了を以って、旧石器時代関係の調査を終了する。長崎古墳で土玉を検出。
- 8月24日** 大浦浜南端調査区、第4層精査。製塩土器、須恵器の出土目立つ。
- 8月27日** 台風13号接近のため、島に渡れず。
- 8月30日** 南端調査区、地山層まで検出する。土層線引き及び写真撮影する。
- 9月3日** 南端調査終了。長崎古墳精査。土玉・水晶玉など出土。石棺内に朱あり。
- 9月6日** 長崎古墳周溝完掘。
- 9月17日** 長崎古墳調査終了。道具類整理。坂出事務所に搬送する。櫛石鳥の調査を終了する。

## 第2章 ヤケヤマ遺跡

### 第1節 調査の概要

ヤケヤマは樅石島の中央部に位置する標高15~22mの丘陵である。この丘陵は花見山から派生した山塊の一つであり、大浦浜の北を巡るようにして伸びている。尾根は開墾され平坦になっており、傾斜面も段々畑に利用されていて、人の手の入っていない場所はない。

昭和51年10月から11月まで予備調査<sup>(1)</sup>が実施された。その結果、尾根の平坦地では旧石器の散布が認められ、南斜面の麓では中世の土器・輸入磁器が出土し、しかもその時期の落ち込み状遺構が検出されたことから、中世の遺構が残存する可能性が高いとされてきた。

また南斜面の麓に隣接するヤケヤマ東麓部において昭和56年度に調査<sup>(2)</sup>が実施された。この調査によって多数のピット・土坑・集石などの遺構が検出され、また古代末から鎌倉までの土器・輸入磁器なども多数出土した。その結果、ヤケヤマに中世の遺構の残存する可能性があると思われた。

以上の2つの調査結果を踏まえて、次の2つの観点に立って調査計画が立てられ、調査が実施された。

(1) 尾根に散布する旧石器の出土状態の把握

(2) ヤケヤマ南斜面の麓における遺構の存在の有無を確認すること

このうち(1)については、樅石島におけるこれまでの旧石器調査が、土層の擾乱によって、遺物が必ずしも層位的には出土していないという事実や、調査区の削平が著しく、遺構が残存する可能性が薄いということから、平面的な出土状態の把握にとどめることにした。また隣接する大浦遺跡で細石刃・細石刃核、あるいは押型文土器が出土しており<sup>(3)</sup>、この調査区にも出土する可能性があった。

調査対象地区を、尾根の平坦地と南斜面の2つに分けて設定した。調査は4月26日より開始され、6月4日に終了した。調査対象面積は4,700m<sup>2</sup>であり、調査面積は622m<sup>2</sup>である。

調査地区は開墾による削平が進んでおり、尾根の平坦地においては予想通りの結果となった。一方、南斜面の麓において期待された中世の遺構も検出されなかった。遺物は旧石器においては、ナイフ形石器・剥片・石核が僅かに散布するのみであった。土器に関しては繩文土器片・中世の土器片・輸入磁器片が出土したが、土層は擾乱を受けており、出土遺物の細かい先後関係を把握することはできなかった。

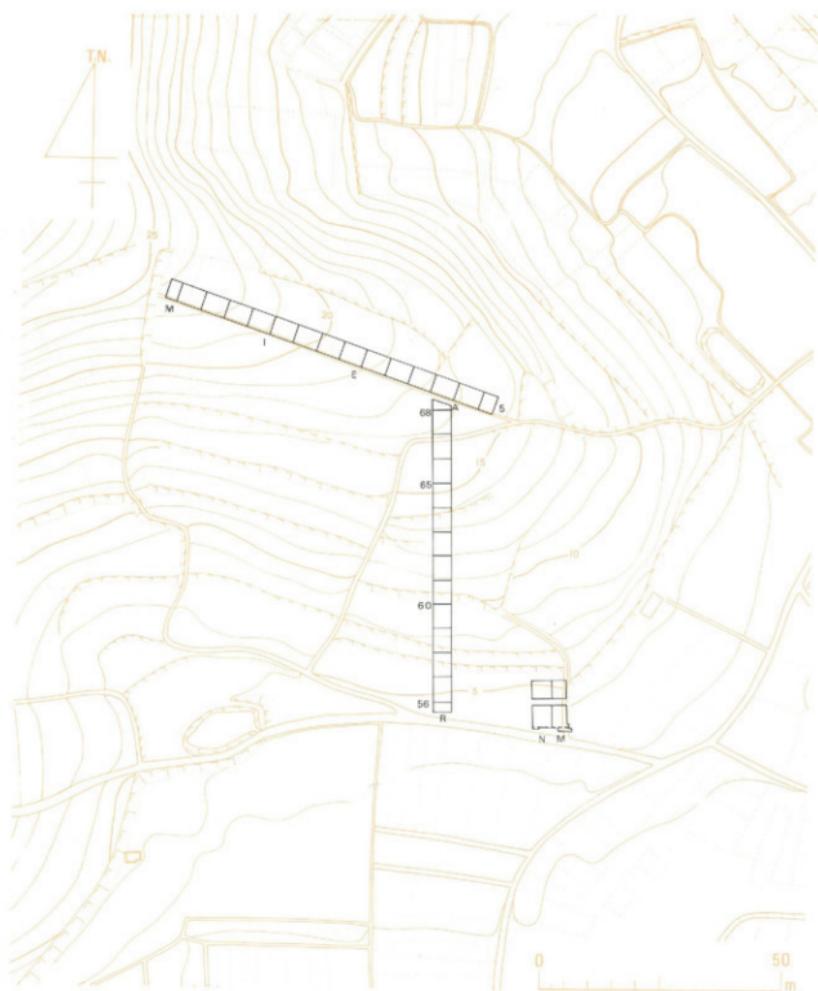
先にも述べたようにヤケヤマ遺跡は尾根の平坦地・南斜面が旧石器散布地であり、南斜面の麓の平坦地は大浦浜遺跡の範囲の中にあると思われる中世遺跡である。このため本年度における概報に掲載した報告のうち、旧石器時代の報文を本報告とし、中世の報文については、大浦浜遺跡の本報告の際、これに盛り込むことにし、今回は概要を留めることとする。(安田)

#### 注

- (1) 香川県教育委員会「樅石島の遺跡第III一北調査区」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化予備調査報告(Ⅰ)』

1976年3月

- (2) 香川県教育委員会「大浦浜遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(V)』 1982年3月  
(3) 香川県教育委員会「大浦浜遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)』 1981年3月



第3図 ヤケヤマ遺跡地形図及び発掘区位置図

## 第2節 調査区の設定と調査方法

調査区画の設定にあたっては、調査対象地区全体を網羅できるように設定した。

まず対象地区を発掘目的・方法の違いにより2つに分けた。すなわち丘陵の南斜面部は大浦浜の中世における遺跡と密接に結びついていると考えられたので、調査区画は大浦浜遺跡の調査区画設定法をそのまま踏襲した。<sup>(1)</sup>しかし、尾根の平坦地は、旧石器の散布地という遺跡の性格上の違いや、尾根の主軸となる稜線が、大浦浜遺跡で設定した主軸と一致していないという地理的条件などを鑑みて、独自の調査区画を設定した。まず南斜面調査区にあるN-68地点を示す杭より3m、大浦浜の区画にそって真北に進んだ地点を選び、基軸変換点とした。この地点は、地形上からみて尾根の平坦部の中央にあたる基軸の上にある。この変換点より真北に対して70°西に角度を振り、尾根の主軸に平行して、区画の基軸となる杭を設定した。

調査区画は5×5mを1単位とした。各区画単位（以後グリッドと呼ぶ）の区画名は、丘陵南斜面部においては大浦浜の杭番号を延長することにした。一方、尾根の平坦地においては、基軸変換点にB-5という番号を与え、各グリッドの西に向かって左肩にあたる杭の番号を代表させて、そのグリッドの杭番号とした。

調査対象地区的うち、発掘調査を実施する地区的設定については、まず中世の遺構が残存する可能性が強いとされた丘陵の南東麓部に、6区画約50m<sup>2</sup>を設定した。さらに丘陵の南斜面部は、麓にしか予備調査のトレンチが入っておらず、斜面全体の遺物の出土・各土層の堆積状況を把握するために、幅4m・長さ66mのトレンチを、大浦浜遺跡の調査区画の主軸に沿って設定し、遺物の出土状態の変化や、遺構の検出などによってこのトレンチを拡張していくという方針をとった。また尾根の平坦地においては、幅4m・長さ70mのトレンチを設け、南斜面部と同様な調査方針を取ることとした。

調査の方法は1グリッドをさらに4つの小区画（2×2.50m）に分割し、遺物の出土状況を平面的に把えることにした。発掘の方法としては、表土を「ふるい」にかけて除去した後に、各層10cmごとに掘り下げて遺物を取り上げていった。尾根の平坦地や南斜面部においては予備調査の成果や、これまでの島嶼部の調査例から考えてみて、削平や土層の流れ込み・擾乱が著しく、遺物の層位的な出土が望めないということが予想されたため、出土位置をレベルによつて記録する方法は実施しなかった。

なお丘陵の南東麓部においては、予備調査の結果、中世の落ち込み状遺構が検出されているので、遺構の存在の有無を確認するために、調査可能な地区の境までグリッドを広げて発掘した。そのため方形の形をとらず、歪になっている。またこの地区は、層位の擾乱が下層では見られないと指摘されているので、各土層ごとの掘り下げを実施した。 (安田)

### 注

- (1) 香川県教育委員会「大浦浜遺跡の調査」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV), (V)」 1981・82年3月

### 第3節 土層と垂直出土状態

調査地区全域に共通する土層は、第1層表土層と、第3層茶褐色花崗岩バイラン土（以下地山層とする）である。第2層に相当する層は、尾根の平坦地・南斜面・南麓平坦地の各々の調査区によって若干異なっているので、それぞれの地区の土層の項で触ることにする。遺物は、第1層と第2層に相当する層より出土しているが、旧石器時代～近代までの遺物が同じ層から混在して出土したり、流れ込みの作用により下の層からの出土遺物が上の層からの出土遺物よりも新しいという状況を呈しているので、この点からみていずれの層も攪乱を受けていると判断してもよかろう。それゆえ出土遺物の先後関係を層位の立場に立って考察することは不可能と言わざるを得ない。この現象は、これまでに調査された島嶼部の旧石器遺跡と共にしているといえよう。

#### (1) 尾根の平坦地 (N-5区～a-5区) (図版第1-1, 第4図)

近年まで畠地として利用されており、かなり削平が進んでいる。16～22mほどの標高で、長さ東西約80m・幅南北約20mにわたって平坦地になっている。第1層に当たる表土層は、約15～20cmの厚さをもって、N-5区からa-5区に向かって堆積している。堆積の傾斜角は約17°になっている。出土遺物は、ナイフ形石器をはじめとする旧石器・甕文土器・輸入磁器数点である。

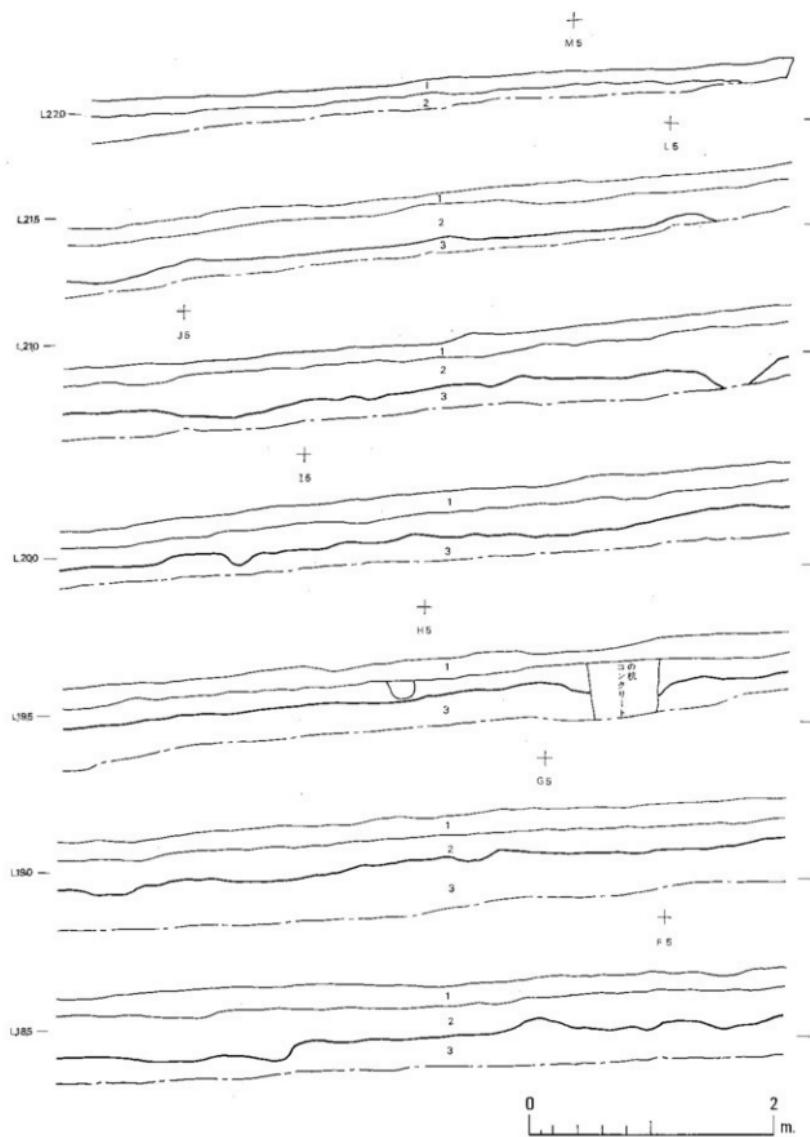
第2層に相当する層は、大別して2つに分けることができる。まず茶褐色砂質土層が平坦地の西から東へ、つまりN-5区からa-5区に向かって、浅いところで約10cm、厚いところで約50cmで堆積している。この層はA-5区付近で途切れている。そして、その層の上に色調は異なるけれども、土壤は同じと思われる砂質土の層が堆積しており、トレンチの東端にあたるa-5区付近では約80cmの厚みをもって形成されている。しかし、A-5区付近で地山層が、東に向かって落ちているので、この層の形成は土層の流れ込みによる結果と思われる。遺物の出土状況は、表土層と同じような結果であった。

地山層はN-5区付近では検出されなかったが、M-5区付近から現われ、標高21.6mを測る。この付近を最高所として、a-5区の一番低い地点においては、約15.2mの標高となり、比高差は6.4mとなった。従って、傾斜角は約6°となっている。

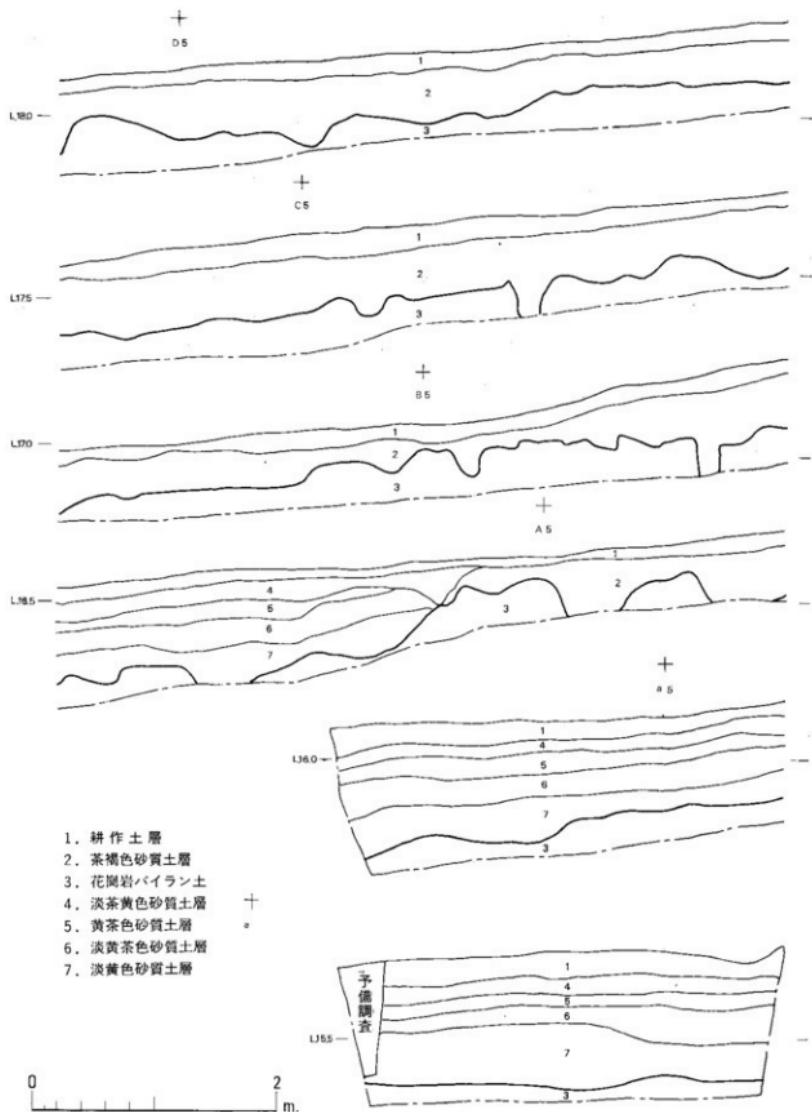
#### (2) 南斜面 (R56区～R69区) (図版第1-2, 第6・7図)

開墾が進み、段々畑として調査直前まで利用されていた。まず土層が浅いところで約10cm、厚い地区では約80cmにわたって堆積している。この層は、R-69区からR-56区、つまり高所から低所に向かって流れている。また段々畑の地境付近が特に厚くなってしまい、耕作による影響と思われる。出土遺物はナイフ形石器などの旧石器時代の遺物の他、土師器片・須恵器片・輸入磁器などである。

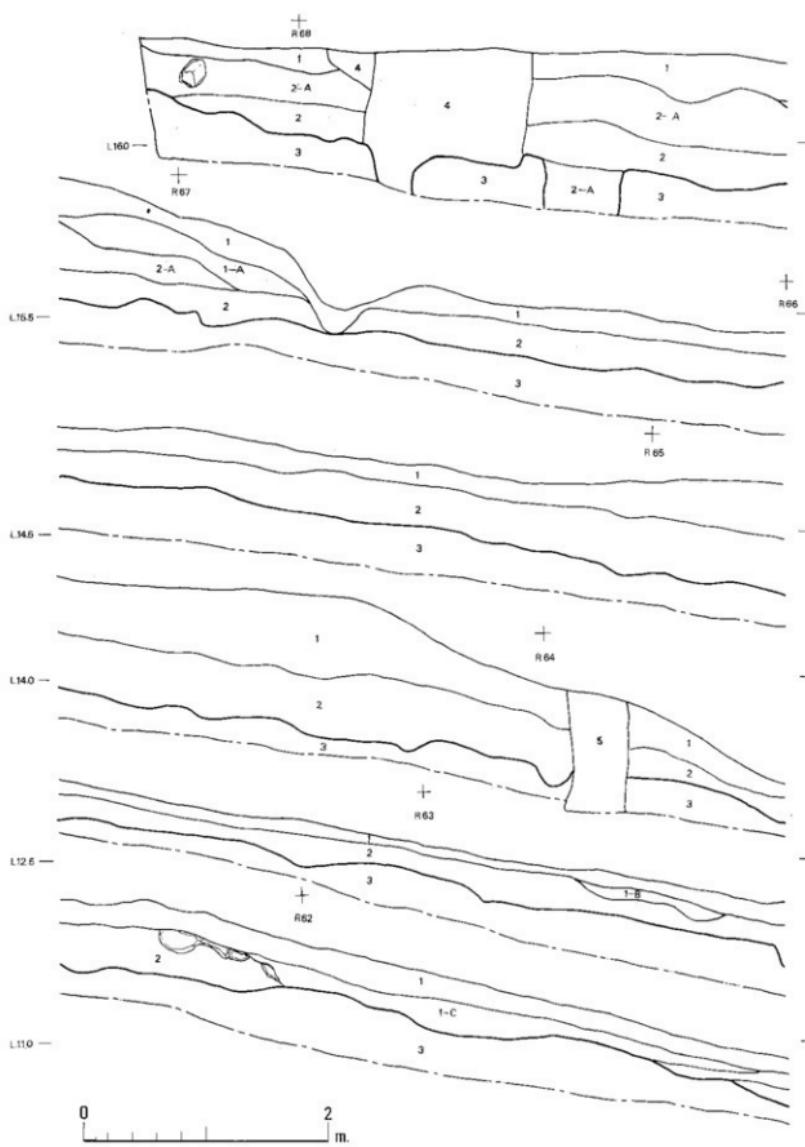
第2層に相当する層は、畠地利用や段落ちによる比高差が著しいことなどにより、かなり削平・攪乱・流れ込みなどの現象が進んでいた。この調査地区的土層も大きく2つに分けられる。尾根の平坦地にも堆積していた茶褐色砂質土層は、R-61・62区付近で途切れてはいるが、R-58区付近までも薄いところで約20cm・厚いところで約50～60cmほど堆積している。この層が途切れているR-62区では、表土層と基本的には同一層と思われる茶黄色の砂質土がブロック状に堆積しており、流失・削平による影響により途切れるという現象を引き起こしたと思われ



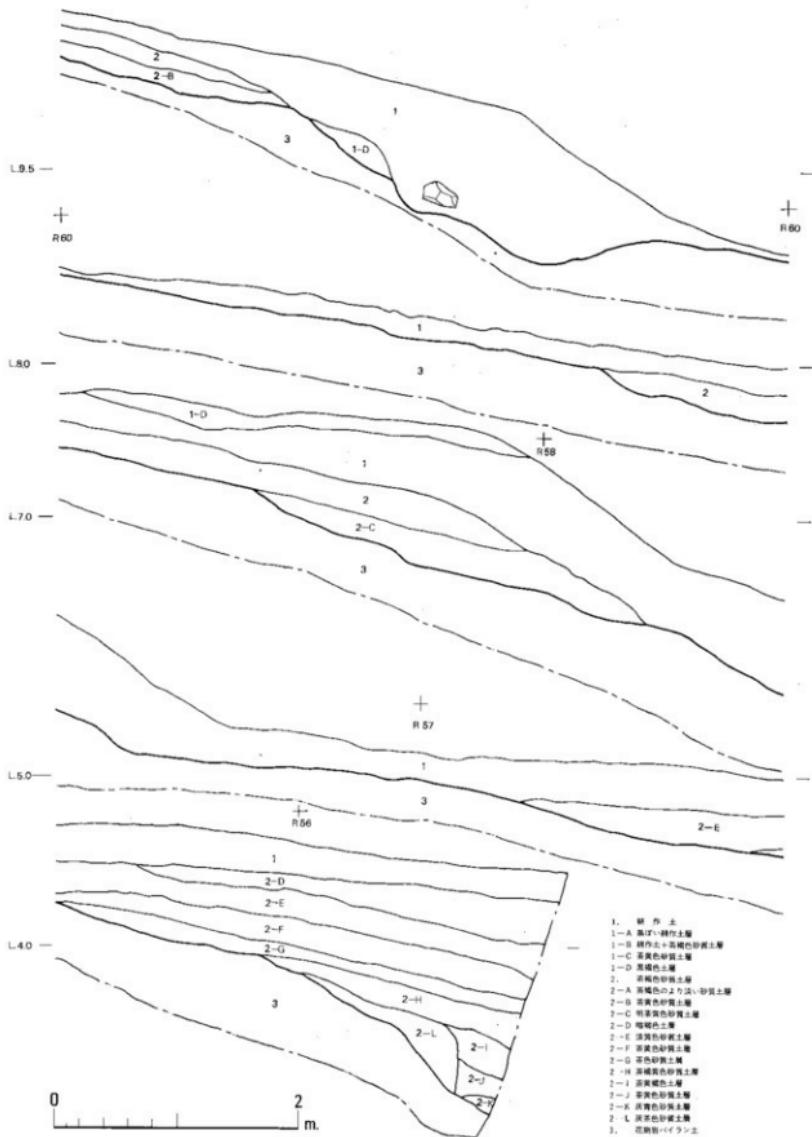
第4図 N~E-5区南壁土層図



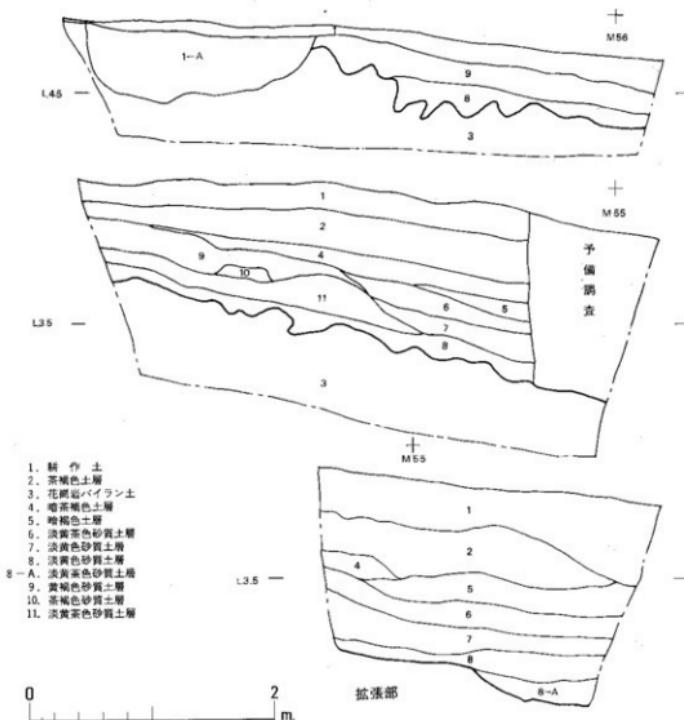
第5図 a-5区東壁・a-5～D-5区南壁土層図



第 6 図 R-69～R-62区東壁断面図



第7図 R-61～R-56区東壁断面図



第8図 M-57~55区東壁断面図

る。同じようなことがR-61区でも起こっている。R-56・57区にかけては、第2層が細かく分けられる。この現象の原因は、大浦浜との比高差にあると思われる。つまり段差が2mもあるということである。この地区の第2層はこの急な傾斜によって流れ込みの現象を起こしたものと思われる。

地山層はR-56区付近より大浦浜に向かって急激な傾斜で落ちている。

出土遺物は、R-58区付近までは旧石器時代の遺物も見うけられるが、R-56・57区ではむしろ土器片が目立つ。しかし、同一層から近・現代の土器片も出土しており、層位は擾乱されていると考える方が妥当と思われる。

### (3) 南麓南東平坦部 (M~N-55・56・57区) (図版第2, 第8図)

畑地に利用されていた。また南は大浦浜遺跡、東は大浦浜遺跡ヤケヤマ東麓地区に接しており、地区境には段差がある。大浦浜遺跡とは段差が2mあり、地勢からみてR-56・57区と似かよった状況を呈している。表土層は約10~40cmほどの厚さで堆積し、傾斜の緩い斜面である。表土より下の土層の堆積状況は、R-56・57区と似通っており、この地区も大浦浜、あるいはヤケヤマ東麓地区との段差により形成された流れ込みの土層と思われる。

この地区的土層序をM-55~57区東壁で表現することにした。表土は南に向かうほど厚く堆積している。第2層は茶褐色土層で約10~30cmほどの厚さで堆積している。第4層・第5層は色調に違いはあるが、基本的には同一層と思われる。第6層は淡い黄茶色砂質土層で予備調査の第5層と同じ層である。第7層はやや第6層よりも色調が淡くなっている。この層は予備調査の第7層であろう。第8層は淡黄色砂質土層で予備調査の際には検出されなかった土層であるが、基本的には第6・7層と同じ層と考えてもよからう。第3層は花崗岩バイラン土であり、各地区共通の地山層と考えられる。第9~11層は地山の傾斜面に沿って堆積した砂質土層であり、流れ込みの層と見なしして差しつかえないだらう。また各層からの出土遺物であるが、近・現代の磁器が第5層まで出土しており、少なくとも擾乱はこの層まで及んでいると思われる。第6層は無遺物であったが、第7・8層からは、瓦質のこね鉢<sup>(1)</sup>が出土している。

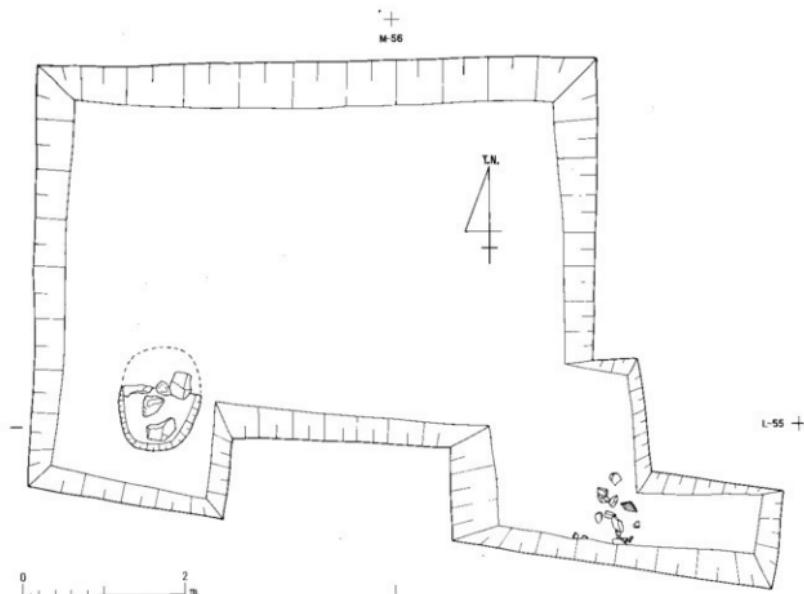
さて予備調査で検出したL字状の溝状落ち込みであるが、予備調査のトレンチを更に南東に拡張した。その結果、落ち込みの反対側の肩は検出されなかった。また落ち込みの傾斜は、大浦浜遺跡やヤケヤマ東麓に向かっていた。さらに石組み状の配石も予備調査で検出した範囲よりも拡大しておらず、しかも規則性もなかった。この結果を踏まえると、石組み状の配石を伴うところの溝状遺構は人為的に形成された遺構ではなくて、段差に伴う落ち込みと思われる。

しかし、ヤケヤマ東麓部と調査地区を結ぶ区域が調査対象外になっていることで、上記の判断は確定していない。出土遺物からみて、この落ち込みは中世の中頃以降に形成されたと思われる。

またN-56区南壁付近で土坑を1つ検出した。第7層を切って作られており、時期的には第7層形成時より遡ることはないと想われるが、出土遺物がないため断定はできない。埋土は褐色土で、灰・焼土塊をふくむ。第7層上面では検出できず、珪質の壁面に掛かっている状態で検出した。拡張して確認すると、現状では南北70cm・東西100cm・深さ約20cmを計る。土坑の北半分が消滅しているが、長軸は南北にあると思われる。性格については不明であるが、この付近で火が使用された可能性が高い。  
(安田)

#### 注

- (1) 第5節(4)第20図参照



第9図 M～N56遺構配置図

#### 第4節 平面的な出土状態（第10図）

ヤケヤマ遺跡における遺物の出土は、旧石器と中世の土器片を中心としている。旧石器の出土は尾根の平坦地に集中し、中世の土器片は尾根の平坦地よりもむしろ南麓の平坦地に目立つ。

第10図は旧石器の出土状況を平面的に図化したものであるが、これより幾つかの傾向が把握できる。

- (1) 旧石器の出土点数はチップを含めると約1,100点であり、このうち尾根の平坦地での出土が90%を超えていている。
  - (2) 1区画あたりの出土はC-5区からG-5区にかけてもっとも密度が濃く、南斜面部においては、尾根の平坦地に設定したR-69区がもっとも出土点数が多い。
  - (3) 発掘中には縦長剝片の出土が多い印象を受けたが、整理の結果横長剝片の点数が多くなり、総点数の約30%を占めている。
- (1), (2)のようにほとんどの遺物が限られた区画に集中している点は、櫛石花見山遺跡<sup>(1)</sup>においてもみられた。
- (安田)

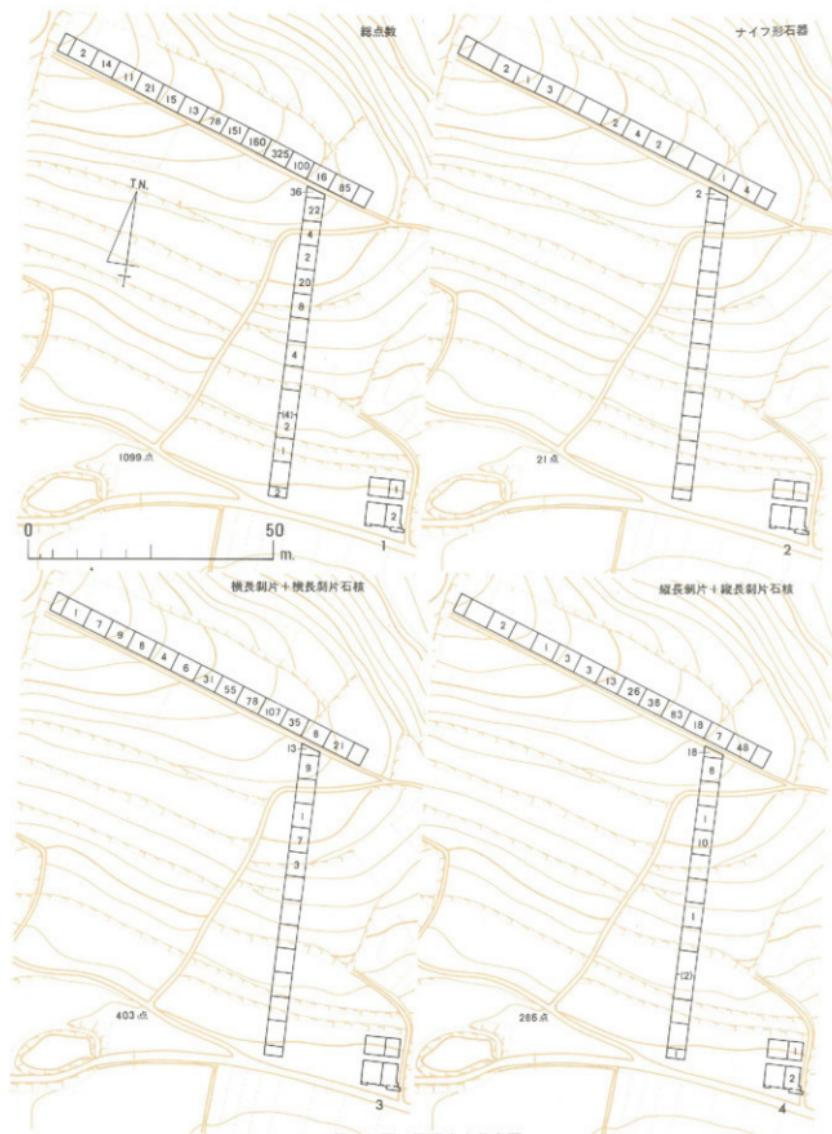
注

(1) 香川県教育委員会「花見山遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)』 1981年3月

| グリッド<br>名 称 | N-5 | M-5 | L-5 | K-5 | J-5 | I-5 | H-5 | G-5 | F-5 | E-5 | D-5 | C-5 | B-5 | A-5 | a-5 | 小 計 |     |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ナイフ型石器      |     |     | 2   | 1   | 3   |     |     | 2   | 4   | 2   |     |     | 1   | 4   |     |     | 19  |
| 石 織         |     |     |     |     |     |     |     | 1   | 1   |     | 5   |     |     |     |     |     | 7   |
| 尖頭 器        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| スクレイパー      |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   | 2   |     |     |     |     |     | 3   |
| 研 石 刃       |     |     |     |     |     |     |     | 1   | 1   |     |     |     |     |     |     |     | 2   |
| 縦 長 刺 片     |     |     | 2   |     |     | 3   | 3   | 12  | 26  | 33  | 76  | 18  | 7   | 41  |     |     | 221 |
| 縦長刺片石核      |     |     |     |     | 1   |     |     | 1   |     | 5   | 7   |     |     | 7   |     |     | 21  |
| 横 長 刺 片     |     | 1   | 7   | 8   | 8   | 4   | 6   | 31  | 53  | 75  | 107 | 34  | 8   | 19  |     |     | 361 |
| 横長刺片石核      |     |     |     | 1   |     |     |     |     | 2   | 3   |     | 2   |     | 2   |     |     | 19  |
| チ ツ プ       |     |     | 2   | 1   | 7   | 6   | 3   | 26  | 63  | 38  | 125 | 45  |     | 10  |     |     | 326 |
| チ ャ ー ト     |     | 1   | 1   |     | 1   | 2   | 1   | 4   | 1   | 1   | 3   | 1   |     | 2   |     |     | 18  |
| ハリ薙安山岩片     |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 2   |     |     |     |     |     |     | 2   |
| 小 計         |     | 2   | 14  | 11  | 20  | 15  | 13  | 78  | 151 | 160 | 325 | 100 | 16  | 85  |     |     | 990 |

| グリッド<br>名 称 | R-69 | R-68 | R-67 | R-66 | R-65 | R-64 | R-63 | R-62 | R-61 | R-60 | R-59 | R-58 | R-57 | R-56 | M-56 | M-57 | 小 計  | 総合計 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| ナイフ型石器      | 2    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 2    | 21  |
| 石 織         | 2    |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      | 3    | 10   |     |
| 尖頭 器        |      | 1    |      |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 2    | 2    |      |     |
| スクレイパー      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 3    |     |
| 研 石 刃       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 2    |     |
| 縦 長 刺 片     | 15   | 6    |      |      | 7    |      |      | 1    |      | (2)  |      |      | 1    | 2    | 1    | 35   | 256  |     |
| 縦長刺片石核      | 3    | 2    |      | 1    | 3    |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 9    | 30   |      |     |
| 横 長 刺 片     | 13   | 9    |      | 1    | 7    | 4    |      |      |      |      |      |      |      |      | 34   | 395  |      |     |
| 横長刺片石核      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 19   |      |     |
| チ ツ プ       |      | 4    | 4    |      |      | 2    |      | 1    |      | (2)  |      |      |      |      | 13   | 349  |      |     |
| チ ャ ー ト     | 1    |      |      |      | 2    | 2    |      | 2    |      | 2    |      |      | 1    |      | 10   | 28   |      |     |
| ハリ薙安山岩片     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 2    |      |     |
| 小 計         | 36   | 22   | 4    | 2    | 20   | 8    |      | 4    |      | (4)  | 2    | 1    | 2    | 2    | 1    | 108  | 1098 |     |

第1表 グリッド別石器出土表



## 第5節 遺物について

今回の調査において出土した遺物は、旧石器時代から近・現代までのものであり、ナイフ形石器、横長剝片、横長剝片石核、縦長剝片、縦長剝片石核、細石刃、尖頭器、ドリル、ショッピング・トゥール、スクレイパー、二次調整のある剝片、石鏃、縄文土器、土師器、須恵器、瓦器碗、輸入磁器、円板状土製品、土錘、近・現代陶磁器などの石器・土器類である。他に銭貨「寛永通宝」が出土している。

地形からヤケヤマ遺跡は、尾根平坦部、南斜面部、南麓平坦部に分けられるが、旧石器の出土は、尾根平坦部に集中する傾向が認められる。

旧石器時代の石材は、サヌカイトを用いるものが、9割以上を占める。サヌカイト以外の石材としては、ハリ賀安山岩とチャートが出土している。ハリ賀安山岩は4点だけで、そのうち2点が石器（小形切り出し状ナイフ形石器、細石刃）である。チャートは28点出土しているが確実な石器は認められない。また、予備調査で黒曜石片が1点出土しているが、今回の調査では検出されていない。

### 1 石器類

#### (1) ナイフ形石器（図版第14・15、第11図）

ナイフ形石器は、完形及び欠損品を含めて21点出土した。ハリ賀安山岩、ナイフ形石器が1点出土しているほかは、サヌカイトをその石材として用いる。

分類は、与島西方遺跡A地区の分類案を<sup>①</sup>基本として、本書の第4章長崎通り遺跡の分類（①類～⑥類）を用いた。以下、遺物番号に従って説明する。

1・2. 横長剝片を利用したもので、底面及びネガティブな面が各1面の剝離面、ポジティブな面が1面で形成されている。ネガティブな面とポジティブな面がほぼ平行して、プランティングはポジティブな面より施されている。「国府型ナイフ形石器」の形態を呈するもので、ナイフ形石器①類に属するものである。1は大形のもので先端部が欠損、基部は自然面を残し、断面台形状を呈する。2は基部が欠損している。先端部と中央部のプランティングは異なる様相で先端部と刃部は鋭く、断面台形状を呈する。

3・4. 横長剝片を利用したもので、背面に複数のネガティブな面をもち、プランティングはポジティブな面からで、刃部に調整加工を施したものである。ナイフ形石器②類に属するものである。3はポジティブな面から、刃部に細かい調整剝離を施す。4は先端部に背面からの調整剝離が認められる。いずれも断面三角形状を呈する。

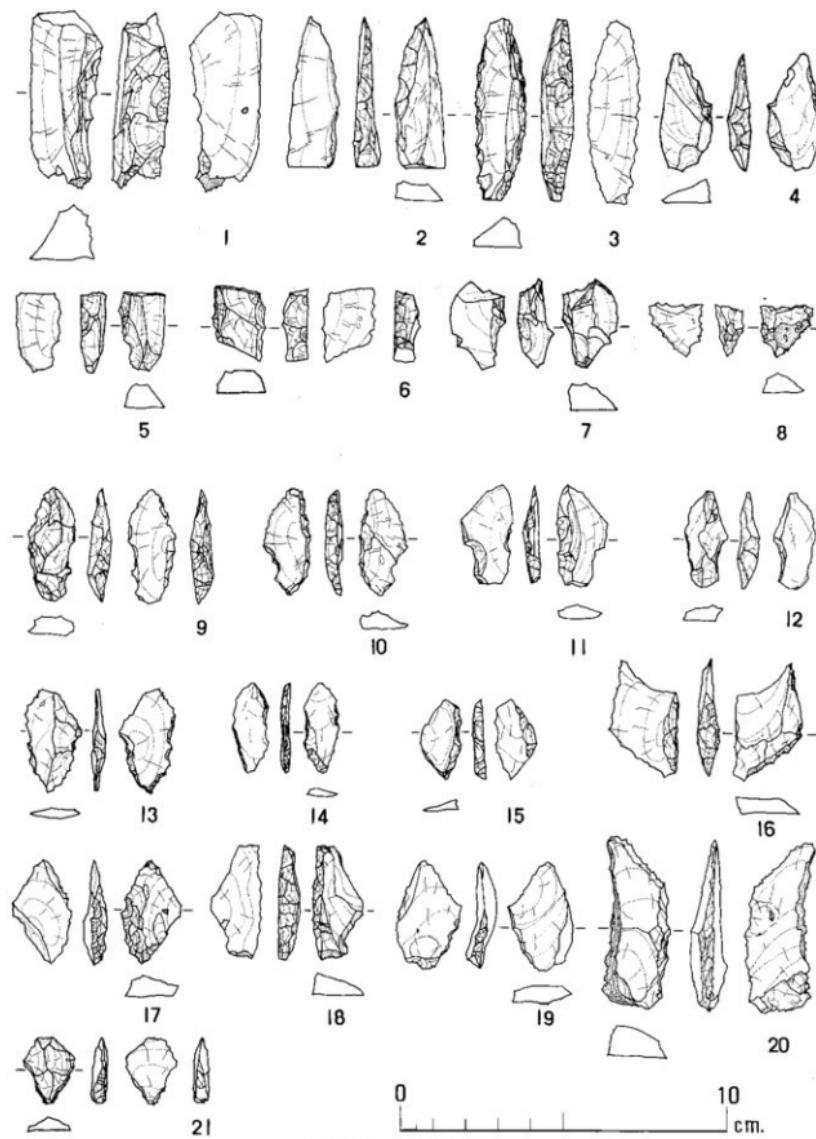
5. 1・2と同じ形態のもので、先端部が欠損、基部に調整を施している。断面台形状を呈する。

6.両端部が欠損、残存状態ではネガティブな面2面と底面1面があり、プランティング及び刃部の調整はポジティブな面からの調整、断面台形状を呈する。

7・8. 不定形な横長の剝片を利用したもので、先端部が欠損している。7は基部に調整を施し、ネガティブな面には粗い階段状の剝離痕がある。8は底面に自然面が残っている。

なお、5～8はほぼ半分以上欠損していると思われるため、分類は避けたい。

9～21. 「切り出し状」に調整を加えたもので、從来「井島型」と呼ばれている小形の切り出



第 11 図 ナイフ形石器実測図

し状ナイフ形石器と類似し、ナイフ形石器⑤類に属するものである。

9～12. 横長剥片を利用したもので、基部を幅狭く調整している。9は背面が粗い剥離で、右側辺に底面があり右刃。調整は両辺ともポジティブな面からで、尖頭器に近い形態を有していて、断面台形状を呈する。10～12は底面1面と複数のネガティブな面があり、両辺とも背面よりの調整で右刃、12は左刃である。断面は不定形な三角台形状を呈する。

13. 横長の薄い剥片を用い、背面に底面1面とネガティブな面3面、基部は背面より細かい調整でドリルとも思わせ、断面レンズ状を呈する。

14. 縦長剥片を利用したもので、打面に連なる右側辺を刃部とし、両側辺に細かい調整がある。断面三角形状を呈する。

15. ネガティブな面とポジティブな面が近接した横長の剥片を利用したもので、打点下方のネガティブな面からの調整で右刃。

16～18・20. 不定形な剥片を利用したもので、16はネガティブな面からの調整、17は平坦打面を残し、16・17は刃部にポジティブな面からの細かい調整剥離が認められる。18は15と同じ形態のもので、調整はポジティブな面からで右刃となる。20は右側辺の調整がポジティブな面からで、左側辺は自然面を残している。断面三角形・台形状を呈する。

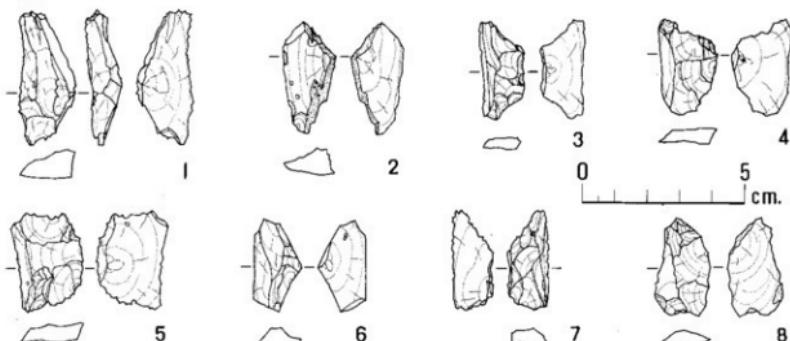
19. 縦長剥片を利用したもので、調整は左側辺のみにポジティブな面からの剥離で左刃。断面台形状を呈する。

21. ハリ質安山岩製の小形の切り出し状のナイフ形石器である。縦長の剥片を利用したもので、背面は複数のネガティブな面で、中央に1本稜線が見られる。V字状の基部調整はポジティブな面からの剥離で、断面三角形状を呈する。

なお、③・④・⑥類に属するナイフ形石器は認められなかった。分類の詳細については第4章長崎通り遺跡を参照されたい。

#### (2) 横長剥片 (図版第16, 第12図)

横長剥片は、総数約390点出土したが、不定形な剥片が多く認められ、小形である。定形な剥片を8点図化した。石材は、灰色の風化面をもつものと白色の風化面をもつサヌカイトが素材であり、前者を多く利用した傾向が認められる。分類は、花見山遺跡の分類案<sup>②</sup>に従って行なった。



第12図 横長剥片実測図

1～8は、灰色の風化面をもつサヌカイトである。

1. 打面調整を有するもので、底面1面、ネガティブな面数面をもつものである。A—I類に属するもの（翼状剥片も含まれる）。本調査では、翼状剥片・翼状剥片石核は認められなかつたが、予備調査で1点出土している。

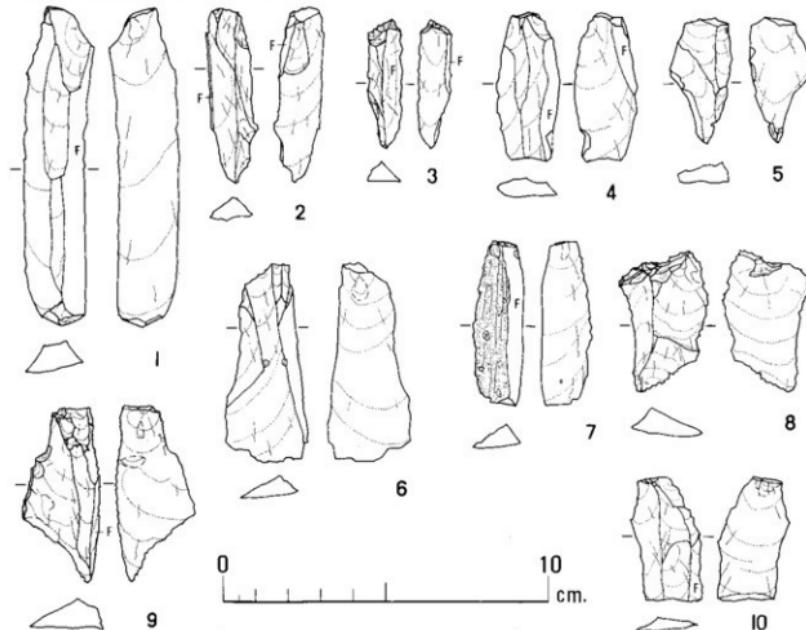
2. 自然面を打面とし、ネガティブな面及びポジティブな面が各1面である。B—II類に含めた。

3～8. 平坦な打面を有するもので、底面1面、ネガティブな面複数のもので、打点のぶれた剥片も含まれている。B—I類に属するものである。

### (3) 縦長剥片（図版第17、第13図）

縦長剥片は、欠損品も含めると約250点出土し、うち10点図化した。完形品の大きさは、長さ3～10cm、幅0.8～3.5cmの範囲内に含まれる。石材はサヌカイトで、白色の風化面をもつものと灰色の風化面をもつものがあり、前者が圧倒的に多く用いられている。

1～6. 白色の風化面をもつサヌカイトを用いている。1は大形のもので、背面の右側にフラットな面をもち、ネガティブな面は4面で下端に剥離痕が見られる。断面台形状を呈している。2～4はフラットな面を有し、背面にネガティブな面を数面もつ。5・6はフラットな面はもたず、背面にネガティブな面を有する。2～5は調整打面、6は平坦打面をもち、断面三角形または四角形状を呈する。



第13図 縦長剥片実測図

7～10. 灰色の風化面をもつサヌカイトを用いている。7は自然面を打面とし、背面に1本の稜線をもち、右面にフラットな面、左面に自然面が残っている。8は調整打面で、ネガティブな面が3面で、1面は逆方向からの剝離痕である。9は平坦打面で、右側にフラットな面を有し、2面のネガティブな面をもつ。10は灰黄色ぎみに風化したサヌカイトを石材とする。平坦打面をもち、右側にフラットな面を有し、ネガティブな面を3面有する。7～10は断面三角形状を呈するものである。

#### (4) 横長剝片石核 (図版第18, 第15図1～3)

横長剝片石核は、総数10点出土し、うち3点図化した。不定形な石核が多く、いずれも小形のもので翼状剝片石核は認められなかった。目的の剝片の剝離痕の大きさが一定していない。

1. 灰色の風化面をもつサヌカイトを用いる交互剝離石核である。a面左側に自然面、d面下端にフラットな面をもつ。作業面はa・c面に認められ、a面右側に2面の互いに逆方向からの剝離痕、c面は左側に3面の剝離痕が認められる。a面下方両側に粗い調整剝離が施され、断面形はレンズ状を呈している。他の石器の未製品とも考えられる。

2. 白色の風化面をもつサヌカイトを用いる交互剝離石核である。a・c面にフラットな面があり、剝片剝離痕はa面右側に1面、c面左側に2面あり上部には階段状の剝離痕が認められる。断面はレンズ状を呈している。

3. 灰色の風化面をもつサヌカイトで、板状の剝片を素材とした石核である。a・c面にフラットな面があり、剝片剝離痕はa面左側のみに2面認められ、b面は調整打面で階段状剝離が見られる。断面三角形状を呈している。

#### (5) 縦長剝片石核 (図版第18, 第15図4～7)

石材はすべてサヌカイトで、総数30点出土し、うち4点図化した。縦長剝片と同様、白色の風化サヌカイトが圧倒的に多く、灰色の硬質サヌカイトは2点であった。

4. 灰色の風化面をもつ硬質のサヌカイトを用いている。e面は調整打面で、b・d面にフラットな面をもち、a・b・d面が剝片剝離作業面で、c面はポジティブな面を呈している。

5～7. 白色の風化面をもつサヌカイトを用いる。5は、c面にフラットな面をもち、a・b・cの三面を剝片剝離作業面として、c面は逆方向からの剝離痕が認められる。

6. 角柱状を呈する石核で、a面に自然面、b面はフラットな面をもつ。a・b・c面が作業面である。b面に階段状の剝離痕が見られる。

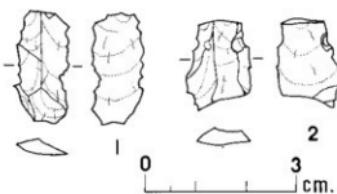
7. 板状の石核である。a面はフラットな面、c面に自然面を残す。b面を作業面とする。

#### (6) 細石刃 (図版第19-1・2, 第14図)

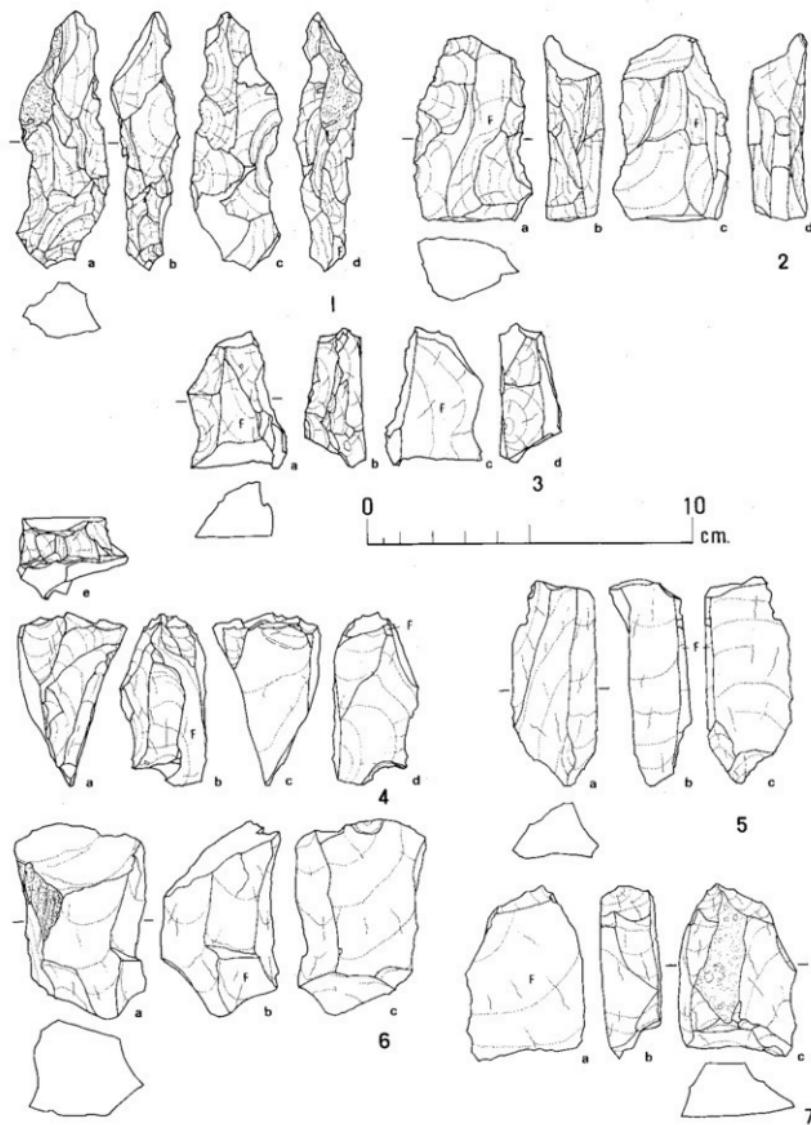
細石器関係の遺物は、細石刃が2点出土したのみである。

1. サヌカイト製である。背面には数面の剝離面があり、先端は鋭い。断面三角形状を呈する。

2. ハリ質安山岩製である。先端部は欠損しており、断面台形状を呈する。



第14図 細石刃実測図



第 15 図 横長・縦長剥片石核実測図

(7) 尖頭器 (図版第19—3・4, 第16図1・2)

サヌカイト製で、2点出土復元した。

1. 有舌尖頭器で、先端部が欠損している。身部の両側縁はゆるやかなカーブを描く。舌部は基部から直線状の縁辺をもつ小さな逆三角形状を呈する<sup>(4)</sup>。両面とも丁寧な押圧剥離が施され、左右均整がとれている。断面はレンズ状を呈している。

2. 木葉形で、中央より上部が欠損している。背面は粗い調整剥離が施され、一部自然面が残る。片面は大きな剥離面からなり、調整は認められない。未製品とも考えられる。断面半月状を呈している。

(8) チョッピング・トゥール

(図版第20, 第17図1)

サヌカイトの自然縫を用いたもので、三角形状を呈している。この三角形の長辺を両面とも数回の剥離で調整している。<sup>(4)</sup> a面はほぼ中央まで剥離が及び、一部細かい剥離が見られる。右側縁は意図的に切断されている。b面はa面同様剥離面が並列し、c面はジグザグで鋭い刃部である。重さは150gと重量感のある石器である。

(9) スクレイパー (図版第20, 第17図2・3)

サヌカイト製のスクレイパーで、2点出土した。

2. 硬質のサヌカイトを石材とする横長剥片を用いたもので、刃部は両面とも調整剥離が施されて鋭くなっている。側面は自然面を残し、片方は意図的に切断し三角形状にしたと考えられる。

3. 石核を再利用したもので、両面とも調整は粗く、一部自然面を残す。白色風化ぎみであるが、刃部は鋭い。

(10) 二次調整ある剥片 (図版第19—5・6・第21—7・2, 第16図3・4, 第17図4～7)

第16図3・4. サヌカイトを石材として用いるものでいずれも先端が欠損している。

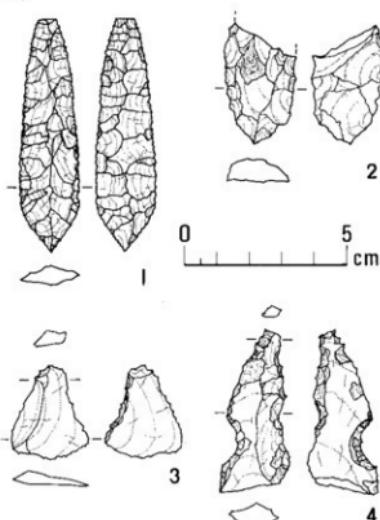
3. 横長の剥片を利用しておおり、背面よりの一側辺のみに粗い調整剥離が認められ、主要剥離面からの調整は見られない。断面三角形を呈する。

4. 縦長の不定形な剥片を利用しておおり、両面とも細かい剥離であるが調整は粗く、先端部の一部自然面が残り、左側辺部に細部調整で抉りが設けられている。断面三角形を呈する。

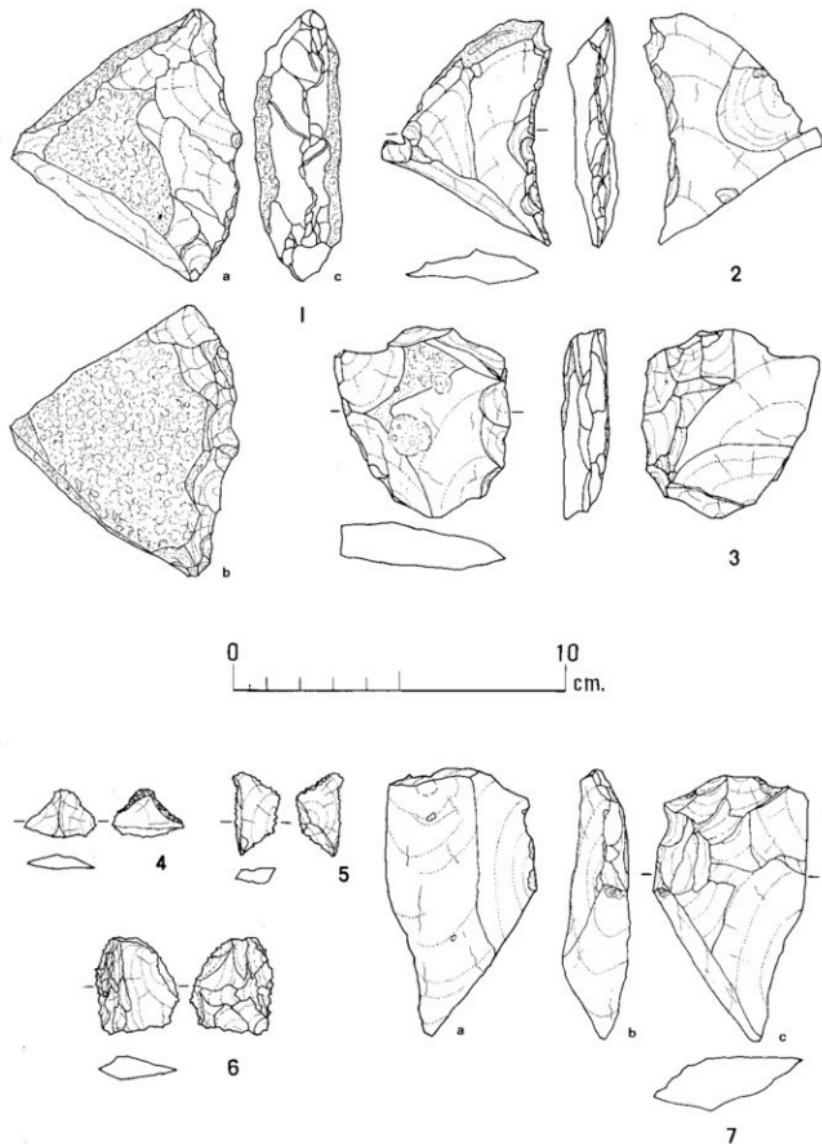
第17図4～7. サヌカイトを石材とし、本来、製品と思われるが不定形で分類しにくいもの・製品であったと思われるが欠損して分類しにくいもの・未製品と思われるものなどを含む。

4. 背面はネガティブな面2面で構成され、主要剥離面は背面よりの細かい剥離が施されている。

5. 調整打面で、背面はネガティブな面1面からなる。左側が欠損しており、ポジティブな



第16図 尖頭器・二次調整ある剥片実測図



第 17 図 チョッピング・トゥール, スクレイバー, 二次調整ある剥片実測図

面に細かい剝離痕がみられる。

6. 両面ともに雑な剝離が認められ、先端は欠損している。第11図17の切り出し状のナイフ形石器と類似している。

7. 石核を再利用したもので、フラットに近い面がa面の右側とc面の右側下部に認められ、c面左側にa面からの粗い調整剝離で刃部を作り出しており、ドリルと考えた方がよいかも知れない。

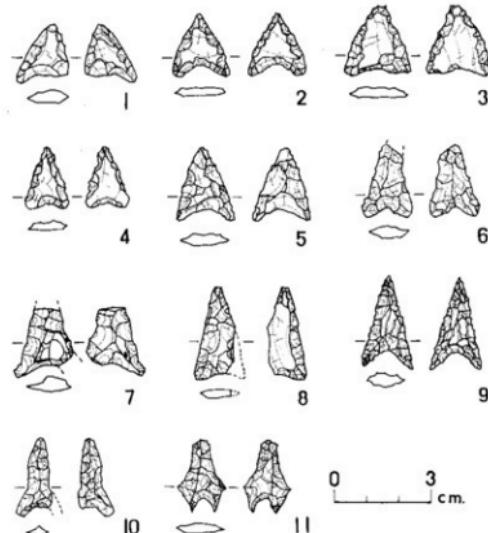
#### (1) 石鏃 (図版第21-3, 第18図)

全てサヌカイト製で、11点出土  
土基化した。凹基無茎式(I類)  
に属するものである。

1～3. ほぼ正三角形で中形  
のものである。3は一方の側辺  
が内彎ぎみで、逆刺部はほとん  
ど調整されていない。1は風化  
が進んでいる。

4～9. 二等辺三角形を呈し  
ている。4は浅い抉りをもつ。  
5～7は両面ともやや粗雑な調  
整を施す。7は片面に階段状の  
剝離面が認められる。8の片面  
には剝離面を残し、先端部及び  
一側辺に調整が施される。9は  
側辺がほぼ直線的で丁寧な調  
整剝離が施され、左右均整がと  
れている。

10・11. ロケット状の五角形  
を呈している。両面ともに調  
整剝離が施される。10は全体的に細身で、風化が進んでいる。11は先端部が丸みを帯びてい  
る。



第18図 石鏃実測図

## 2 その他の遺物

次のような遺物は、石器類と混在して多数出土しており、大半が細片で第I層から検出され  
た。第19図は、1～6尾根平坦部、7～14南斜面部、15～20南麓平坦部に区分し図化したもの  
である。

以下、図化した遺物番号が若干前後するが、遺物について説明する。

#### (1) 繩文土器 (第19図7・8)

R-68区第II層、50数片集中して出土、2片図化した。表面は磨耗が著しいが、胎土・色調  
などから同一個体と思われる。

7・8. 外面に羽状繩文がみられ、色調は淡褐色、胎土は1～2mmの砂粒を多く含み、焼成  
はやや不良である。時期は繩文時代中期と考えられる<sup>(9)</sup>。

## (2) 須恵器 (第19図14)

須恵器は、1点図化した。他は細片で図化できなかった。

R-56区第II層より出土した高台付底部片である。底部より体部に向って外反する。内外面とも回転ナデ調整で、内底面には自然釉。色調は内外面とも灰白色、胎土は1~2mmの砂粒を含み、焼成は良好である。

## (3) 瓦器窓 (第19図15)

瓦器は、1点図化した。他は細片で図化できなかった。

N-56区第III層より出土した口縁部片である。体部より口縁部に向って直線的に立ち上がり、端部は丸い。内外面とも灰黒色を呈し、外面は指頭痕が明瞭に残っており、内面はナデ調整で、太い暗文が施されている。焼成は良好である。和泉型第III期に属するもの<sup>(6)</sup>と思われ、13世紀前半に比定できるだろう。(田村)

## (4) M-55区出土瓦質土器 (第20図)

第20図は、M-55区の第7層及び第8層にわたって出土した瓦質土器のこね鉢である。集石の中から破片となって出土した。片口の形態を示していると思われるが、破片の状態からみて断定はできない。口径33cm・高さ12cm・底径14cmを計る。内外面ともナデ調整を施している。色は灰黒色で、1~2mm前後の砂粒を含み、焼成は悪い。

口縁端部の形態・技法・色調・胎土・器高等から総合的に判断して、この鉢は予備調査の際、落ち込み状遺構の第7層および第8層から出土した鉢の破片と同一個体と思われる。このこね鉢は12世紀末から13世紀前半に比定することができる。(安田)

## (5) 土師器 (第19図9・10)

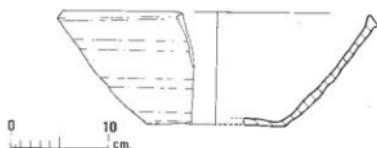
土師器小皿を2点図化した。他の土師器類は、細片及び時期不明の遺物が多数出土している。

9. R-62区第I層出土、ほぼ完形品である。体部は直線的に立ち上がり、内外面回転ナデ調整・底部は切り離し痕がみられるが、糸切りかヘラ切りか不明である。内外面とも、にぶい橙色で、微砂粒を含み、焼成は良好である。

10. R-63区第I層出土、4分の1ほどの破片である。体部は内彎気味に立ち上がり、内外面回転ナデ調整。底部は糸切りかヘラ切りか不明である。内外面とも灰白色で、砂粒を含み、焼成は良好である。



第19図 土器・土製品実測図



第20図 M-55区出土瓦質土器実測図

9. 10の時期については、若干問題があるが中世後半以後と考えられる。

(6) **輸入磁器** (第19図 1・2・11・12・16・17)

白磁・青磁片絶数11点出土 6点図化した。

1. C-5区第I層出土の白磁口縁部で、胎土淡灰色、釉は濁った灰白色である。口縁部は外反している。

2. F-5区第I層出土の青磁皿底部で、胎土淡灰色、釉は淡緑色である。内底に櫛描き文を施し、底部のみ露胎である。同安窯系の皿と思われる。

11. R-66区第II層出土の白磁口縁部で、胎土白色、釉は乳白色である。口縁部は外反している。

12. R-68区第I層出土の青磁碗である。胎土白色、釉は淡緑色である。台形状の高台を有し、高台部から口縁部に向って内彎気味に立ち上がる。体部内外面及び見込み部分に施釉がみられる。

16. N-56区第I層出土の青磁口縁部で、胎土灰白色、釉は緑灰色である。口縁部は外彎気味に立ち上がる。内外面にヘラ状の施文具による沈線と内面に文様を有している。同安窯系と考えられる。

17. N-56区第II層出土の青磁碗体部で、胎土淡灰色、釉は暗緑灰色である。内面にヘラ状・櫛状の施文具による文様を有している。同安窯系と考えられる。

(7) **円板状土製品** (第19図 3~5, 13~18)

円盤状土製品は、直径1cm~5.5cmの範囲で土師器を利用したもの11点、近・現代の陶磁器を利用したもの2点の計13点出土し、うち5点図化した。一部不明もあるが利用遺物より、近世以後に製作されたものと考えられる。

3・4・18. 土師器を利用したもの。3はD-5区第I層出土、直径1.3cm、厚さ0.3cm、重さ0.6gで最も小さい。4はD-5区第II層出土、側面は磨かれて、直径2.4cm、厚さ0.7cm、重さ5.0gである。18はR-56区第III層出土、底部を利用した最も大きいもので、直径5.2cm、厚さ1.9cm、重さ35.8gである。

5・13. 近・現代陶磁器の体部を利用したもの。5はB-5区第II層出土、直径1.7cm、厚さ0.6、重さ2.3g。13はR-62区第I層出土、直径3.1cm、厚さ0.7cm、重さ7.2gである。

(8) **土錘** (第19図 6~19~20)

出土した土錘は、欠損品を含め管状土錘22点、有溝土錘3点の計25点出土し、うち3点図化した。

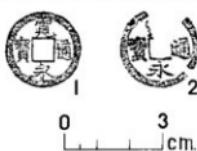
6. E-5区第I層出土の、小形管状土錘で、表面はなめらかに調整されており、長さ3.9cm、幅1.3cm、重さ4.6gである。

19. R-56区第III層出土の、小形管状土錘で、表面は指頭痕により凹凸で、長さ6.0g、幅1.1cm、重さ7.0gである。

20. R-56区第III層出土の、小形有溝土錘で、表面は2~3mmの砂粒が多く含まれている。長さ4.2cm、幅2.8cm、厚さ1.6cm、重さ14.8gである。

(9) **銭貨** (第21図)

「寛永通宝」の2点、D・L-5第I層より出土したものである。



第21図 銭貨拓影

(田村)

## 注

- (1) 香川県教育委員会「与島西方遺跡A地区」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告(Ⅰ)』 1979年3月
- (2) 香川県教育委員会「花見山遺跡ホウロク石地区第1次調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告(III)』 1980年3月
- (3) 増田一裕「有舌尖頭器の再検討」『旧石器考古学22』 旧石器文化談話会 1981年5月
- (4) 同志社大学旧石器文化談話会「ふたがみ——二上山北麓石器時代遺跡群分布調査報告——」学生社 1974年9月
- (5) 真鍋昌宏氏の御教示による。  
香川県教育委員会「大浦浜遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(V)』1982年3月
- (6) 橋本久「瓦器碗の地域色と分布」『摂河泉文化資料 第19・20号』 1980年3月

## 第6節 小 結

ヤケヤマ遺跡は、旧石器が主に出土した地区と、中世の土器が主に出土した地区とに分けられる。それぞれの地区的まとめを述べて結びとしたい。

まず旧石器時代の遺物が主に出土したのは、標高16~20m前後の尾根の平坦地である。ナイフ形石器・スクレイパーの全点数がこの地区より出土している。また横長剝片・縦長剝片も90%以上がこの地区からの出土である。以上の点からみて旧石器時代の遺物が散布する範囲は、本遺跡においては尾根の平坦地に限られるということになる。しかし、製品の出土は層位的にによるものでなく、土層が擾乱されているという事実もある。また細石刃・同石核の出土が期待されたが、細石刃2点にとどまった。

さて他遺跡との比較であるが、花見山遺跡<sup>(1)</sup>では横長剝片が多く、また大浦浜遺跡<sup>(2)</sup>では縦長剝片が多い。しかし本遺跡においては、縦長剝片・横長剝片とともに占める比率は高い。この現象を他の遺跡の性格と関連して考えると興味深いものがある。

次に大浦浜遺跡の中世と関連づけられた南麓の平坦地であるが、中世の遺物が多いのは事実である。しかし土層の項で述べた様に、この地区は大浦浜との比高差があり、中世の土器片と近・現代の土器片が混在しており、さらに目立った遺構もないことを考え併せれば、ヤケヤマ南麓において中世の遺跡が営まれたという可能性は低いと現在のところは考えてもよかろう。

(安田)

## 注

- (1) 香川県教育委員会「花見山遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)』1981年3月
- (2) 香川県教育委員会「大浦遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)』1981年3月

## 第3章 大浦浜遺跡南端調査区

### 第1節 調査の概要

櫃石島の南東部に広がる砂浜がある。大浦浜と呼ばれ、南北約400m・東西60~80mの幅で砂丘が広がっている。浜では零細な畑作が営まれ、後背地の湿地帯では戦後稻作が行われていたこともあった。

この大浦浜では地表に製塩土器の破片が散乱し、場所によっては足の踏み入れ場もないほどである。この製塩土器の散布は古くから知られていた<sup>①</sup>。

瀬戸大橋架橋に伴う埋蔵文化財発掘の事前調査が、昭和55年5月よりこの大浦浜で開始された。その結果大浦浜は、從来知られていた製塩遺跡という性格だけに留まらず、縄文時代前期から中世頃に至るまでの広大な複合遺跡であることが判明した。さらに昭和56年度の調査の結果、大浦浜<sup>②</sup>の南端において古代末から中世に至る時期の遺構・遺物が検出され、大浦浜遺跡が從来考えられていた範囲よりもさらに南に広がっていることが判明した。この成果を踏まえて、遺跡の南限を確認するための調査を実施することになった。

この大浦浜遺跡南端調査区は、「たては」と呼ばれる丘陵が迫り、その東に幅10~20mほどの隘小な砂浜が伸びている。その砂浜の先には岩礁があり、「たては」が海に向かって突き出し、砂浜はそこで途切れている。かつて畠地として利用されていたらしいが、現在では雑草や灌木が繁っている全くの荒地である。

調査はトレンチによる発掘方法を採用したが、途中、後述する石組み遺構が検出されたため、掘削重機を導入して調査区を大規模に拡張した。調査は4月13日より開始し、9月3日に終了した。拡張区画を含め発掘した面積は約610m<sup>2</sup>となる。

調査の結果、判明した事象を列挙しておくことにする。

- (1) 昭和56年度で想定した遺跡の南限よりもさらに20mほど遺跡は南に伸びていた。
- (2) 遺跡は西には広がっておらず、「たては」から流れ出た後世の山土が厚く堆積している。
- (3) 遺跡の南限に、中世前半と思われる石組み遺構が3基発見された。
- (4) 満潮時の汀線と石組み遺構との比高差は80cmほどあり、満潮時にも石組み遺構は水没しない。このことは満潮時の汀線が長崎通り丘陵の裾になるという昭和56年度の指摘と若干異なってくる。
- (5) 本年度も多数の尖底をもつ製塩土器が出土したが、昭和56年度に報告された3-Aタイプは全く出土していない。

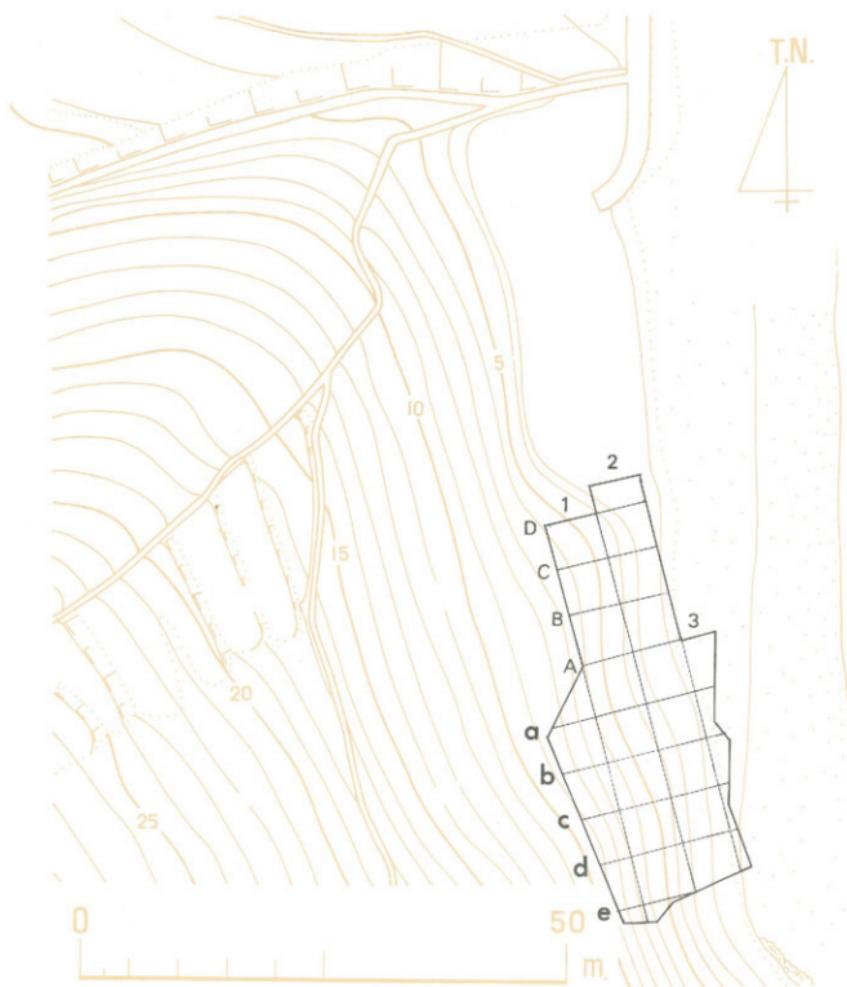
以上が大浦浜南端調査区の主な調査結果であるが、これ以外にも輸入磁器の出土などがあり、大浦浜遺跡の古代末から中世にかけての実態解明に大きな手掛りを残したといえるだろう。

(安田)

注

1 水原岩太郎『師楽式土器図録』昭和14年

2 香川県教育委員会「大浦浜遺跡の調査」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(V)』 1982年3月



第 22 図 大浦浜遺跡南端調査区地形図及び発掘区位置図

## 第2節 調査区の設定と調査方法

本年度における大浦浜南端調査区の調査区設定は、昨年度の大浦浜遺跡発掘調査の際に用いられた基準線を延長する予定であった。しかし架橋工事に伴う工事用の排土が昨年度調査区を覆い、基準杭を埋めてしまったので、昨年度の杭を延長することは事実上不可能となった。

そこで、調査区の地形を考慮に入れたうえで、本州四国連絡橋公団の道路センターライン杭を基準として、基軸線を設定することにした。道路センターライン杭「27K320」(瀬戸大橋建設用の特別座標系 X = 357360, 3797, Y = 848366, 5115) と「27K340」(同 X = 357341, 4816, Y = 848373, 0472) を結ぶ直線を設け、「27K320」の地点において、この直線に対して西に 80° 振る直線を設定した。そしてこの直線上に、「27K320」から 4.603m 進んだ点を設けた。この地点を A-1 というポイント名を与えた。次に、「27K320」の地点より、「27K320」と「27K340」を結んだ直線に対して、今度は東に 90° の角度をとり、同様に直線を設定し「27K320」より 3.038m 進んだ地点を設け、この点を P 点と呼称することにした。この P 地点と先に設けた A-1 地点を結んで、この南端調査区の基軸とすることに決定した。この基軸は、真北に対して、103°50' 西へ振っている。(第23図)

調査区画の単位は 5 × 5 m を単位とし、各単位の名称(グリッド番号)は、グリッドの南西隅の杭番号を代表させることにした。

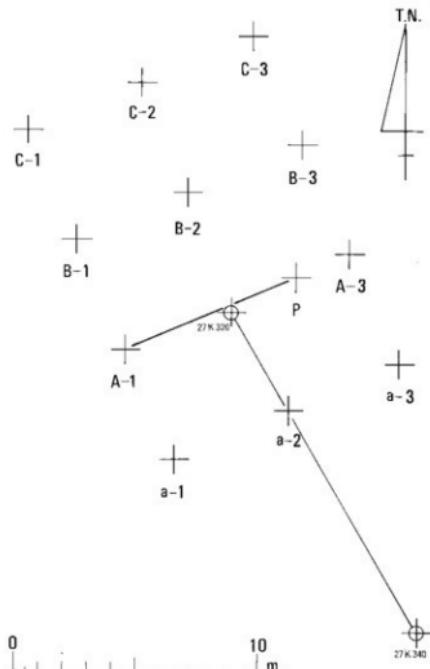
発掘にあたっては、A-1, B-1 区に 2 × 10m, C-1 区に 3 × 5 m, C-2 区に 3 × 3 m のトレンチを、各々 1 本づつ入れ、遺構の検出に応じて、トレンチを拡張する方針をとった。また遺物のとり上げは層ごとに行なった。掘削重機を使用した拡張区は 1 ~ 2 層を一度に除去しているので、この限りではない。

(安田)

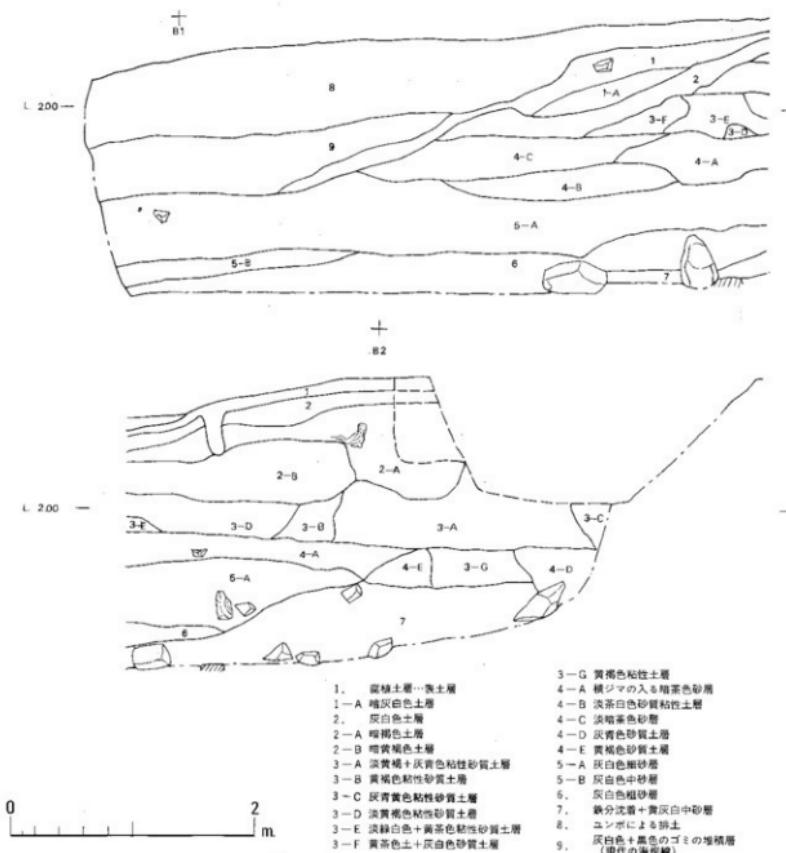
## 第3節 土層と遺物出土状況

この地区の土層を代表して、C-1 ~ 3 区における南壁断面図を示す。

第1層は腐植土層である。近現代の遺物を多数含んでおり、山に向かって厚く堆積している。



第23図 大浦浜遺跡南端調査区グリッド設定図



第24図 C-1～3区南壁土層図

第2層は色調の違いにより2つに分けたが、基本的には同一層と思われ、山から流れ込んだ山土と考えている。まず上層は灰白色土層であり、遺物はほとんど含んでいない。下層は暗黄褐色土層で、厚さ60cmほどに堆積している。輸入磁器も出土しているが、むしろ近世の染付が目立った。

第3層は、黄褐色に灰青色の斑点の入る粘性土層で、乾燥するとガチガチに硬くなる。厚さ40cmほどで、標高2.1mの高さで、ほぼ水平に堆積している。この層からは輸入磁器・瓦質土器・黒色土器を出土している。また上面において石組み遺構を検出している。

第4層は、暗褐色中砂をベースとし、その層に横縞の粘性層が入る層である。この層は山際に近いところでは、水分を多く含んでおり、崩れやすい。20cm～40cmほどの厚さで、標高1.3～1.9mの位置に堆積している。出土遺物は黑色土器・瓦質土器・土師器の小皿などで、この他輸入

磁器も1点出土している。また第3層までにはみられなかった尖底をもつ製塙土器もみられる。

第5層は、灰白色細砂層で50~60cmの厚さで海に向かって行くほど厚く堆積している。遺物は第4層とほぼ同じだが、中世と思われる土師器の椀・小皿などは激減している。また第4層に比べて須恵器片は増加している。

第6層は灰白色の粒の粗い砂層である。この層は湧水が激しい。また遺物をほとんど含んでおらず、磨滅した尖底をもつ製塙土器片が僅かに出土している。

第7層は酸化した鉄分によって、ガチガチに固くなった中砂層である。尖底をもつ製塙土器が多数出土している。黒色土器・瓦質土器・輸入磁器は出土していない。また土師器小皿の破片が1点だけ出土している。反対に須恵器の出土が多い。第3層の下は岩盤であり、遺物は含んでいない。さて、各層の年代観であるが、第7層は古代末までに形成された土層であると思われる。第3・4・5層は古代末から中世中頃までは形成された層とみなしてよかろう。第2層以上は近世の堆積であろう。

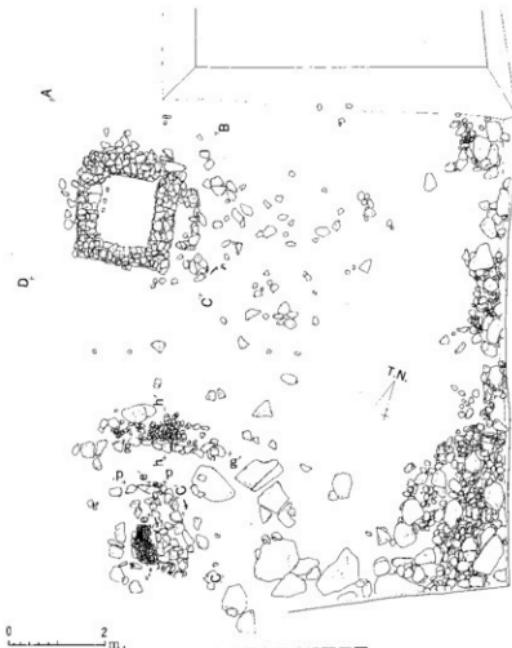
(安田)

#### 第4節 遺構

大浦浜遺跡南端調査地区で三基の石組み遺構を検出した。使用されていた石材は、いずれも幼児頭大以上の大きさ

の安山岩を中心としており、汀線につづく海岸部緩傾斜面につくらわれている。遺構上層には、厚さ2m以上にわたる後世の被覆土があり、また海岸線にそって露岩が散乱することなどより、調査着手前には下部に遺構が存在するとは考え難い地形であった。遺構は北より南に向ってS Z8201, S Z8203, S Z8202とそれぞれ呼称した。三基は近接して築造されており、とくにS Z8202とS Z8203は、わずか1mの至近距離に位置している。

三基ともに緩傾斜面に築かれたものである



第25図 南端調査区遺構配置図

が、周辺にはそれに付属すると思われる遺構は検出できなかった。このことより見れば、これらは本来石組みのみの遺構であったのか、それとも石組みの上部に建物遺構があったのかのどちらかである。類例の増加を待つて考えるべきであるが、現状では建物遺構の下部と考えておきたい。

なお、遺構面上層と遺構周辺より鎌倉時代前半を中心とする遺物が出土している。このことより、三基ともに中世前半を中心とした築造が考えられる。以下、石組み遺構について略述する。

(1) S Z 8201石組み遺構 (図版第3・4, 第27図)

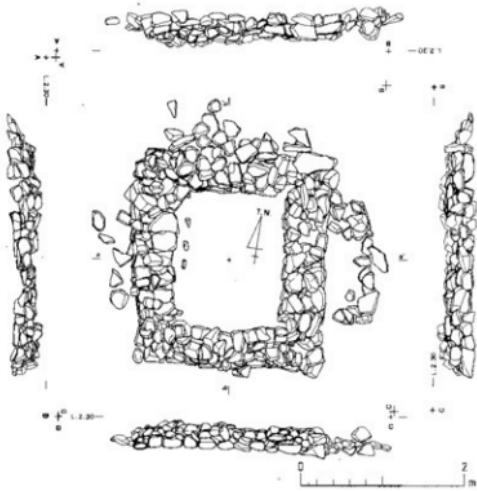
砂層の緩傾斜地に築かれており、内法南北168cm、同東西134cm、外法南北284cm、同東西244cmをはかる。前述したように幼児頭大の塊石を用いているが、石組み遺構内外両面をかたちつくるように方形に二列の石を配置して基底部をつくり、その上部に二~四段にわたって石を積み上げている。二段目より上部は粗雑な石組みとなり、やや内傾している。高さは30~40cmを残していたが、上端面が一定ではなく不規則であるため、本来はさらに高いものであったと思われる。

東・北・西の各辺に張り出し部が認められる。良好なかたちで遺存し、東辺張り出し部は、ほぼ中央にあり、長さ133cm、幅60cmをはかる。かたちとしては「コの字」型に石を配したものである。二段程度の石組みが遺存する部分もある。

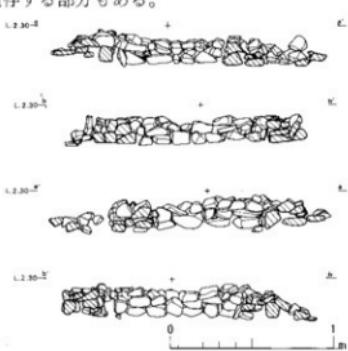
検出当時には、石組み遺構内部に多量の幼児頭大の安山岩が不規則なかたちで散乱していた。意図的に配置したものとは考えられない状態であった。

(2) S Z 8202石組み遺構 (図版第3, 第28図)

鉤の手に配置された状態の石列を検出した。東西長143cm、南北長196cmをはかり、南北石列は約40cmの間隔をもって二列に配置されている。これらはS Z 8201の状態よりみて方形石組みの北辺および、東辺であり石組み遺構の基底部と思われる。東辺内側石列に接して粘板岩系の石の集積がみられた。拳大の大きさのものであり、



第26図 南端調査区石組み遺構 S Z 8201実測図

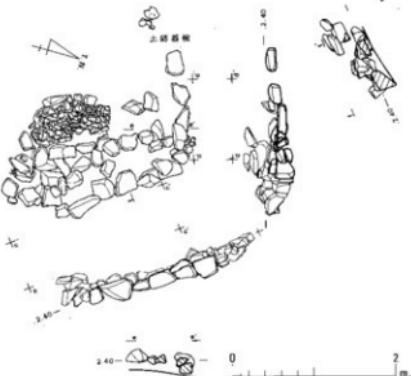


第27図 南端調査区石組み遺構 S Z 8201断面実測図

規則性は認められない。

(3) S Z 8203石組み遺構 (図版第3, 第29図)

S Z 8203の北側で幼児頭大の安山岩を一列に配置した状態で検出した。方形の石組み南辺を検出したことになると思われる。一部分に二段目の石が遺存していたが、そのほかは崩壊している。石列は全長240cmをはかるが、その北側に接して粘板岩系の石の集積が認められた。このことと、前述したS Z 8202の状態から考えて、S Z 8203の石列は方形の石組みの北辺内側石列に相当すると思われる。



第28図 南端調査区石組み遺構S Z 8202実測図

S Z 8201・02・03は海岸部の汀線に接して築かれた石組み遺構であり、地形に応じてその配置はやや内湾して南北に並んでいる。いずれも安山岩を使用した石組みであり、S Z 8201を例にしてほぼ同一形態をとる遺構と考えられる。S Z 8201は284×244cmの規模であり、30~40cmの高さを残していた。検出状態からみて、本来の高さは現状よりそれほど増加しないと考えられる。石列は基底石を含めて内外ともに面を合わせることを意図している。

三基の石組み遺構は、いずれも現海岸線より10mほど奥まった標高2m前後の地点に築かれている。満潮時には海面より約0.8m上位に位置する。

調査で明確な根拠は得られなかったが、立地・構造などより漁撈活動に関係する建物下部構造が堆定される。

(廣瀬)

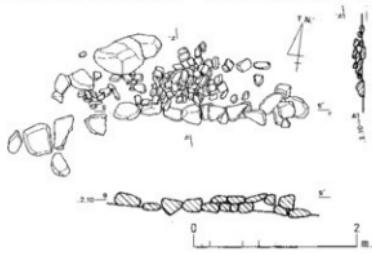
## 第5節 遺 物

### (1) 須恵器 (第30図)

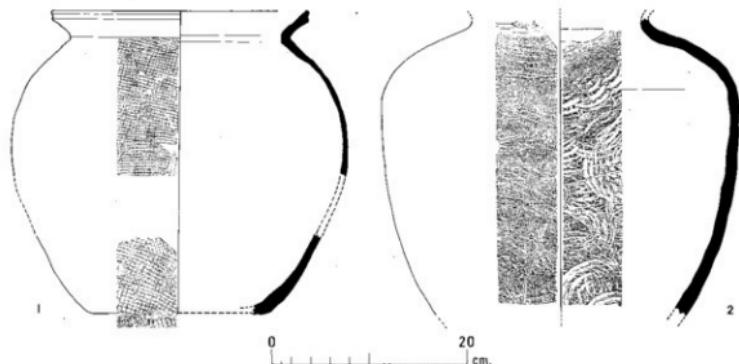
南端調査区より出土した須恵器は、大半が小さな破片で、しかも磨滅が進んでおり、図上復原可能な壺片が僅か2点あるのみだった。出土層は、第3層・第4層・第5層・第7層であり、各層の出土状況を破片数及び個体数で表わすと、第3層の破片数は5個であり、個体数は3点となった。以下、第4層は5個で個体数は3点、第5層は9個で4点、第7層は破片数は19点と数から見れば多いが、個体数は2~3点と思われしかも磨滅している。破片数は下層になるにつれ増加している。

出土した破片の器種は、壺・甕がもっとも多く、その他に杯・高杯・平瓶が目立つ。

1. 第3層下層、第4層上層、石組み遺構と同じ面から出土した甕である。体部が欠損しているので器高は推定によるものである。口径27cm・底径9cmを計る。灰白色を呈し、焼成は普通である。胎土は1~2mmの微砂粒を含んでいる。口縁部は「く」の字に外反する。底部の形状は平底と思われる。体部内外面ともにタタキ目を施しているが、内面は同心円文をナデ消し



第29図 南端調査区石組み遺構S Z 8203実測図



第30図 南端調査区出土須恵器実測図

ていると思われる。

2. 第7層より出土した壺の体部である。外面は黒灰色を呈し、内面は灰白色である。焼成は良い。体部内外面ともにタタキ目を施しているが、外面は消されている。しかし意識的な消し方ではないと思われる。肩部の張りが強い。

さて、1の壺は須恵質の亀山焼<sup>(1)</sup>と考える。時期については中世前半と思われるがさらに詳しい検証が必要となろう。

(安田)

#### (2) 土師器・黒色土器・瓦質土器 (第31図)

南端調査区における土師器・黒色土器・瓦質土器は、第3層から第7層にわたって出土している。第3層から土師器小皿・椀・黒色土器などが出土しているが、点数は少なく、ほとんどが破片である。また石組み遺構の中からも土師器小皿などが出土している。第4層から出土するものは土師器小皿・椀の数が圧倒的に多い。第5層から出土するものは土師器小皿・椀の数が減少し、壺・壺の破片数が増加する。第6層出土遺物は磨滅した土師器の細片のみである。第7層出土遺物は古墳時代・奈良時代・平安時代の土師器片が主流となっており、中世の土師器小皿破片が1点のみ出土している。

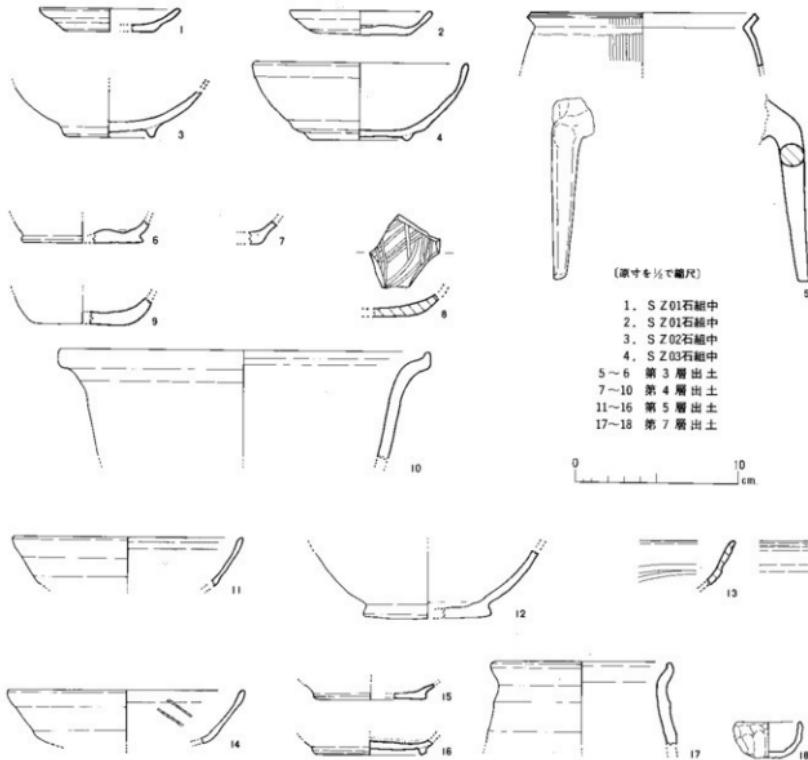
出土した土師器・黒色土器・瓦質土器は破片ばかりで、完形品は1点もなかった。しかも磨滅が激しく、調整が判然としないものがほとんどを占めており、図上復原できたものは僅かである。

第31図1~17は、各層から出土した遺物である。

1~2. S Z8201より出土した土師器小皿である。器壁は薄く浅い形態を示している。底部は平底になっており、体部途中よりゆるやかに外反し、口縁端部はやや肥厚している。調整はナデ調整と思われ、2は底部に板目状压痕を残している。

3. S Z8202より出土した土師器の椀である。磨滅し、器壁が剥落しかけており調整については不明である。なお高台の断面は三角形を呈している。

4. S Z8203に近接して出土した土師器椀である。磨滅は著しいが、おそらくナデ調整を施したと思われる。高台は粗雑に貼り付けている。



第31図 南端調査区出土土師器・黒色土器・瓦質土器実測図

5. 第3層下層より出土した土師器の羽釜である。口縁端部に櫛状の工具による2条の沈線をもち、頸部は「く」の字に外反している。器壁外面はハケで、頸部はナデで調整されている。体部下半には格子状のタタキ目が残っており、また煤が付着し器壁外面は黒ずんでいる。

6. 第3層より出土した椀の底部である。底部は平底である。内面は回転ナデを施している。

7~10. 第4層よりの出土である。7は土師器小皿の底部である。ゆるやかに外反しながら立ち上る。8は瓦質土器の皿である。外面はナデ調整を施しており、内面には不規則な暗文がみられる。9は土師器の杯の底部と思われる。底部は部厚いが体部は次第に器壁が薄くなっている。底面はヘラ切り痕が残っており、内外面ともにナデ調整が施されている。10は土鍋の口縁と思われる。口縁端部は直立している。内外面ともにナデ調整が行われているが、磨滅が著しいため明瞭ではない。

11~16. 第5層より出土した。11は黒色土器の椀である。外面は薄茶色を呈している。内面はヘラ磨きが施されている。口縁はやや肥厚している。12は土師器の椀の底部である。磨滅が

著しく調整は不明である。13は瓦質土器の椀の口縁部である。明確な沈線を施しており、内面はヘラ磨きが施されている。14は黒色土器の椀の口縁部である。口縁端部は少し肥厚し、体部途中からやや外反ぎみに立ち上っていると思われる。内面は磨かれており、暗文がみられる。15は黒色土器皿の底部と思われる。底部は上げ底気味で、体部の下半で外反している。外面は体部にナデを施し、底面は回転ヘラ切りを施している。内面は磨きをしている。16は黒色土器の椀の底部であり、三角形のしっかりとした高台を貼り付けている。底部内面は磨きが施されている。

17・18、第7層より出土した。17は土師器の壺の口縁部である。口縁端部は直立している。頸部は「く」の字形にゆるやかに外反している。内外面はナデ調整を施している。

18. ミニチュア土器である。手捏ねで、外面には指頭圧痕が著しい。祭祀に使われたと思われるが、時期については後世の流れ込みの可能性もあり不明である。

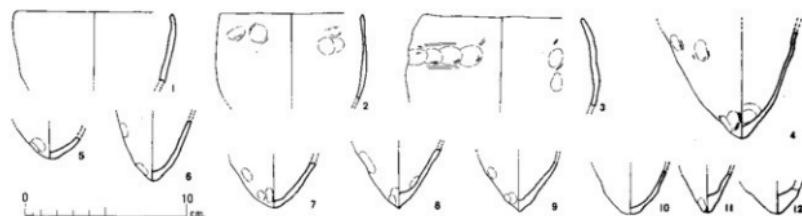
### (3) 製塙土器 (第32図)

調査区より出土した製塙土器は、総重量11.67kgである。この内訳を見ると、丸底で口縁部にタキを施す形式を指標とする古墳時代後期の製塙土器が約1.84kg、一方、奈良時代以降に製作、あるいは使用されたと思われる尖底をもつタイプが約9.8kg出土している。古墳時代の製塙土器は、尖底を持つタイプと同じ包含層から出土しており、流れ込みなどによる後世の二次堆積と判断してよからう。

尖底をもつ製塙土器は、第4層、第5層、第7層から出土している。各層の出土重量は第4層が0.06kg、第5層が3.53kg、第7層が6.34kgとなっている。いずれも細片で、図化可能な製塙土器は極めて少ない。口縁部の器厚は3~4mm前後のものがもっとも多い。器表は肌荒れし、器壁は剥落している破片が目立つ。しかし、製塙土器特有の炭酸カルシウムの付着した口縁は出土していない。口縁部の色は茶褐色ないし赤褐色である。端部の形態は不整形であり波打ち、調整は指によるナデを施している。胎土は1~2mmの砂粒を含んでいる。

口縁部の形態を3タイプに分類し、各層ごとに比較してみた。まず口縁端部が内彎するタイプは、第4層では5g・第5層は776g・第7層は703gとなった。これを各層の出土口縁部総重量に占める比率に換算すると、第4層は100%、第5層は約93%、第7層は約91%となる。次に口縁部がほぼ直立するタイプに同様な作業を施した結果、第5層は45gで約5%、第7層は57gで約7%となった。また口縁部が外反するタイプは第5層で17g、第7層で15gであり、それぞれ2%を占める。破片数の多寡からみてみると9割以上が角度の差はあるが内傾しているという結果を得た。一方尖底部の破片は第5層より12個・第7層より11個出土したが、いずれも細片のために、立ち上りの角度などは計測できない。つぎに底部の形態・技法の共通する特徴を述べてみたい。外面は淡黄褐色もしくは茶褐色が大半を占めているが、ピンク色に変色している破片も第5層から1点出土している。内面も外面同様の色調を示している。外面が、荒れて脆くなってしまい、口縁部同様器壁が剥落している破片も多い。先端部の形態は多様であるが、破損・磨滅が著しい。外面には先端まで指頭圧痕が残っている破片が多い。内面にヘラ状圧痕を残しているもの、指による圧痕を残しているものの二種類が存在するが、層位的な違いは見受けられなかった。成形は尖底部を指先で捻り出していると思われる。しかし、半截して観察を行っていないので、先端部貼り付けの技法が存在する可能性もある。

1~3までは、口縁部である。1・2は第5層、3は第7層よりの出土である。器壁の外面に指頭圧痕が残り、3は内面にも残っている。口径は復原値で10cm前後と思われる。4~12は



第32図 南端調査区出土製塩土器実測図

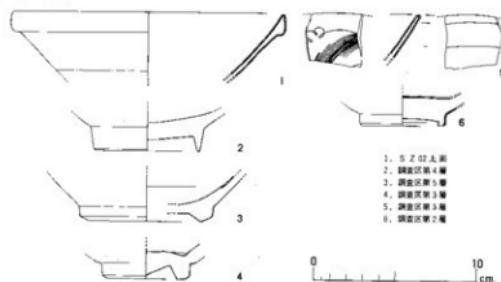
いずれも底部である。5～8は第5層、4・9～12は第7層より出土した。

さて、昨年度の調査概報で南端調査区出土の製塩土器を三タイプ<sup>(2)</sup>に分類しているが、今年度調査区においては、いわゆる1-Bタイプが各層ともに主流を占めている。また3-Aタイプは全く見られず、胎土もAタイプほどに顕著に金雲母を含んでいない。このため、第4層・第5層・第6層から出土した製塩土器の大半は後世の流れ込みによる第二次堆積の土器と思われ、各層の年代観を示すものではないとすべきであろう。ただ第7層出土の製塩土器については、今後の検討が必要となろう。

(安田)

#### (4) 輸入磁器 (図版第4-3、第33図)

8片が出土した。第33図1～4は白磁碗である。1は玉縁状を呈する口縁部の破片であり、白色の胎土をもって透明なガラス質の釉をかけている。2～4は底部の破片である。灰白色の胎土をもち、透明に近いガラス質の釉をかけている。大宰府での分類で碗IV・VII類に相当するものだろう。



第33図 南端調査区出土輸入磁器実測図

5は青磁碗の破片である。灰白色の胎土をもち、体部内面に櫛描き文を施している。外面には一条の線刻がある。

(廣瀬)

#### (5) 漁具 (第34図)

本年度の南端調査区で出土した漁具は、土錘13点、蛸壺9点である。土錘は大形有溝土錘が10点、小形有溝土錘が3点出土している。大形有溝土錘は第3層から3点、第4層から6点、石組み遺構から1点出土した。一方小形有溝土錘は全て第4層から出土している。このうち、図化したのは復原可能な土錘のみで破損率は10%を超えていないものばかりである。

1～5までは大形有溝土錘であり、破損率を考慮に入れない現状のまでの重量は260～340gの幅をもっている。しかし、破損している土錘に関して復原重量を推定してみると、330g前後がもっと多くなる。

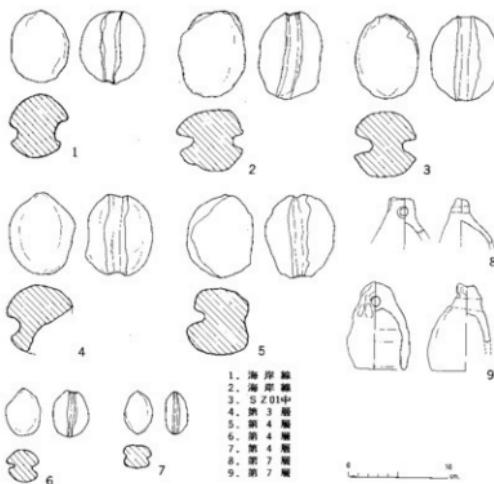
6～7までは小形有溝土錘である。重さは60g前後となり1～5の大形有溝土錘に比べて18%ほどの重さとなる。

蛸壺は、破損が著しく、口縁部まで残っていたのは、僅かに1点を数えるのみで、他は小砂片が目立つ。また磨滅も著しく、図化できたのは、8・9の2点だけである。

今回出土した大形有溝土錘は、昨年度概報で報告された土錘と同じ形状を示している<sup>(3)</sup>。また出土が第4層以上までに集中していることから、古代末～鎌倉時代前半以降に使用されたものと思われる。  
(安田)

## 注

- (1) 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所  
「尾道市街地発掘調査概要」尾道市教育委員会 1979年
- (2) 香川県教育委員会「大浦浜遺跡の調査」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(V)」1982年3月
- (3) 同上



第34図 南端調査区出土漁具実測図

## 第6節 小 結

大浦浜南端調査区における本年度の成果は以下の通りとなる。

- (1) 大浦浜遺跡の南限が確認できた。
- (2) 鎌倉時代前半と思われる石組み遺構が3基確認できた。
- (3) 尖底をもつ製塩土器が昨年度に続いて出土した。

このうち(1)については、大浦浜遺跡は昨年度予想した南限より南へさらに20m伸びていた。また南限は「たては」の麓と一致するということが判明した。(2)に関して、この遺構の性格については今後の検討に待つ比重が高い。しかし昨年度報告された湧水溜めと称される集石遺構とほぼ同じ時期のものと考えられる点からみて、改めて二つの遺構群を関連づけて検討する必要があると思われる。(3)については昨年度概報で報告された口縁が、外反し金雲母の含有が多い3-Aタイプがほとんど出土しておらず、むしろ1-bタイプが主流を占めているということが判明した。  
(安田)

## 第4章 長崎通り遺跡

### 第1節 調査の概要

長崎通り遺跡は、櫃石島南端部に位置し、「たては」の丘陵頂部を経過して南へとなだらかに下っていく尾根筋に立地する。東西両側は海岸線に向かっての急斜面であり、特に西側は急で、一部絶壁となっている所もある。

標高は20~25mを測り、南東の眼下には歩渡島が見える。また、住民の信仰対象となっている「櫃岩」、「島内十七番札所」が南と北にそれぞれ隣接している。

この長崎通りは以前から旧石器散布地として知られているが、櫃石島では旧石器時代の遺跡が3箇所全面調査されている。

1つは、櫃石島北東端部に位置する北浦遺跡<sup>(1)</sup>で、ナイフ形石器・削器・石鏃などが少量であるが出土している。

島の中央丘陵頂部に所在する花見山遺跡<sup>(2)</sup>では、ナイフ形石器・縦長剝片・同石核・細石刃核・細石刃・尖頭器などが出土し、後期旧石器時代の各期の存在が考えられる遺物組成となっている。

また、島の最高所から南に延びた尾根筋に立地する大浦遺跡<sup>(3)</sup>は、縦長剝片・同石核・細石刃・細石刃核が多く出土し、旧石器時代終末期に位置づけられるような特徴を示している。

長崎通り遺跡の予備調査<sup>(4)</sup>は昭和52年に実施され、旧石器の散布が改めて確認された。特に、標高24~25mの地域（「高台地区」と呼称）が注目されるところであった。

そこで今回の調査は、旧石器の出土状況の把握に主眼を置いて、5月28日より開始し、9月17日に終了した。

まず北トレント（0~47~50）から着手し、主軸トレント（P~21~38）、東斜面部トレント（K~0~31）、高台地区（N~P~39~46）、古墳検出地区（M~0~20~25）の順で進めていった。7月中旬~8月中旬には、本調査区域に隣接する「櫃岩周辺地区」（P~Q~17~19）と「南東斜面部地区」（J~L~21~23）の確認調査も併せて実施した。

当初予想していた以上に遺物（石器）の出土量は多く——花見山遺跡・大浦浜遺跡に比べれば圧倒的に少ないが、——ナイフ形石器をはじめ、横長剝片・同石核・縦長剝片・同石核・細石刃・細石刃核・尖頭器・スクレイパー・ドリル・叩き石・石鏃などが出土している。特に細石刃・細石刃核が出土し、縦長剝片・同石核が比較的多かった点は注目されるところである。

調査の後半になって、東側斜面部にかかる地域より横穴式石室と周溝とを検出した。（林）

注

- (1) 香川県教育委員会「北浦遺跡」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(III)」 1980年3月
- (2) 香川県教育委員会「花見山遺跡の調査」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)」 1981年3月
- (3) 香川県教育委員会「大浦遺跡の調査」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)」 1981年3月
- (4) 香川県教育委員会「櫃石島の調査」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財予備調査報告(II)」 1978年3月



第 35 図 長崎通り遺跡地形図及び発掘区位置図

## 第2節 調査区画設定と調査方法

調査区画の設定にあたっては、尾根筋に主軸トレンチが設定できることと、 $5 \times 5\text{ m}$ を区画単位として調査区全域を網羅できることに配慮した。

そこで、本州四国連絡橋公団の道路センターライン杭を基準として、尾根筋に主軸線を設定することにした。道路センターライン杭〈27K600〉(瀬戸大橋建設用特別座標系 X=357093.6314, Y=848451.3741) と〈27K620〉(同 X=357074.3442, Y=848456.6659) の中点を通り、線分〈27K600〉—〈27K620〉に対しても西へ20度ふる直線を主軸線とした。この主軸線は当然にも尾根筋を通るように考慮されており、P列と呼称し、前記中点に P31というポイント名を与えた。すなわち、東から西へ A～Z、南から北へ 1～と表示し、調査区全域が含まれるようにするためである。 $5 \times 5\text{ m}$ の各区画については南東隅の杭番号をグリッド番号とすることにした。(第36図)

主軸線にそって、南から北へ P-21～38 と 0-47～50 のグリッドをつくり、標高24m以上のいわゆる高台地区は全面発掘するため、N～P-39～46の24グリッドを設けた。K～0-31の5グリッドは東斜面部確認のため設定したグリッドである。また、M～0-20～25の18グリッドは、N-22で石室の一部を検出したその後全容を把握するために拡張したグリッドである。

なお、本調査区域外に隣接する「樅岩周辺地区」(P～Q-17～19) と「南東斜面部地区」(J～K-21～23) を確認調査するにあたり、前者では主軸線にそって南北 9 m・東西 8 m、後者では南北 12 m・東西 12 m を各々 4 区分する区画設定を行なった。

次に、調査方法について簡単に触れておくことにする。

主軸トレンチ、高台地区、北トレンチ、東斜面部トレンチの計 51 グリッドにおいては、第 1 層を検土にかけ、各グリッドごとに遺物を一括して取り上げた。第 2 層以下では、1 グリッドを 4 区分して逐次遺物を取り上げていく方法を用い、検土にはかけなかった。なお、遺物出土地点に串を立て、平板実測とレベル計測を行う従来の方法は採用しなかった。

M～O-20～25 および P～Q-17～19、J～L-21～23 の計 26 グリッドについては、層位ごとに順次掘り下げていく発掘方法で進めた。



第36図 主軸線設定図

### 第3節 土層と遺物出土状況

#### 1 土層と垂直的出土状況

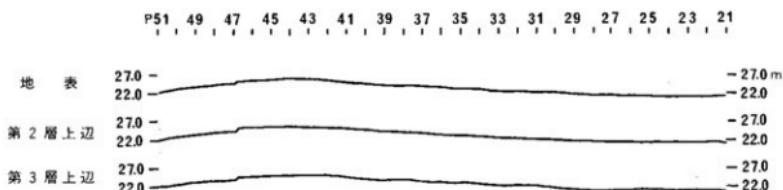
土層は土壤の種類によって3層に分類される<sup>(1)</sup>。

第1層は有機物に富む層である。上位にはいまだ落葉等の面影をとどめる腐葉層(1a)があり、下位には1aより土壤化のすんだ腐植土(1b・1b1)がある。層厚は15cm前後の場合が多いが、40cmになる場合もある。この第1層より石器の約1/4が出土している。

第2層は花崗岩のマサが風化して土壤化した層である。褐色粒を含み、その密度とベース土の粗細により細分した(2a・2b1)。層厚は60cm前後が多いが、10cmと浅いところもある。石器の約1/4がこの第2層より出土している。

第3層は花崗岩のマサである(3a・3a2)。この層は遺物を含まない。

第2層上面は表面地形とほぼ等間隔に連なっている。第2層と第3層の境は風化の浅深により波状に走っているが、図上で均らしてみると第37図のように表面地形とほぼ等間隔に連なる。



第37図 土層模式図

第1層は木葉や草木の腐植による土壤で、堆積土である。しかし、年々、厚さを増すことはなく、雨風などによって侵食をうけ低所などへ運び去られる場合が多い。第2層は横石島を形成する花崗岩のマサが風化をうけてできた土壤である。従って、風化がすすまない限りこの層厚は増加しない。斜面部(K~N-31)では少し流れ落ちがみられるが、尾根筋の平坦部では自然的な水平移動はみられない。尾根筋における土層で擾乱をうけていることが現在判明するのは、まず、P23・24の東方において古墳の石室建造にともなう第2層下位に達する擾乱である。次には、大正10年代に開墾がなされ除虫菊が栽培されていた<sup>(2)</sup>場合である。その範囲は、L-23に設けられていた野菜をかなめとして尾根上にまで広がっていたと思われる。しかし、N-20よりO-22を経る南東-北西方向に岩脈が、第2層上位を上辺として走っており、一方、高台地区(N~P-39~43)のN・P41には大小の花崗岩の岩塊が第2層中に含まれている。この2点より、P22以降と地形的に一体と考えてよい高台地区には擾乱が及んでいないと推測される。

高台地区で注意されることは、最高所にあたるO-43で腐植土(1b)を欠くことである。これは、O-43からくるゆるく傾斜するN43付近の1bが10cmと浅いように、それは浸食によるものである。人為的な原因によるものではない。次に、P-39の第2層は高台地区的他のグ

リッドに比し石英小粒が非常に少なく、粘性が強い。これは、この付近で特に風化が強く働いたことによるものであろう。

垂直的な遺物出土状況を横長剝片600点を例として<sup>(3)</sup>、平面分布の観点を加味して考察してみる。第2層上層は第1層直下、第2層下層は第3層直上、第2層中層は上・下層の間とした。このため第2各層の厚さは、かならずしも均等ではない。しかし、第1層から27.5%、第2層中層から63.1%という垂直的分布状況が知られる。

| 層         | P    | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27   | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39   | 40   | 41   | 42   | 43   | 44 | 45             | 46           | N-39 |
|-----------|------|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|------|------|------|------|----|----------------|--------------|------|
| 第1層       | 0    | 3  | 2  | 0  | 3  | 0  | 0  | 0    | 0  | 6  | 2  | 2  | 0  | 1  | 0  | 0  | 10 | 5  | 2  | 0    | 3    | 3    | 0    | 14   | 13 | 9              | 0            |      |
| 第2層<br>上層 | 0    | 0  | 2  | 3  | 1  | 0  | 1  | 0    | 0  | 0  | 2  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0    | 7    | 0    | 4    | 0    | 0  | 0              | 0            |      |
| 第2層<br>中層 | 1    | 0  | 1  | 1  | 1  | 0  | 0  | 2    | 2  | 1  | 1  | 3  | 2  | 1  | 5  | 13 | 11 | 10 | 47 | 48   | 4    | 5    | 61   | 2    | 2  | 0              | 1            |      |
| 第2層<br>下層 | 6    | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0    | 0  | 0  | 2  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0  | 0              |              |      |
| 計         | 7    | 4  | 5  | 4  | 5  | 0  | 1  | 2    | 2  | 7  | 7  | 5  | 2  | 2  | 5  | 13 | 22 | 15 | 50 | 48   | 7    | 15   | 61   | 20   | 15 | 9              | 1            |      |
| 層         | N-40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 0-39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | O-31 | N-31 | M-31 | K-31 | L-31 | 不明 | 合計             |              |      |
| 花1層       | 5    | 7  | 9  | 3  | 7  | 11 | 1  | 0    | 1  | 1  | 11 | 4  | 0  | 4  | 2  | 0  | 2  | 0  | 0  | 1    | 7    | 3    | 2    | 6    |    | 165<br>(27.5%) |              |      |
| 第2層<br>上層 | 0    | 1  | 0  | 0  | 1  | 0  | 3  | 0    | 3  | 0  | 12 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 5  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0  | 0              | 45<br>(7.5%) |      |
| 第2層<br>中層 | 17   | 0  | 3  | 5  | 1  | 4  | 3  | 19   | 12 | 2  | 26 | 19 | 9  | 4  | 11 | 0  | 2  | 7  | 2  | 4    | 0    | 2    | 1    | 0    |    | 378            |              |      |
| 第2層<br>下層 | 9    | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0    | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0  | 11<br>(1.8%)   |              |      |
| 計         | 22   | 7  | 13 | 8  | 8  | 16 | 4  | 22   | 13 | 6  | 37 | 35 | 9  | 8  | 13 | 0  | 4  | 7  | 7  | 5    | 7    | 5    | 3    | 6    | 1  | 599            |              |      |

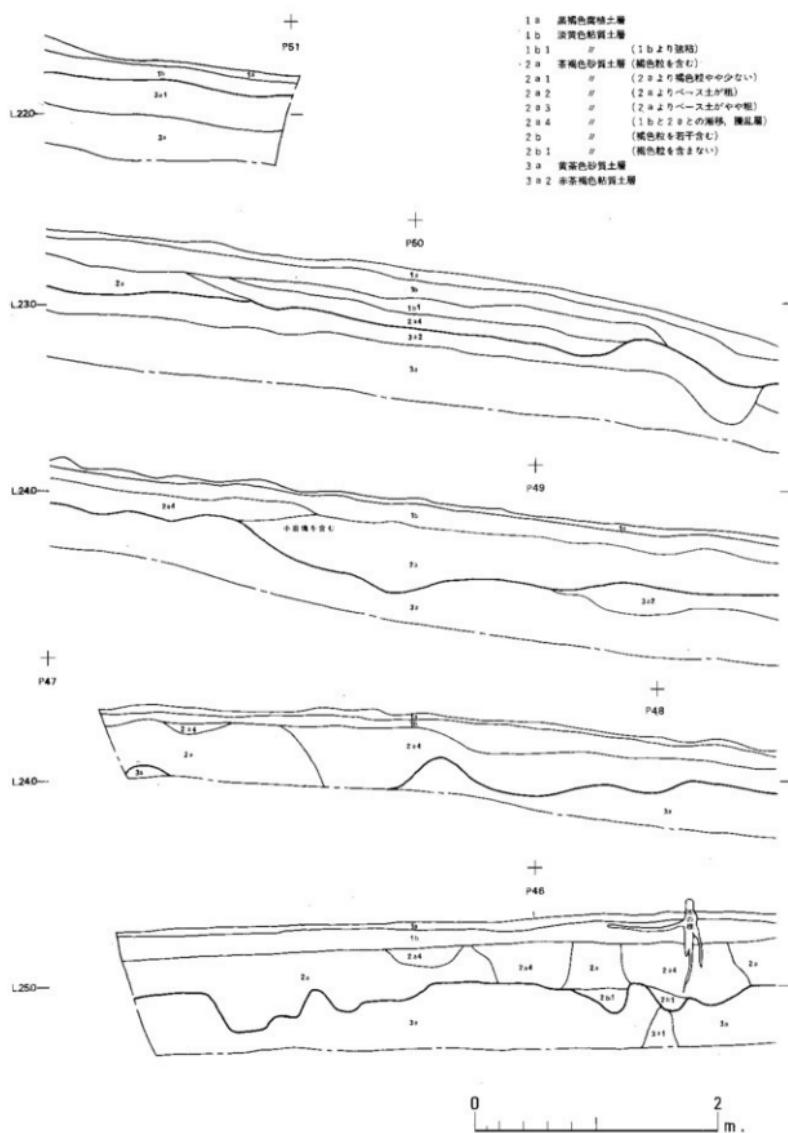
第2表 土層別横長剝片出土数

垂直的分布状況をグリッド別にみると、90%以上の集中が第1層においてあるのはP-45・46、N-41である。90%以上の集中が第2層中層においてあるのはP-35・36・39・40・43、O-40・44である。前者の第1層中に含まれる横長剝片の計は29点、後者の第2層中層に含まれる横長剝片の計は195点である。195点は、全第2層中層の51.6%を、横長剝片600点のうち32.5%を占めている。この点で、後者の第2層中層は極めて特徴的な土層であるといいうことができる。

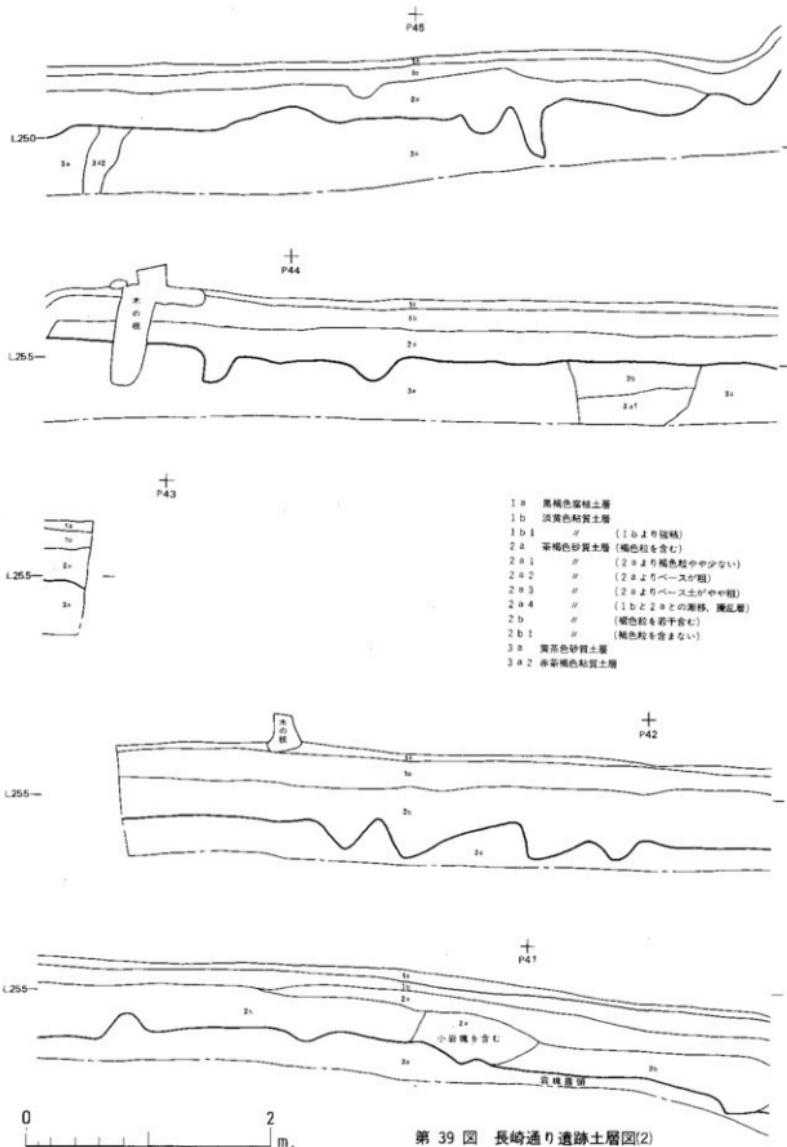
後者のほとんどを含む高台地区は、前記のように人為的擾乱はほとんどうけていないと判断されるのであるから、この現象は自然的な要因によるものである。擾乱をうけていない地域において表土上の石器が地山近くまで埋没する現象は、与島西方遺跡C<sub>2</sub>地区で提唱されたいわゆる「穴掘り穴埋め作業」<sup>(4)</sup>によって説明が可能であると思われる。「穴掘り穴埋め作業」とは、腐敗した木の根が雨水などにより溶解され、さらに流出して空洞が形成され、そこへその周辺や上部の土が旧石器時代の遺物とともに落ち込むという現象のことと、それが1万年余にわたり繰り返されることによって遺物は沈下の一途をたどり、また、水平移動は結果的にほとんどないといいうものである。本遺跡にこの作業を想定してみると、後者の第2層中層に含まれる横長剝片の特徴的な在り方は、旧石器時代に地上に置き去られた石器の集中箇所の反映した姿であるといいうことがいえよう。

一方、前者の第1層における集中は、絶対数においては特徴はみられない。逆に、N-P-41の第2層には大小の岩塊が残存していたために、「穴掘り穴埋め作業」はスムーズに行なわれなかつたといえよう。そのために、石器が第2層まで埋没することは少なく、結果的に第1層に集中するという姿を示すようになったものと考えられる。

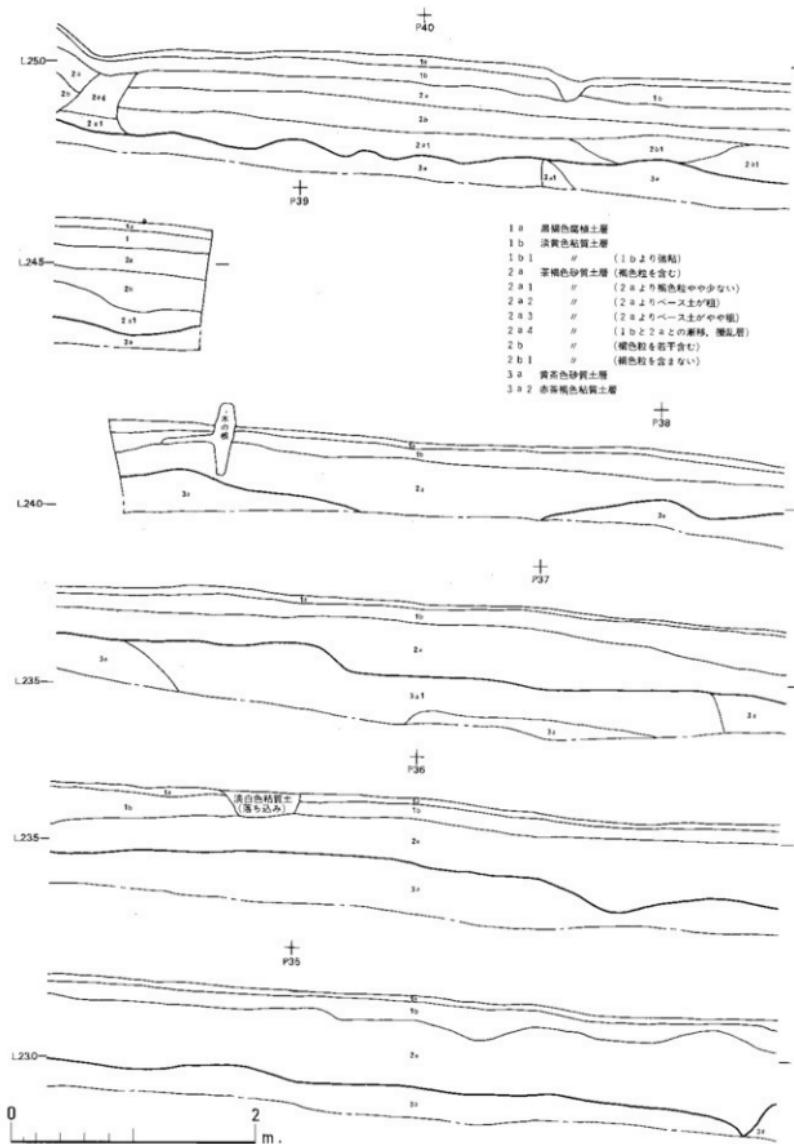
なお、土器などが第1層・第2層からともに出土している。しかし、第2層下半からは全く出土していない。数百年で相当深くまで沈下するとともに、1万年余と数百年の差をも示しているといえよう。土器はほとんどが破片であるため、層別の集中をグリッド毎に集計すること



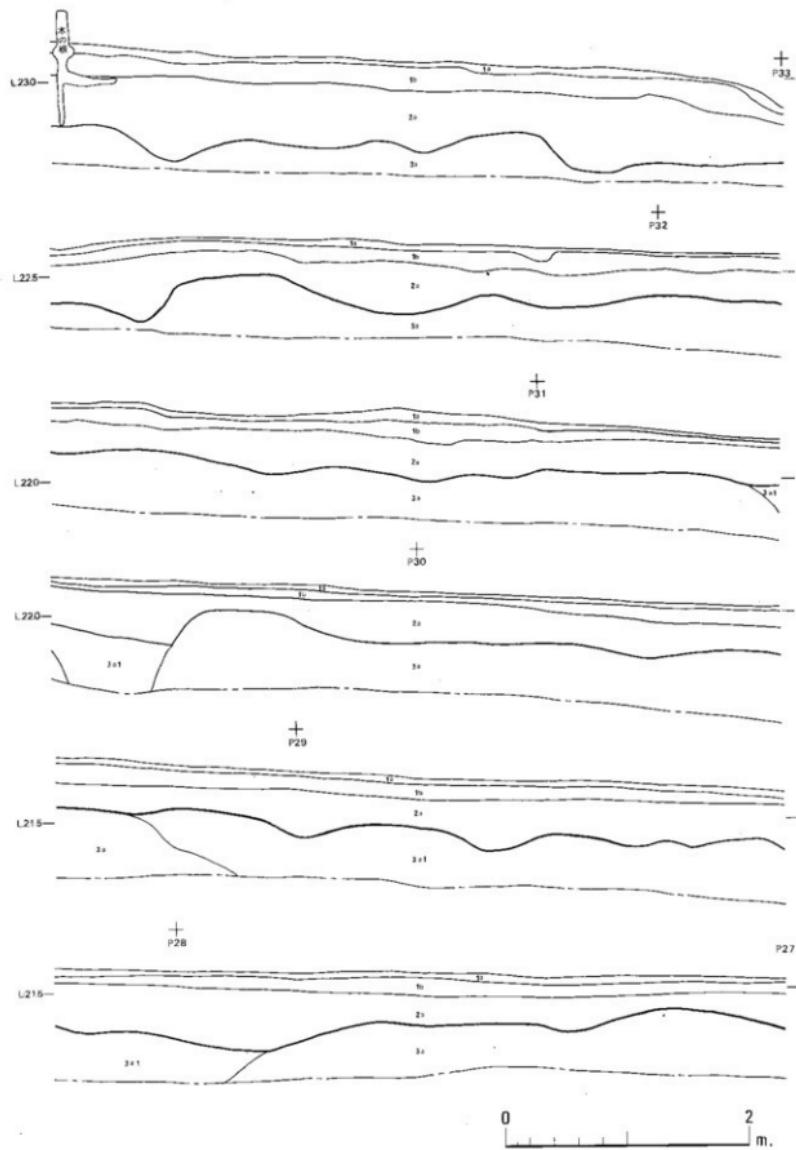
第38図 長崎通り遺跡土層図(1)



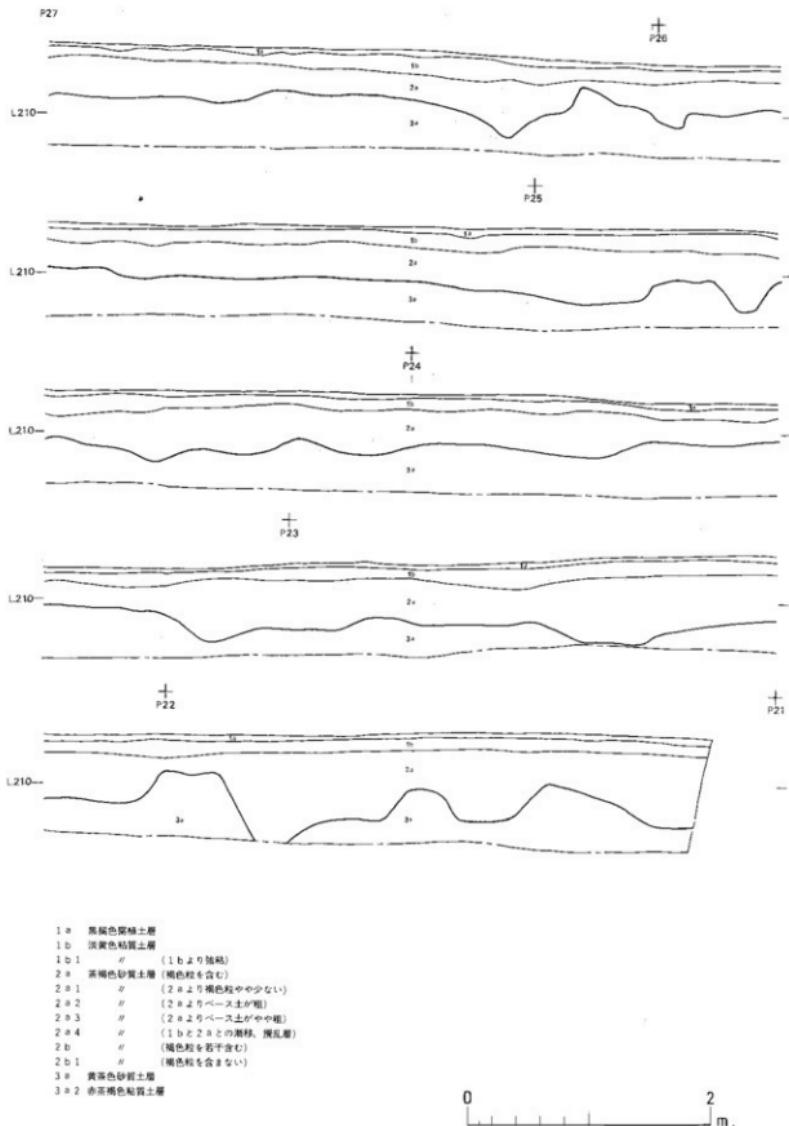
第39図 長崎通り遺跡土層図(2)



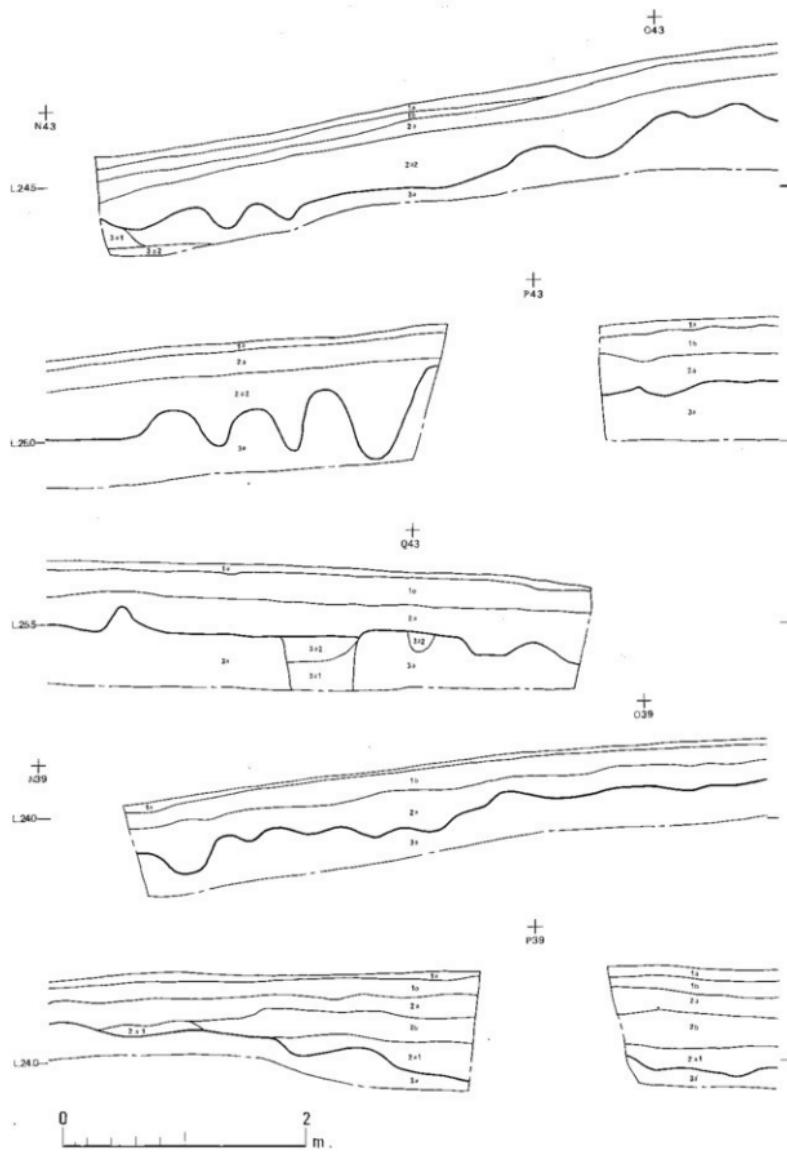
第 40 図 長崎通り遺跡土層図(3)



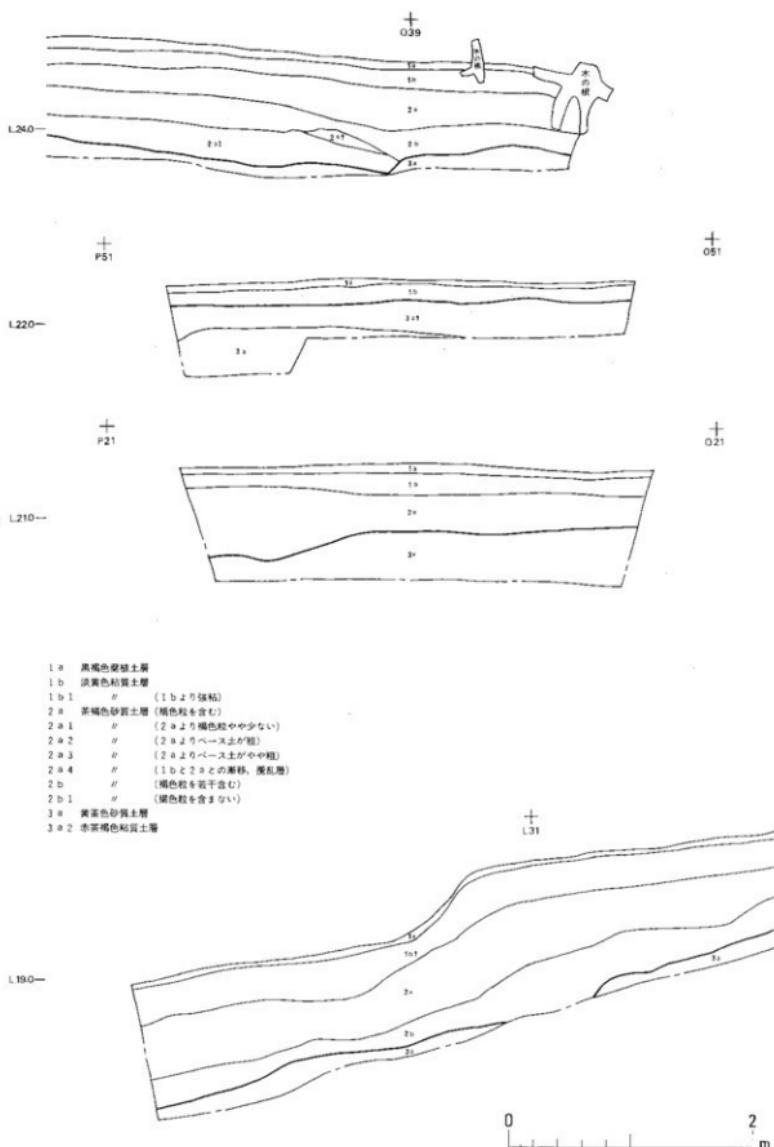
第41図 長崎通り遺跡土層図(4)



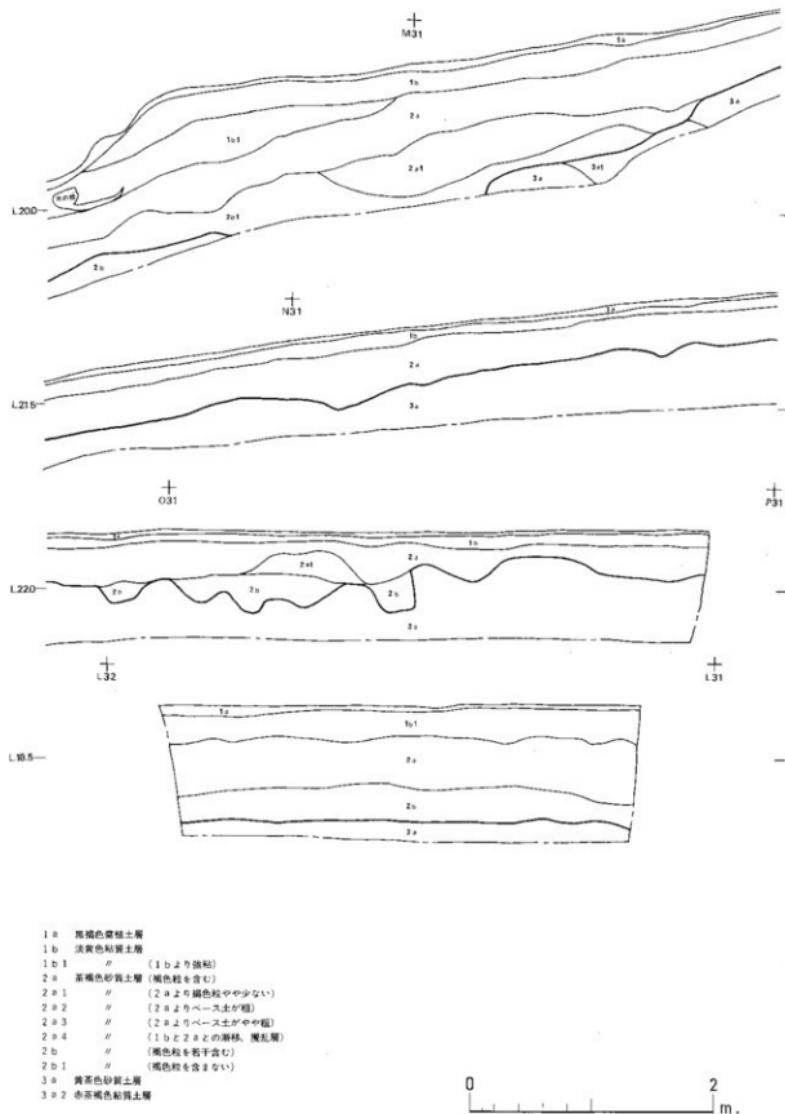
第 42 図 長崎通り遺跡土層(5)



第 43 図 長崎通り遺跡土層図(6)



第 44 図 長崎通り遺跡土層図(7)



第 45 図 長崎通り遺跡土層図(8)

は無意味である。しかし、高台地区に比較的多いといふことはいえる。

(野中)

## 2 平面的出土状況

今回の調査では、77グリッド1,657m<sup>2</sup>を実掘し、総数2,259点の石器が出土した（確認調査として行なったJ～L・21～23、P～Q・16～18を含む）。そこで、各種石器の集中状況およびその変動をみるべく出土分布図を作成した。

5×5mのグリッド（実掘は5×4m）ごとの出土点数を調べていく方法をとったが、畦などの関係があって各グリッドの面積が一定でないので、出土点数を20m<sup>2</sup>当りの点数に換算して出土分布図をつくった。各種石器における密度の段階分けは、その石器の出土分布の特徴が明瞭に表れるように配慮した。

またM～O-20～25、J～L-21～23、P～Q-16～18は、P-21～46、O-39～50、N-39～46、K～O-31とは発掘目的が違い発掘方法も大きく異なるため石器出土点数が極端に少ない。したがって、出土分布を正確に示すため前者の26グリッドを除外し、後者の51グリッド1,070m<sup>2</sup>、石器出土総数2,056点について6種類の平面的出土分布図を提示することにした。

〈総出土石器の分布〉(第46図)

〈ナイフ形石器の出土分布〉(第47図)

〈横長剝片・同石核の出土分布〉(第48図)

〈縦長剝片・同石核の出土分布〉(第49図)

〈細石刃核・細石刃・細石刃核未製品の出土分布〉(第50図)

〈ハリ質安山岩剝片の出土分布〉(第51図)

これら6項目の分布状況についてまず言えることは、いずれも高台地区に集中していることである。他の地区に比べて極めて高い密集度を示す。ちなみに20m<sup>2</sup>当りの出土点数を計算してみると高台地区の57.1個に対して、他の地区は19.0個となる。

次に高台地区的出土分布をよくみると、P-39とP-43をそれぞれの中心とする2つの集中箇所が把握でき、どちらも範囲が数グリッドに及んでいる。この特徴は横長剝片・同石核の分布によく表れており、総出土石器の分布、縦長剝片・同石核の分布にも示されている。

ナイフ形石器の分布では、P-43を中心とする高台地区中央部への集中が注目される。細石刃核・細石刃・細石刃核未製品は、高台地区に集中するというものの稀薄であり、ハリ質安山岩剝片は他の5項目に比べて分布に広がりがある。特に、P-21における11点の出土は目立つ。

総数2,056点、20m<sup>2</sup>当り38.5個という稀薄な出土状況の中での平面分布なので、顕著な特徴や傾向等を見出すことはできなかったが、予備調査で予想された高台地区での遺物集中が確認でき、さらにその中でも2箇所の集中区域があることが把握できた。

(林)

### 注

(1) 土壌の分類は、次の研究を参考にして行なった。大政正隆『土の科学』日本放送協会 1977年1月、小出博『日本の国土(上)』東京大学出版会 1973年8月

特に、花崗岩の風化は、雨風によって一挙になされたのではなく、その前段階にマサ（真砂）化という作用が存していたことや、マサ（真砂）化の具体的な内容などは、小出博氏の研究を参照した。なお、これまでの概報等で使用されていた「地山」は、本稿のマサに相当し、また、「バイラン土」は本稿の第2・3層に相当すると考えている。

(2) 東山包雄氏（坂出市標石）の御教示による。

- (3) 分析の都合上、600点を任意に抽出した。
- (4) 竹下和男「与島西方遺跡の調査（C<sub>3</sub>地区）」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報（V）』香川県教育委員会 1982年3月



標石島南部をのぞむ（左片 歩渡島・右片 長崎通り遺跡）

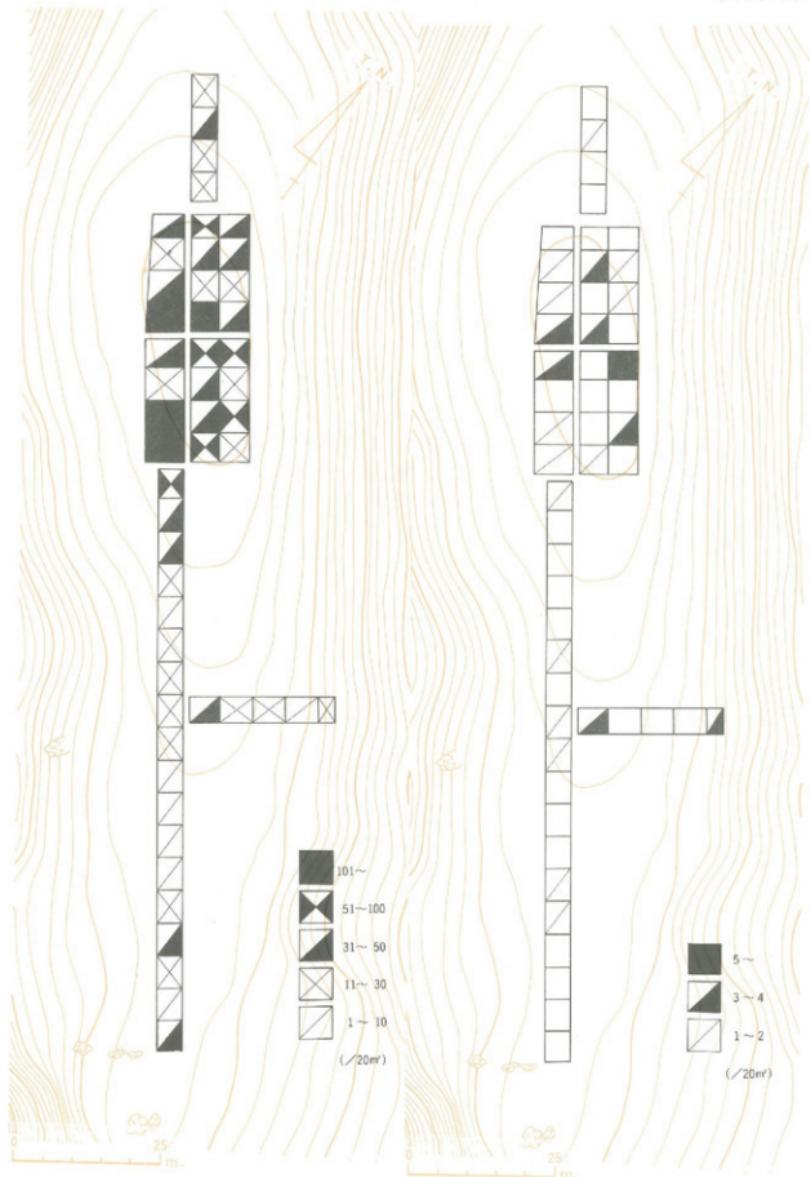
第3表 グリッド別石器出土表

| グリッド     | P-21 | P-22 | P-23 | P-25 | P-26 | P-27 | P-28 | P-29 | P-30 | P-31 | P-32 | P-33 | P-34 | P-35 | P-36 | P-37 | P-38 | P-39 | P-40 | P-41 | P-42 | P-43 | P-44 | P-45 | P-46 | N-39 | N-40 | N-41 | N-42 | N-43 | N-44 | N-45 | N-46 | O-39 | O-40 | O-41 | O-42 | O-43 | O-44 | O-45 | O-46 | O-47 | O-48 | O-49 | O-50 | O-51 | N-52 | M-53 | K-51 | L-51 | 未記   | 不明    | 小計 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|----|
| ナイフ形石器   |      |      |      | 1    | 1    |      |      | 1    | 1    | 1    |      |      |      |      |      | 1    | 2    | 2    | 3    | 4    | 1    | 2    |      | 3    | 5    | 1    | 1    | 2    |      | 4    | 3    |      | 1    | 1    | 3    |      | 2    | 451  | 2.59 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 舟底形石器    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 11   | 0.12 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 尖頭器      |      | 1    |      |      |      |      |      | 1    |      |      | 1    | 3    | 1    |      |      | 1    |      | 1    | 2    | 1    |      |      |      |      | 2    | 2    |      |      |      |      | 1    |      | 1    | 3    | 3    |      |      | 261  | 1.39 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| スクレイバー   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 2    | 3    | 1    | 1    | 1    | 1    | 2    |      | 1    | 1    |      | 1    | 2    | 1    | 1    | 1    |      |      |      |      | 221  | 1.10 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 石鏃       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 41   | 0.20 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| ドリル      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 10   | 0.15 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 叩き石      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 54   | 0.23 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 横長剥片石核   | 1    |      | 1    |      |      |      |      | 1    |      |      | 2    | 1    | 2    | 9    | 9    | 3    | 5    | 27   | 5    |      | 1    | 3    | 2    | 2    | 7    | 2    |      | 2    | 3    | 4    | 5    | 7    | 2    | 1    | 2    | 1    | 3    |      | 1    | 151  | 5.50 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 横長剥片     | 9    | 2    | 5    | 6    | 7    | 2    | 1    | 2    | 6    | 6    | 9    | 2    | 2    | 4    | 13   | 21   | 17   | 58   | 49   | 6    | 18   | 62   | 24   | 14   | 7    | 3    | 27   | 6    | 15   | 6    | 8    | 21   | 4    | 25   | 14   | 9    | 35   | 39   | 10   | 14   | 4    | 15   | 2    | 7    | 7    | 5    | 4    | 5    | 1    | 489  | 31.6 |       |    |
| 縱長剥片石核   |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 1    |      | 2    | 3    |      | 1    | 2    | 1    |      |      | 2    | 1    | 2    | 3    | 2    | 1    |      | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 31   | 1.39 |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 縦長剥片     |      | 1    | 1    |      |      |      |      | 1    | 1    |      | 1    | 5    | 7    | 10   | 10   | 1    | 6    | 18   | 8    | 2    | 3    |      | 7    | 1    | 4    | 1    | 1    | 1    | 1    | 6    | 3    | 4    | 8    | 5    | 1    | 3    | 3    | 1    |      | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 130  | 6.33 |      |       |    |
| 二次調整剥片   | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 1    | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 71   | 0.33 |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| チップ      | 9    | 1    | 8    | 23   | 11   | 4    | 1    | 4    | 3    | 3    | 8    | 6    | 3    | 10   | 13   | 13   | 16   | 69   | 73   | 5    | 8    | 77   | 24   | 21   | 16   | 3    | 21   | 8    | 28   | 20   | 8    | 24   | 15   | 33   | 11   | 15   | 27   | 52   | 18   | 20   | 36   | 7    | 12   | 12   | 15   | 1    | 11   | 2    | 2    | 3    | 891  | 40.2  |    |
| 磨石刀核     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      | 1    | 1    | 1    | 2    |      |      |      |      | 2    | 1    | 1    | 1    | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 13   | 0.46 |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 磨石刃      |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      | 1    | 1    | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 13   | 0.45 |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 細石核未製品   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 1    | 1    | 1    |      |      |      |      | 2    | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 81   | 0.40 |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| ハリ賀安山岩剥片 | 11   | 1    | 1    |      |      | 3    | 6    | 1    | 1    | 1    | 1    | 4    | 1    | 1    | 3    | 2    | 5    | 6    | 1    | 6    | 5    | 2    | 4    | 2    | 3    | 2    | 3    | 4    | 3    | 3    | 5    | 3    | 4    | 3    | 2    | 3    | 3    | 5    | 1    | 133  | 5.53 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 黒曜石剥片    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 21   | 0.11 |      |      |      |      |      |      |       |    |
| 真石材      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 1    | 4    | 2    | 2    | 2    | 2    | 2    | 5    | 2    | 1    | 2    | 1    | 6    | 1    | 3    |      | 1    | 2    | 1    |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      | 421  | 2.00 |      |      |      |      |       |    |
| 計        | 32   | 3    | 15   | 33   | 21   | 5    | 3    | 6    | 5    | 11   | 19   | 17   | 11   | 7    | 19   | 37   | 43   | 47   | 161  | 154  | 22   | 52   | 208  | 69   | 42   | 35   | 14   | 73   | 20   | 67   | 37   | 24   | 51   | 25   | 83   | 36   | 41   | 84   | 121  | 31   | 46   | 63   | 13   | 34   | 23   | 40   | 14   | 16   | 6    | 11   | 5    | 2,066 |    |

| グリッド     | M-20 | M-21 | M-22 | M-23 | M-24 | M-25 | N-20 | N-21 | N-22 | N-23 | N-24 | N-25 | O-20 | O-21 | O-22 | O-23 | O-24 | O-25 | P-20 | P-21 | P-22 | P-23 | P-24 | P-25 | P-26 | P-27 | P-28 | P-29 | P-30 | P-31 | P-32 | P-33 | P-34 | P-35 | P-36 | P-37 | P-38 | P-39 | P-40 | 西端 | 小計 | 総計  |       |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|----|-----|-------|
| ナイフ形石器   |      |      |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 4    | 49   |      |    |    |     |       |
| 舟底形石器    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |    |    |     |       |
| 尖頭器      |      | 1    |      |      |      |      |      |      | 1    | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 4    | 30   |    |    |     |       |
| スクレイバー   |      |      |      |      |      | 1    | 2    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 2    | 29   |    |    |     |       |
| 石鏃       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |    |    |     |       |
| ドリル      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |    |    |     |       |
| 叩き石      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 5    |    |    |     |       |
| 横長剥片石核   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      | 1    | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 7    | 122  |      |    |    |     |       |
| 横長剥片     | 1    | 3    | 4    | 1    | 9    | 1    | 4    | 4    |      |      | 4    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 2    | 1    | 2    |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 4    | 602  |      |    |    |     |       |
| 縱長剥片石核   |      |      |      |      |      | 23   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    | 1    | 1    |      |      | 2    | 1    |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 32 | 63 |     |       |
| 縦長剥片     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 4    | 134  |    |    |     |       |
| 二次調整剥片   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 7    |    |    |     |       |
| チップ      | 3    | 3    | 14   | 9    |      | 4    | 15   | 5    | 4    | 5    | 2    | 1    | 1    | 1    | 9    | 2    | 2    | 2    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 84   | 913  |      |      |      |      |      |    |    |     |       |
| 磨石刃      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 13   |    |    |     |       |
| 磨石刃      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 4    | 17 |    |     |       |
| 細石核未製品   |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 8    |    |    |     |       |
| ハリ賀安山岩剥片 | 1    | 1    | 1    | 3    |      | 2    | 1    | 2    | 3    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 1    |      |      |      | 12   | 125  |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 2    |      |      |    |    |     |       |
| 黒曜石剥片    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 42   |    |    |     |       |
| 真石材      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | 123  |    |    |     |       |
| 計        | 1    | 6    | 8    | 2    | 17   | 50   | 1    | 10   | 25   |      | 2    | 1    | 15   | 9    | 5    | 7    | 4    | 4    | 15   | 10   | 3    | 5    | 3    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1  | 1  | 203 | 2,259 |

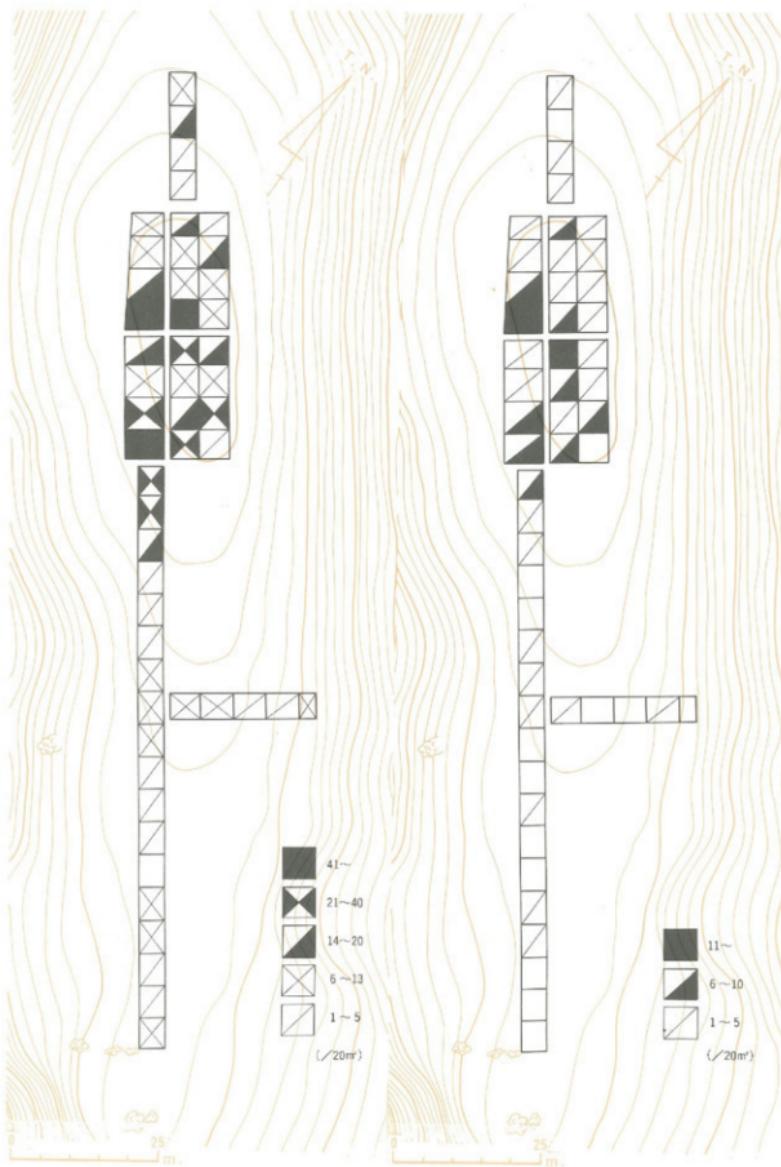
注 上段小計欄の( )は合計数256に対する百分率である。

南西斜面地区、樅谷周辺地区の1区～4区は、その地区を4区分して、北西の区画から順次まわりにつなげた区画名である。



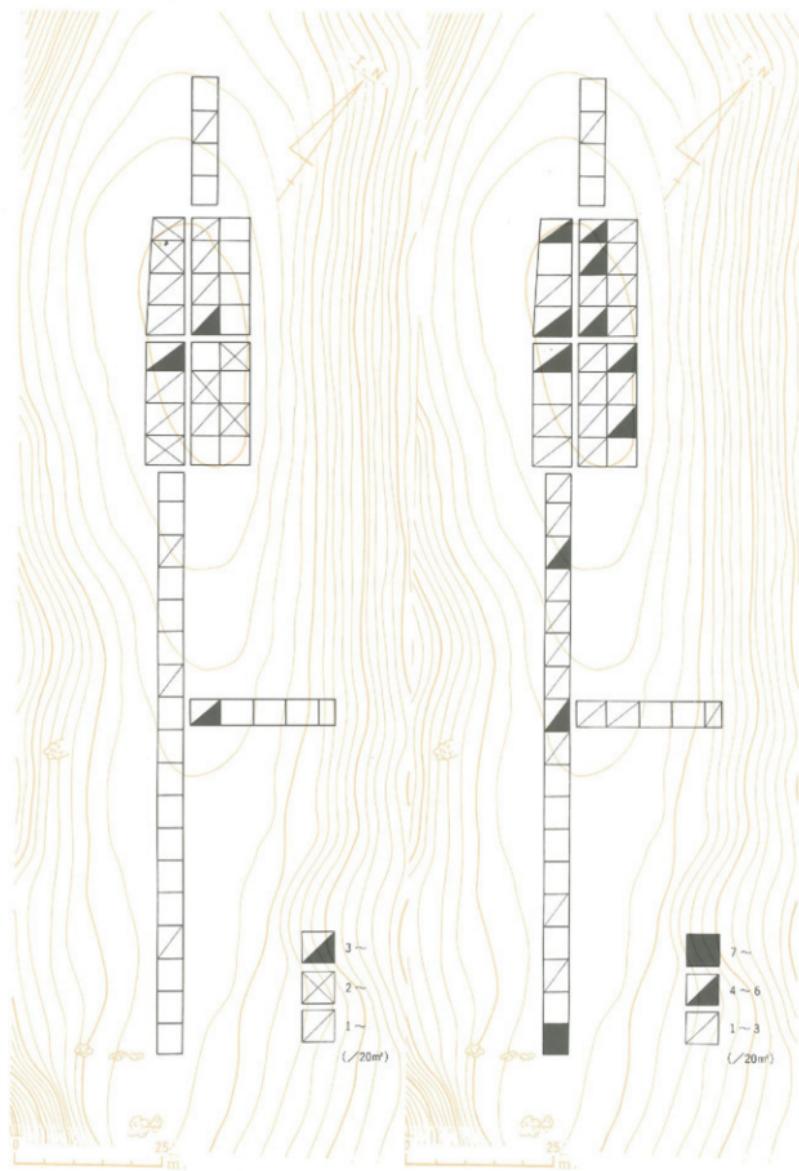
第 46 図 総出土石器分布図

第 47 図 ナイフ形石器出土分布図



第 48 図 横長削片・同石核出土分布図

第 49 図 縦長削片・同石核出土分布図



第 50 図 櫛石刃核・細石刃・細石刃核未製品出土分布図

第 51 図 ハリ賀安山岩剝片出土分布図

## 第4節 遺物

### 1 石器

#### (1) ナイフ形石器

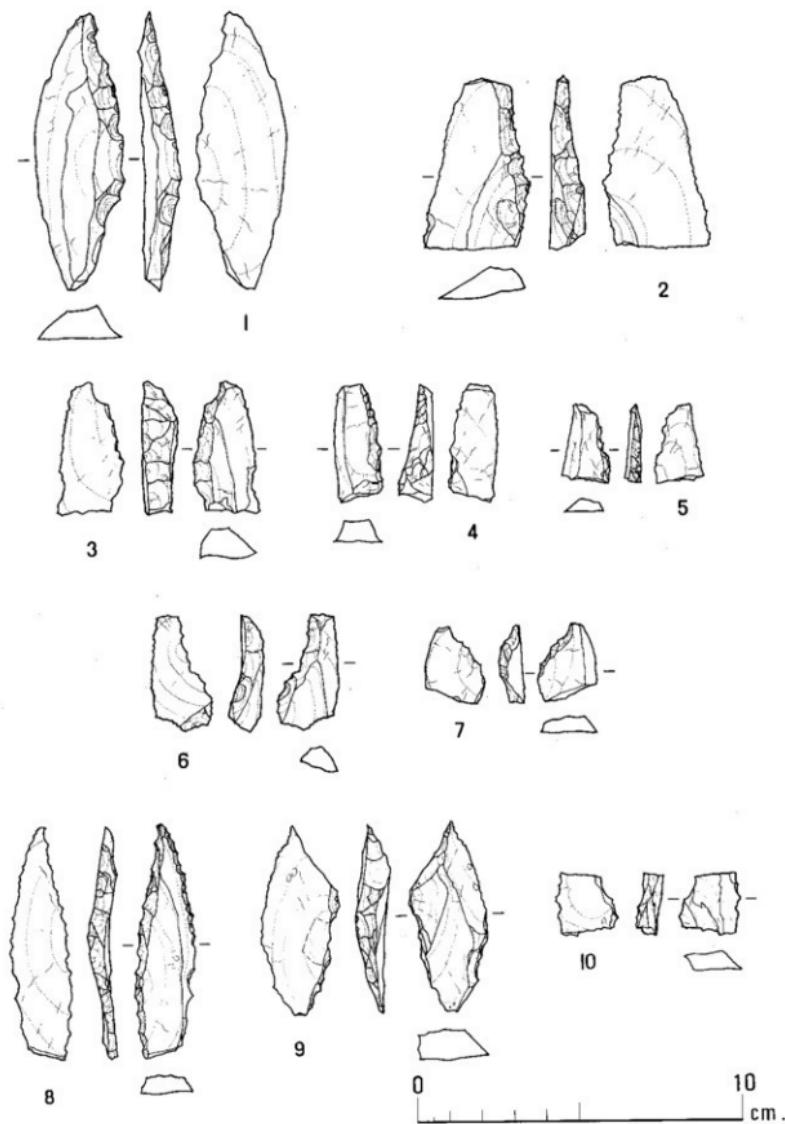
ナイフ形石器は、完形でないものも含めて49点出土したが、M～O-20～25地区、L～J-21～23地区出土の4点を除き全点図化した。(以下、出土点数等においては、上記2地区とP～Q-16～18地区出土のものは含めていない。)黒曜石製のものが2点、あとはすべてサヌカイト製である。また、横長剝片を素材とするものがほとんどで、縦長剝片を利用しているものが3点みられた。

今回、与島西方遺跡A地区の分類案<sup>(1)</sup>を基本としながら以下の6型式に分けたが、次の点で若干の補正を加えた<sup>(2)</sup>。從来刃部に調整加工がみられるものをE型として一括していたが、今回は刃部への調整加工の有無にかかわらずいわゆる「切り出し状のナイフ」を意識して成形されているものを1つの型式として一括した。そして、刃部に調整加工が認められても、形成技法からみて他の型式に編入した方が分類に一貫性が保たれると思われるものはそのように分類した。なお、A型～F型なる呼称は用いず、単に①類～⑥類とした<sup>(3)</sup>。

#### 〈ナイフ形石器①類〉(図版第23、第52図1～10)

横長剝片を素材とし、背面に底面およびネガティブ面をそれぞれ一面もつナイフ形石器で、いわゆる「国府型ナイフ形石器」の外形的要素を有する。出土した10点を全部図化し掲載している。なお、8～10は刃部に調整痕がみられるが、形を整えるためのものと考え、技法的にみてこの①類に編入しておいた。

1. 典型的な完形の①類ナイフ形石器である。細かいプランティングの痕跡が明瞭な形で残っている。
2. 下半部が欠損しているが、大形のナイフ形石器である。底面は幅広い刃部を形成し、かなり銳利である。
3. 肉厚で、下半部および先端部が欠損。比較的丁寧なプランティングが施されている。なお、刃部下方の剝離は後世のものである。
4. やや肉厚で、底面とネガティブ面が平行する。先端部に向かうに従いかなり細かいプランティングが施されている。
5. 4と同じような形状と特徴を示すが、大半が欠損している。
6. 下半部および先端部が欠損し、風化が激しい。
7. 先端部の一部が残っているだけで明確でないが、底面およびネガティブ面が一面ずつあり、プランティングも認められるのでこの①類に入れておいた。
8. 基部がほんの少し欠損しているのみで、完成品といえる。刃部全体に細かい調整痕がみられるが、あくまで整形のためのものと考えられる。プランティングは細かく丁寧であり、1と同じく典型的な①類のナイフ形石器といえるであろう。
9. 完成品で、刃部下半部に粗い調整痕が認められる。8と同じく典型的な①類ナイフ形石器の形状を示す。ただ、プランティングが打点部周辺に限られている。
10. 大半が欠損しているが、刃部の一部に調整痕がみられる。底面とネガティブ面は平行す



第 52 図 ナイフ形石器①類実測図

る。なお、背面中央部の階段状の剥離痕は打ち損ないか何かの作用によるものであろうと思われる。

〈ナイフ形石器②類〉(図版第24, 第53図1~8)

横長剝片を利用し、1つの底面と複数のネガティブ面をもつ。8点出土しており、8は刃部に調整痕がみられる。

1~4は、いずれも肉厚で、複数のネガティブ面も小さく狭いので一見すると④類のナイフ形石器の感じがする。1は、下半部が欠損し、プランティングが底面まで達している部分もある。

2. 上下大半が欠損している。2つのネガティブ面が比較的明確にみられる。したがって、②類の特徴の1つとしてあげれるであろう打点のずれもかなり把握できる。

3. 2と同様2つのネガティブ面がみられる。下半部の大半が欠損しており、プランティングは細かい。

4. 1~3ほど肉厚ではない。ネガティブ面が少し残存している程度で、下半部は欠損し、幅広い底面をもつ。

5. 下半部が欠損し、2つのネガティブ面をもつ。

6. 小形の完形品である。1~4と同様一見すると④類に入るような形状であるが、背面に3つのネガティブ面がみられる。

7. 上下大半が欠損し、打点部付近のごく一部が残ったものであろう。底面とポジティブによってつくられる角度が小さいため、刃部が非常に鋭くなっている。

8. 刃部の一部に調査痕がみられる。下半部は欠損し、平坦面を打撃した痕跡が残っている。

〈ナイフ形石器③類〉(図版第24, 第53図9~11)

横長剝片を使い、複数の底面をもつナイフ形石器で、3点出土している。

9. 2つの底面をもち、典型的な③類といえるであろう。明確なネガティブ面が1つみられ、底面が複数でなければ①類に入るべきものである。機能面からみると、切り出し状ナイフの性質があるかもしれない。

10. 1を小形にしたようなナイフ形石器で、完形品である。ネガティブ面が複数みられ②類に属するような形状を示すが、背面上方にもう1つの底面がみられる。

11. 下半部が欠損し、刃部に大きな調整痕がみられる。プランティングも大きく粗い。明確ではないが、底面が2つあると思われる所以この③類に入れておいた。

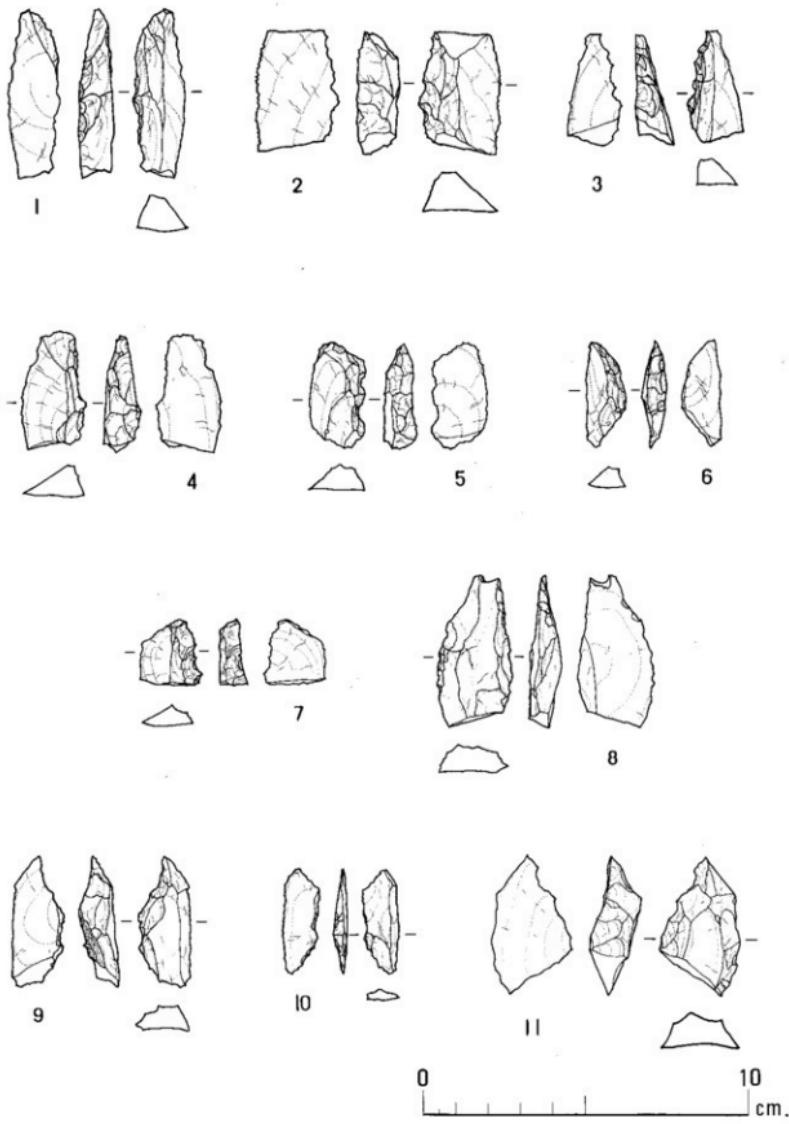
〈ナイフ形石器④類〉(図版第25, 第54図1~7)

横長剝片を素材とし、断面が三角形を呈するナイフ形石器で、7点出土。この場合、プランティングによりネガティブ面が消失し底面とポジティブ面により刃部が形成されているもの(1~4)と、剥片の剥離段階で打撃が底面まで及ばずネガティブ面とポジティブ面により刃部が形成されているもの(5~7)とに分けられる。なお、3・4・6・7は刃部に調整が加えられている。

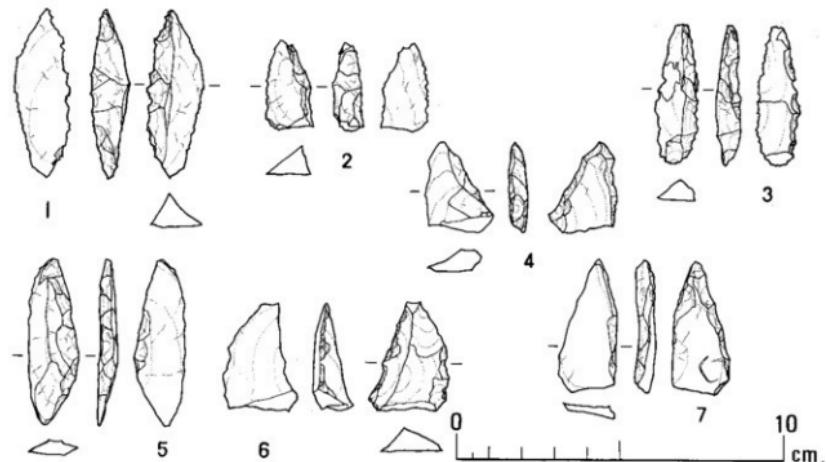
1. 完形品である。肉厚な感じもするが刃部は比較的鋭利である。プランティングは打点部を中心に全面的になされている。

2. 大半が欠損しているが、完形であれば1と同程度の大きさのものであろう。刃部の鋭さも1とほぼ同じである。風化がかなり進んでいる。

3. 先端部がほんの少し欠失しているが、ほぼ完形品で、基部調整もみられる。刃部全体に



第 53 図 ナイフ形石器②・③類実測図



第 54 図 ナイフ形石器④類実測図

調整がなされ形状からみても、尖頭器的性格が強いものであろうと思われる。なお、中央部の不定形な剝離痕は後世のものである。

4. 先端部の一部が残存するだけで、風化も激しいため明確には分類しにくいが、刃部に調整痕が認められ、ネガティブ面もみられないでこの④類に入れておいた。なお、中央部にみられる剝離痕は何か別の作用によって薄くはがれたものであると思われる。

5. 非常に薄い。風化は著しいが、ネガティブ面は複数みられる。また、刃部に使用痕がかすかに認められる。

6. 下半部が欠損し、刃部の一部に調整が加えられている。プランティングは細かくなされている。先端部のネガティブ面は何らかの作用で薄くはがされたものであろう。

7. 風化が激しく白色性を帯びている。偏平で基部調整もみられる完形品で、刃部調整およびプランティングとも丁寧ではない。

#### 〈ナイフ形石器⑤類〉(図版第26, 第55図1~10)

いわゆる「切り出し状のナイフ形石器」で、10点出土している。刃部への調整加工の有無を1つの条件とせず、「切り出し状」を意識して形成されたものをこの類に一括したが、4を除いて全て刃部に調整加工が施されていた。この類では①~④類のように刃部が打点の反対辺に作られるという統一性はみられないし、プランティングもネガティブ面からなされている場合もある。また、不定形な剝片を使っている場合が多い。

1. 基部のほんの一部を除いてほぼ完形品である。刃部下半部が調整加工され、切り出し状を呈する。基部は肉厚であるが、先端部は薄く鋭利である。

2. 偏平で不定形な剝片を利用していいる。刃部の調整加工は、1と同じく下半部に施され細かく丁寧である。プランティングはネガティブ面から加えられている。

3. 先端部・基部ともに欠損、特に先端部の破損は新しい。刃部下半部に調整加工痕があり、

完形であれば、比較的丸みをもつ「小形切り出し状ナイフ」になると思われる。プランティングはネガティブ面からなされている。

4. 刃部に調整加工はみられないが、平坦面があり、刃部調整加工の必要がなかったものと考えられる。プランティングは両面からおこなわれている。

5. 底面が比較的平坦であることを利用して、下半部にわずかの調整加工を施すにとどめ、打点部のある対辺の鋭利な一部を刃部としている。風化は激しいが、基部調整もプランティングも認められる。

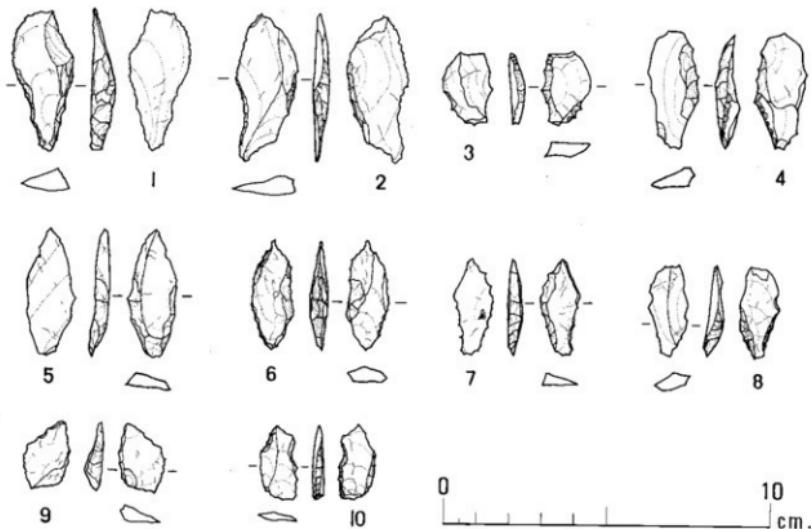
6. 不定形の剥片を利用し、打点部反対辺全体に調整加工を施し、打点部のある辺の先端部を新たな刃部としている。

7. 刃部下半部には調整加工がみられ、先端部が刃部としての明確な形をとっている。6とともに典型的な「小形切り出し状ナイフ」<sup>(4)</sup>といえるかもしれない。なお、プランティングはネガティブ面からなされている。

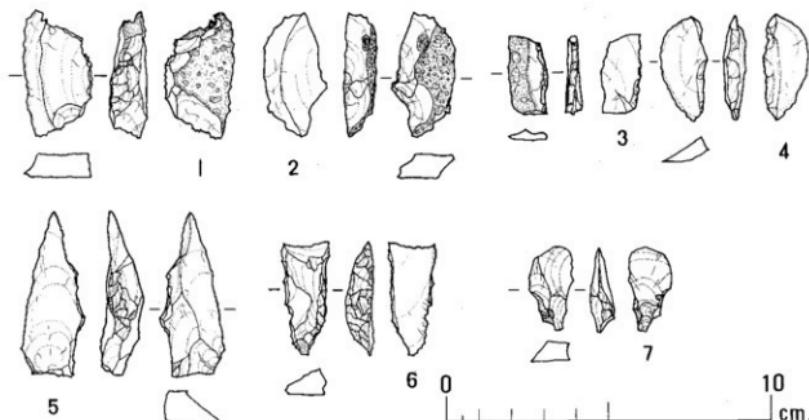
8. 刃部に後世の剥離痕があって少しばかり欠損しているが、ほぼ完形である。ネガティブ面からプランティングが施されている。

9・10. 縦長剥片を素材とする「切り出し状のナイフ」である。9は、刃部の反対辺にプランティングが加えられ、刃部には使用痕が認められる。

10. 打点部を挟む両側辺にプランティングが施され、打点と反対の先端部を刃部としている。



第 55 図 ナイフ形石器⑤類実測図



第56図 ナイフ形石器⑥類実測図

〈ナイフ形石器⑥類〉(図版第27、第56図1~7)

①~⑤類に編入できないナイフ形石器7点を⑥類として一括した。1~4は不定形の横長剥片を用いており、5は縦長剥片を素材としている。6・7は黒曜石製である。

1・2. 片方に自然面を有し、反対の面が非常に平坦な感じがするという共通性をもつ。そして、平坦な感じが強いポジティブ面から自然面に向けてプランディングがなされている。刃部はどちらも外彎しているが、その度合は2の方が強い。

3. 両端部とも欠損しており、比較的小形である。形状的には、ネガティブ面・底面ともに1つであるから①類に属するべきかもしれないが、底面が自然面で構成されているのでこの⑥類に入れておいた。プランディングはポジティブ面からおこなわれている。

4. 風化して白色性が強い小形のナイフ形石器である。不定形の剥片を用いており、刃部の彎曲の度合が大きい。

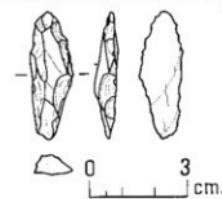
5. 縦長剥片を素材とし、刃部の反対辺に粗いプランディングが施されている。ただ、形状からみて尖頭器としての性格が強いかもしれない。

6・7. 黒曜石製で、どちらも「小形切り出し状」のナイフ形石器である。6は、黒曜石製としては珍しく横長剥片を素材としている。プランディングおよび調整加工とも丁寧で細かい。先端部を刃部としているが、やや内彎している。

7. 縦長剥片を利用し、打点近くの両側縁にプランディングが施されている。

#### (2) 舟底形石器 (図版第27、第57図)

舟底形石器と考えたものは、第57図に示した1点のみである。サヌカイト製の完形品であるが、風化が著しい。甲板面からの調整はそれほど細かく丁寧ではなく、断面は台形を呈する。



第57図 舟底形石器実測図

### (3) 横長剥片石核

横長剥片石核は115点出土したが、13点を図化した。一応今回は次の3つに大別して掲載しておく。

①底面をもち、山形の打面調整を有する広義の「翼状剥片石核」である。(1・2)

②交互剥離が認められる石核である。一辺に交互剥離がみられるもの(3~8)、二辺にみられるもの(9)、三辺以上にみられるもの(10)の3つに細別できるようである。

③不定形の剥片が剥離されている石核である。平坦面を打撃しているものが多い(11~13)。

#### 〈横長剥片石核①類〉(図版第28、第58図1・2)

1. かなりの部分が欠損し、打点部も欠失している。剥片の剥離痕と石核の幅は一致するとと思われ、打面調整も明確に認められる。なお、打点と反対の辺においても剥片剥離がなされている。

2. まさに広義の翼状剥片石核である。交互剥離石核の観も呈するが、底面と打面調整痕が認められるのでこの①類に入れておいた。薄い盤状剥片を素材としている。

#### 〈横長剥片石核②類〉(図版第28、第58図3~7・第59図8~10)

3. 一部に自然面を残す。a面右上半部の剥離は、b面の剥片剥離と打面調整によって形成された稜の打撃によるものである。

4. b面左半部にみられる2つの剥片剥離が、a面上半部の剥離のための稜形成となっている。

5. 下半部が欠損。盤状剥片を素材とする。a面右半部の剥離と、b面左半部の2つの剥片剥離が交互剥離の関係をなしている。

6・7. 自然面を大きく残し、その自然面の反対辺を使って剥片の剥離がなされている。ただ、相互の剥離が稜を形成しあうという典型的な交互剥離ではないが、それに類するものであろうと考えた。特に6は打点部が欠失し明確さを欠いている。

8. a面右半部とb面左半部とにおいて典型的な交互剥離をみせる。また、反対辺には2つの剥片剥離痕がみられる。

9. 二辺を使っての交互剥離石核であるが、かなり大形の剥片が作出されたであろう。a面右半部とb面左半部、a面左半部とb面右半部の剥片剥離に交互剥離の関係が認められる。

10. 自然面が残っている一辺を除いて他の三辺に交互剥離が認められる。a面・b面にそれぞれ数個の剥片剥離痕が残っている。一部に細かい剥離痕もあり、スクレイパーに転用されたものかもしれない。

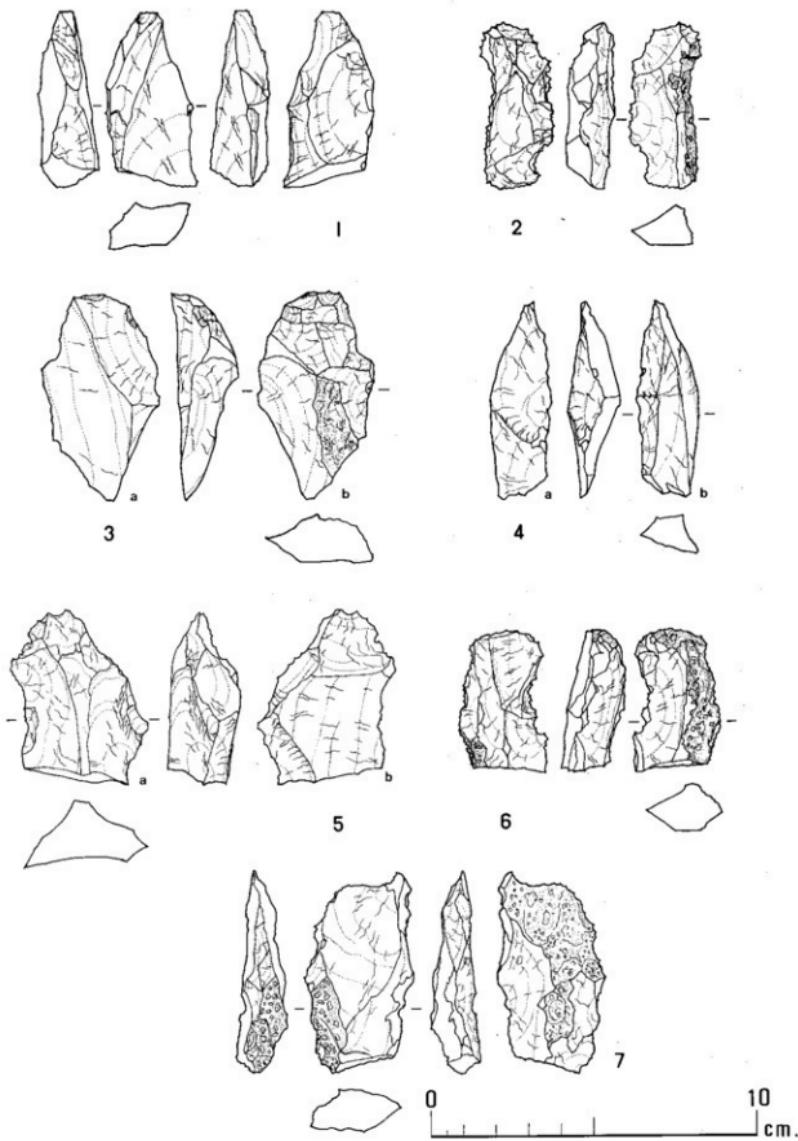
#### 〈横長剥片石核③類〉(図版第28、第59図11~13)

11. 盤状剥片を素材とし、小形の剥片が不定形に剥離されている。

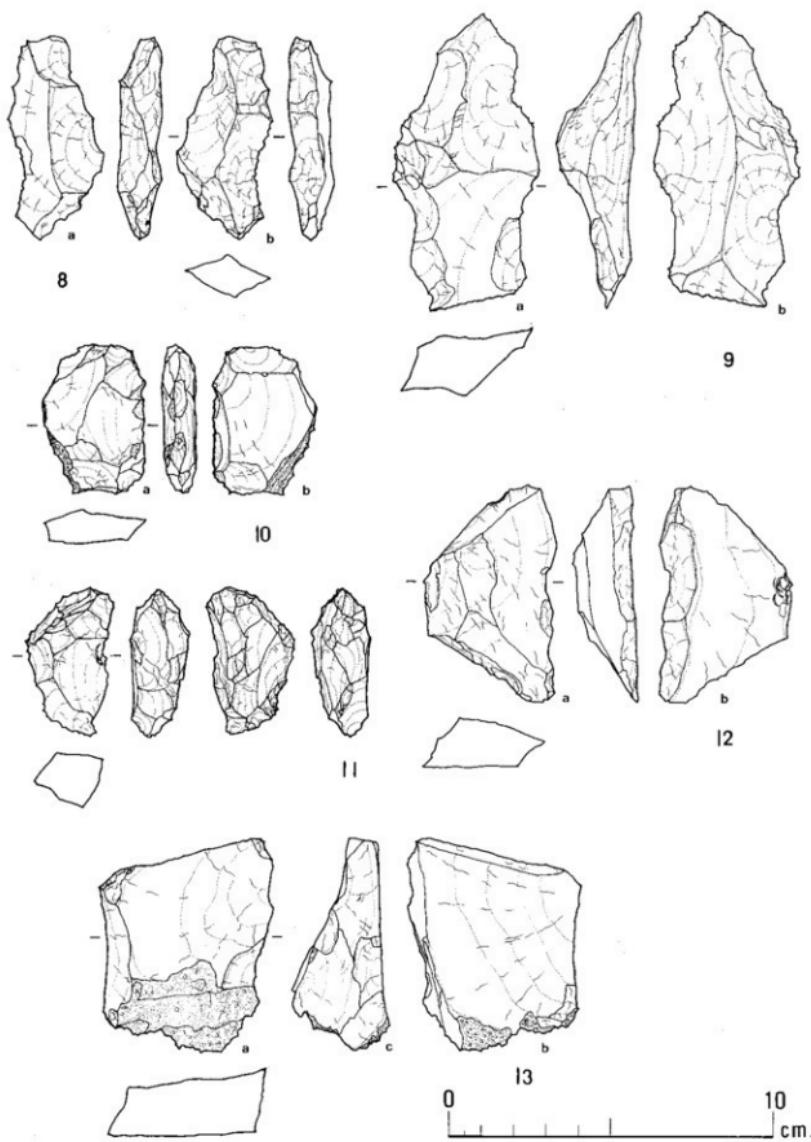
12. 平坦面を任意に打撃することによって不定形の剥片が剥離された石核である。剥片剥離痕としてはa面左下半部に3つ、b面左半部に2つ明確なものが見える。

13. 自然面を残し、盤状剥片そのものともいべき石核である。c面に剥片を剥離した痕跡がうかがえる。

(林)



第 58 図 横長剝片石核実測図(1)



第 59 図 横長剥片石核実測図(2)

#### (4) 横長剝片

総数で649点出土したが、12点のみ図化し、以下3つに分けて列挙しておく。

##### 〈翼状剝片の外形的要素をもつ剝片〉(図版第20、第60図1～3・第61図4)

1～4ともに打面調整がなされ、底面・ネガティブ面・ポジティブ面をそれぞれ有しているので翼状剝片として把握した。量的には少ない。

- 両端部ともに欠損しているが、小さな打面調整痕が2つあり、打点部が残存している。
- 下半部が欠損。打点は残り、ネガティブ面からの細かな打面調整が施されている。
- 底面・ネガティブ面がそれぞれ1つで、打面調整も認められる。いわゆる「翼状剝片」の形状を想起させる破片である。打点部は欠失している。
- 1～3に比べて翼状剝片的性格がうすらぐ。ネガティブな剥離面が3つみられ、うち1つは打点が大きくずれている。また、打ち損ないと思われる剥離面も含まれる。しかし、打面調整は認められる。

##### 〈打面調整を有する剝片〉(図版第29、第61図5～8)

打面調整が認められる剝片を一括した。

- 複数のネガティブな剥離面を有する。細かな打面調整痕がみられる。
- 任意の方向からの打撃による不定形の剝片の剥離痕が背面側に数多くみられる。打点部にはていねいではないが打面調整が施されている。
- かなり不定形な剝片であるが、細かな打面調整がみられる。
- 両端部が欠損している小形の剝片で、打面調整痕および打点が明瞭に残っている。

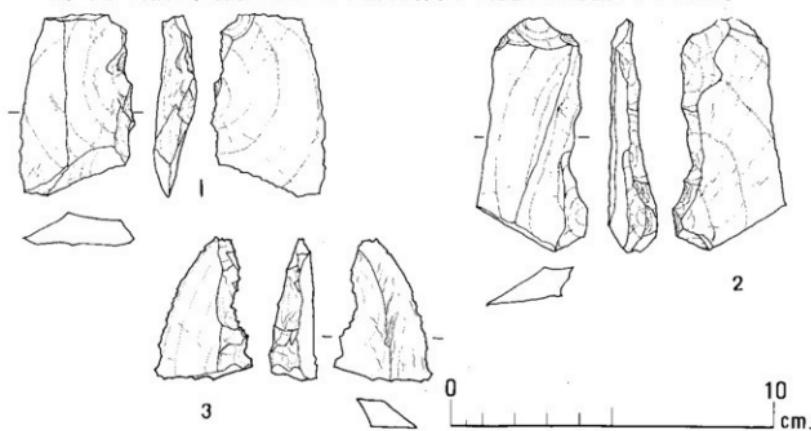
##### 〈平坦な打面を有する剝片〉(図版第29、第61図9～12)

平坦面を打撃して剥離された剝片で、横長剝片の中ではかなりの量を占める。

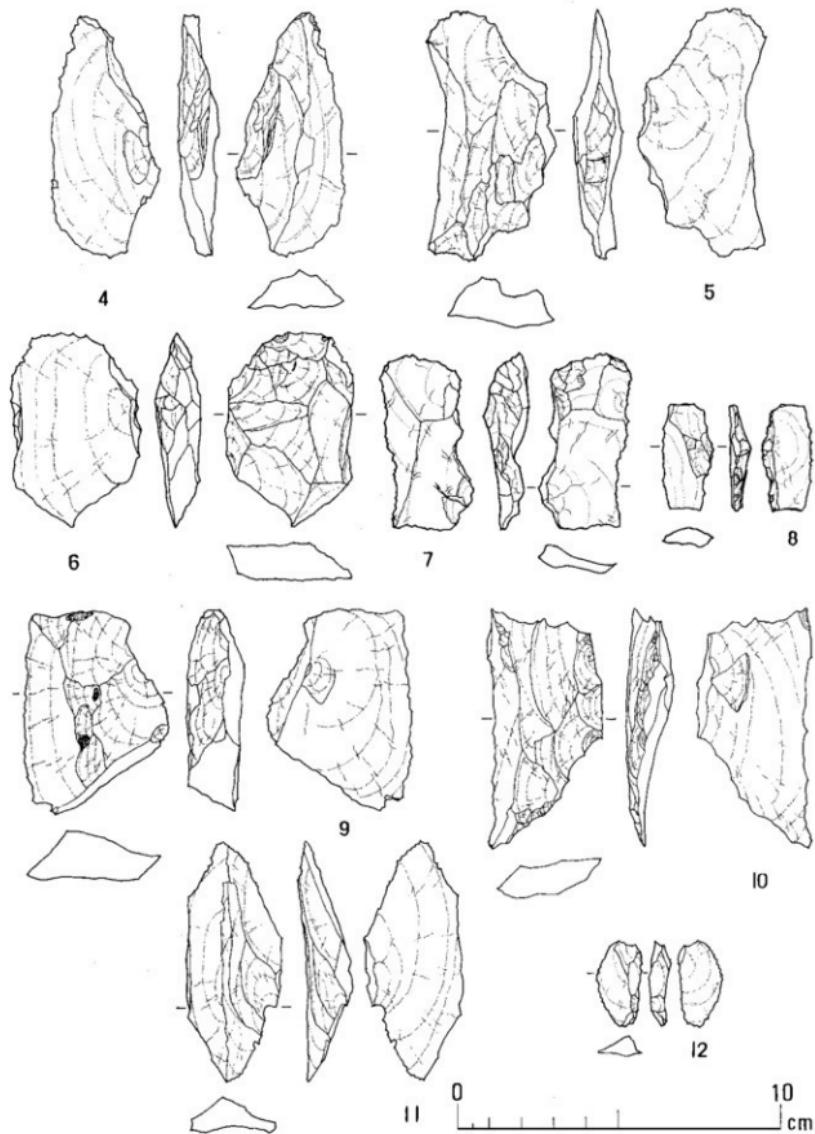
- 上下半部とも欠損。盤状剝片を素材とし、打点のずれは少なく近接している。

- 10・11. 底面を有し、複数の不定形なネガティブ面を有する。

12. 小形の剝片で、明確ではないが平坦面を打撃して剥離された痕跡がうかがえる。



第60図 横長剝片実測図(1)



第 61 図 横長剣片実測図(2)

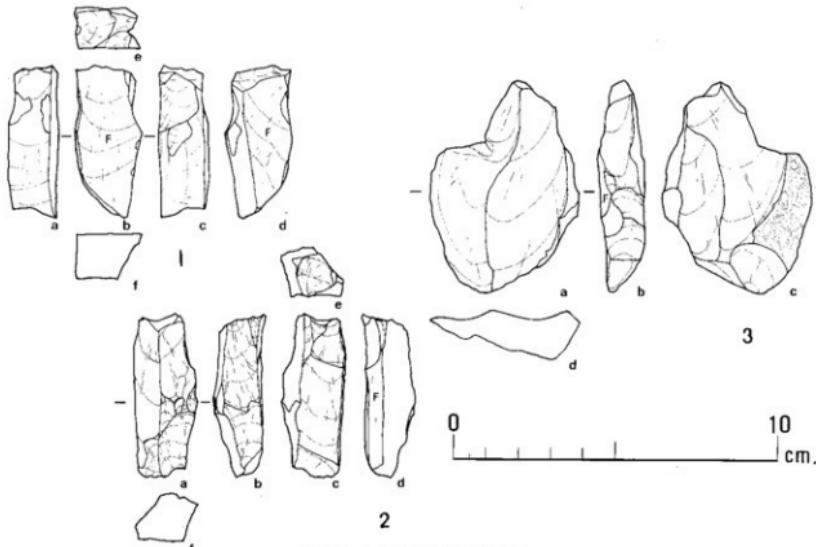
(5) 縦長剥片石核 (図版第30, 第62図 1~3)

縦長剥片石核は、31点出土し、3点図化した。

1. 青灰色の硬質のサヌカイトである。b面とd面がフラットな板状石核である。a面とc面に作業面があり、c面は上下の2方向から剥離が行なわれている。打面はe面とf面にあり、e面には粗雑な打面調整がなされている。f面の打面はe面側からの剥離によって消滅しているから、打面転移はe面とf面とが交互になされる場合があったことがうかがえる。e面では両小口から作業がなされている。この石核は、これ以上、剥片を剥取することが無意味となつた残核である。従って、当初に取られた剥片はもっと長いものであり、剥離を続けるに従い序々に短くなつていった。剥片の幅は、小口面から剥取するという方法による限りは石核の厚さに限定された。

2. 暗灰色の硬質なサヌカイトである。d面にフラットな面を残す。作業面は任意の位置に置かれており、剥片の幅には自から一定の自由があったと思われる。フラットな面は剥離作業によって剥取され、次第に狭小化している。従って、この方法によって取られた剥片には1側面にフラットな面を有する場合が多かったであろう。打面は、a面に上下の2方向からの剥離痕が残されているようにe面とf面にある。打面に調整はなく、石核形成時の面がそのまま利用されている。

3. 淡黄白色で風化の強いサヌカイトである。b面の一部にフラットな面が残っている。c面には自然面が残っている。自然面と、フラットな面を延長させた面とはほぼ等間隔に相対しており、その間隔は約2.5cmである。この石核は、本来、厚さ2.5cmの大型の板状の石核であったと思われる。作業面はa面と、風化が強く不明瞭だがb面・c面にも認められる。a面とc



第62図 縦長剥片石核実測図

面の剥離は、フラットな面又は自然面と角度約45度又は135度の位置になされている。このため、剥片は長さに比して幅が広く、側縁が薄いものが得られることが推測される。打面は上端面にあり、調整はみられない。石核形成時の面がそのまま利用されたものと思われる。

縦長剥片石核の石材は、風化が強い白色のサヌカイトが大部分である。形状は、1のような板状のものが多い。作業面は、石核のフラットな面と90度の位置である小口面に存するものが大部分である。しかし、2・3のようにフラットな面と45度又は135度の位置に作業面が存するものもある。得られる剥片の幅は、前者が小口面の厚さに左右されるのに対し、後者は小口面の厚さから自由であり、長さに比し幅広の剥片が得られる。

#### (6) 縦長剥片 (図版第30、第63図1~9)

縦長剥片は、130点出土し、9点図化した。分類は、櫛石島大浦遺跡の案<sup>(5)</sup>に従って行なった。

##### A類 背面に1本の稜線をもち、断面が三角形を呈するもの。

1. 風化が激しい白色のサヌカイトである。背面に2面のネガティブな面がある。両側縁はともにエッジ状をなしていたと思われる。打面は平坦に調整されている。下端面は階段状の剥離痕を残して折損している。

2. 白色の風化が強いサヌカイトである。背面右側面と背面左側縁上部にフラットな面がある。石核のフラットな面の残存である。片側縁はエッジ状をなしている。背面左のネガティブな面の打点は下端部にあったが、剥片剥離時に欠失している。上端部に剥片剥離時の打点を有す。粗雑であるが調整が加えられている。

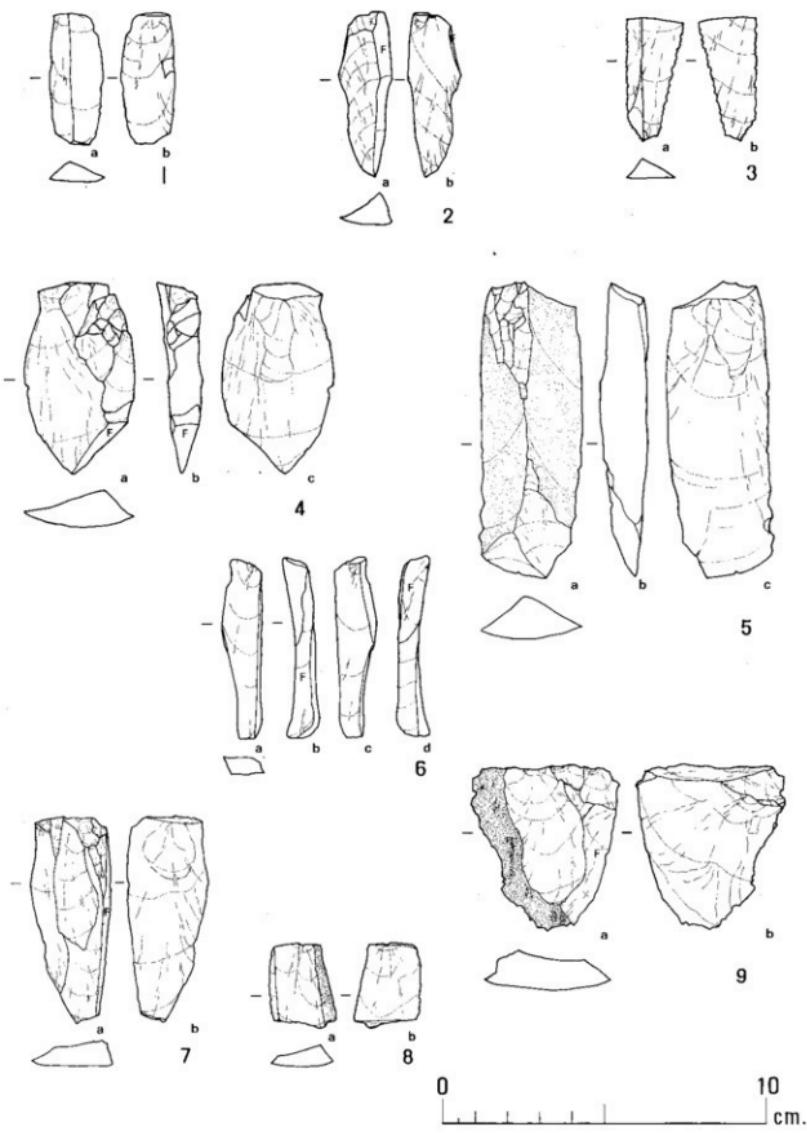
3. 暗灰色の風化の強いサヌカイトである。両側縁はともに直で、エッジ状をなしている。下端部は発掘時に破損したが、鋭く尖っていたと思われる。形状は二等辺三角形をなし、剥突機能を十分に有している。打面は失なわれており、その跡は平坦に調整されている。

4. 青灰色の硬質なサヌカイトである。背面右側縁下部にフラットな面を有す。背面右側面の粗雑な複数のネガティブな面は、主要剥離面によって切られている。これは、ネガティブ面が石核段階において断面三角形の剥片を得る目的のためになされたものであることを示している。両側縁は鋭いエッジ状をなしている。「切る」機能は十分に備わっている。打面は平坦に調整されている。

5. 暗灰色の硬質なサヌカイトである。長さ91.6mm、幅29.5mmの大型の縦長剥片である。下部は発掘時に折損したために接合した。背面の2側面はフラットな面である。稜線は石核の角である。両側縁は鋭いエッジ状をなしている。左側面上部の複数のネガティブな面は、尖り気味の稜線を均すためになされた二次調整である。下端部の2面のネガティブな面は、剥片剥離後においても同部分に断面並みの肉厚が残ることが予想されたために取られたものであろう。その結果、下端部においても鋭いエッジが得られている。主要剥離面には打溜痕である窪みがある。打撃が強力であったことを示している。打面は山形に調整されている。この剥片は「切る」機能を十分に有し、その完成度は高い。また、製作過程の痕跡が明瞭に残存しており、仕上がりも良好である。

##### B類 断面が四角形ないしは、それ以上の多角形を呈す角柱状のもの。

6. 風化が激しい白色のサヌカイトである。b面とd面にフラットな面がある。a面のネガティブな面の打点とc面の打点は、ともに上端面にある。打面は平坦に調整されている。この剥片は、板状石核の小口面を作業面として得られたものである。



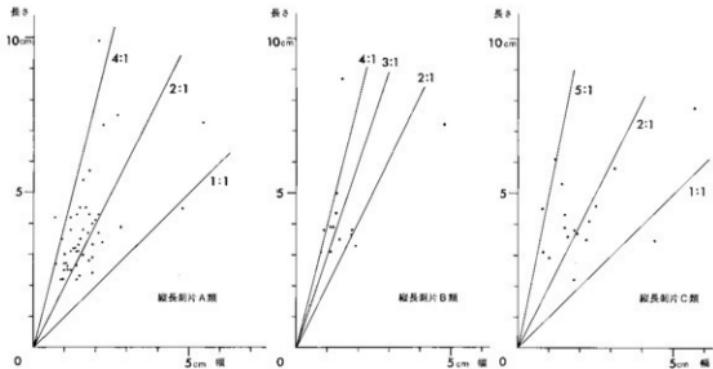
第 63 図 縱長制片実測図

C類 背面に1ないしそれ以上のネガティブな面をもち、断面がほぼ台形を呈するもの。

7. 風化の強い白色のサヌカイトである。背面の右側面と左側縁下部にフラットな面がある。石核のフラットな面の一部である。背面中央の2面のネガティブな面は上下2方向からの剝離で、切り合い関係にある。左側面はネガティブな面で、その側縁は鋭いエッジ状をなしている。腹面はポジティブであるが、平坦に近い。打面は平坦に調整されている。先端部は欠失している。

8. 暗灰色のサヌカイトである。下半を欠失している。背面の右側面はフラットな自然面である。ネガティブな面の打点は上方にあるが、打点は存しない。左側面は浅いがエッジ状をなしている。上端面にある打面は平坦に調整されている。

9. 青灰色のサヌカイトである。背面左側面は自然面である。右側面は上部のネガティブな面を除き、フラットな面をなしている。右側縁は鋭いエッジ状をなしている。中央のネガティブな面はファーストフレイクの剝離痕である。主要剝離の打点は上端面にあり、平坦に調整されている。上端面のネガティブな面はファーストフレイク剝取のための打面である。



第4表 縦長剝片計測表

縦長剝片の長幅比をみると、A類とC類は2対1を中心群をなし、B類は3対1前後に拡散している。(第4表)。A類とC類はB類に比して相対的に幅広であり、逆に、B類は相対的に縦長である。B類は2面のフラットな面を有し、それらは等間隔の位置にある。A類とC類は1ないし2面のフラットな面を有し、主要剝離面と鋭角に接し、また、2面ある場合は、さらに、それが鈍角に接して稜線をつくっている。

長幅比とフラットな面の在り方から2種の剝離技術が存したことがうかがえる。一つは、板状石核の小口面を剝離する方法であり、二つは、不定形な石核に対してその鈍角をつくる2面を剝片の側面としてそのまま利用する方法である。石材面からは、風化が強い白色のサヌカイトが圧倒的に多く、両種を分ける特徴は見出せない。機能面からは、角柱状をなすことが多いB類は「突く」機能を、断面が三角形又は台形で側縁が鋭いエッジ状をなすことが多いA類とC類は「切る」・「突く」又は両機能を併せもつことが想像できる。しかし、両種の間の時期差の存否、他の石器との関係などの問題は、今後の課題である。

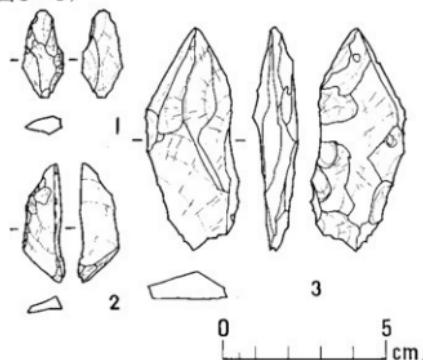
(野中)

(7) 二次調整ある剝片 (図版第32, 第64図1~3)

1. 主要剝離面からの加撃による二次調整が施されている。主要剝離面には二次調整がみられない。背面の側辺一部分は調整が施されておらず、刃部状に鋭くエッジが残っている。

2. 不定形の剝片を半折したものとおもわれる。二次調整は腹面からと考えられるが明瞭さに欠ける。

3. 主要剝離面側に二次調整がみられる。厚みのある板状の剝片であったとおもわれ、側面部には剝離痕のみられない面がある。  
(坂口)



第64図 二次調整のある剝片実測図

(8) 細石刃核

13点出土しており、全点図化した。石材に関しては、ハリ賀安山岩がほとんどで、サヌカイト製のものが1点である。以下作業面の形状と数とにより3つに分けて説明していくことにする。

〈作業面が1つで、長方形を呈するもの〉(図版第31, 第65図1~7)

1. a・b両面とも風化が著しい。打面は作業面c側からの2回の剝離によって形成されており、c面には3条のブレイド作出痕が認められる。

2. a面がネガティブ、b面がポジティブな剝離面である。打面の形成は作業面c側からの剝離による。c面には2条のブレイド作出痕がみられる。

3. b面が自然面で、a面側からの剝離によって打面形成がおこなわれ、有効加撃面調整が作業面cからなされている。c面にはブレイド作出痕が2つ残っているが、1つは下縁部まで至っておらず、もう1つは階段状剝離の様相を呈している。

4. 作業面cに下縁部までつきぬけている1条のブレイド作出痕を残している。a面は風化が激しい。

5. a面がネガティブ、b面がポジティブな剝離面である。作業面cの左半部にブレイド作出痕がみられるが、あまり明瞭でない。

6. 比較的幅広いブレイドが剝離された痕跡を作業面c右半部に残しているが、やや階段状剝離の様相をみせている。

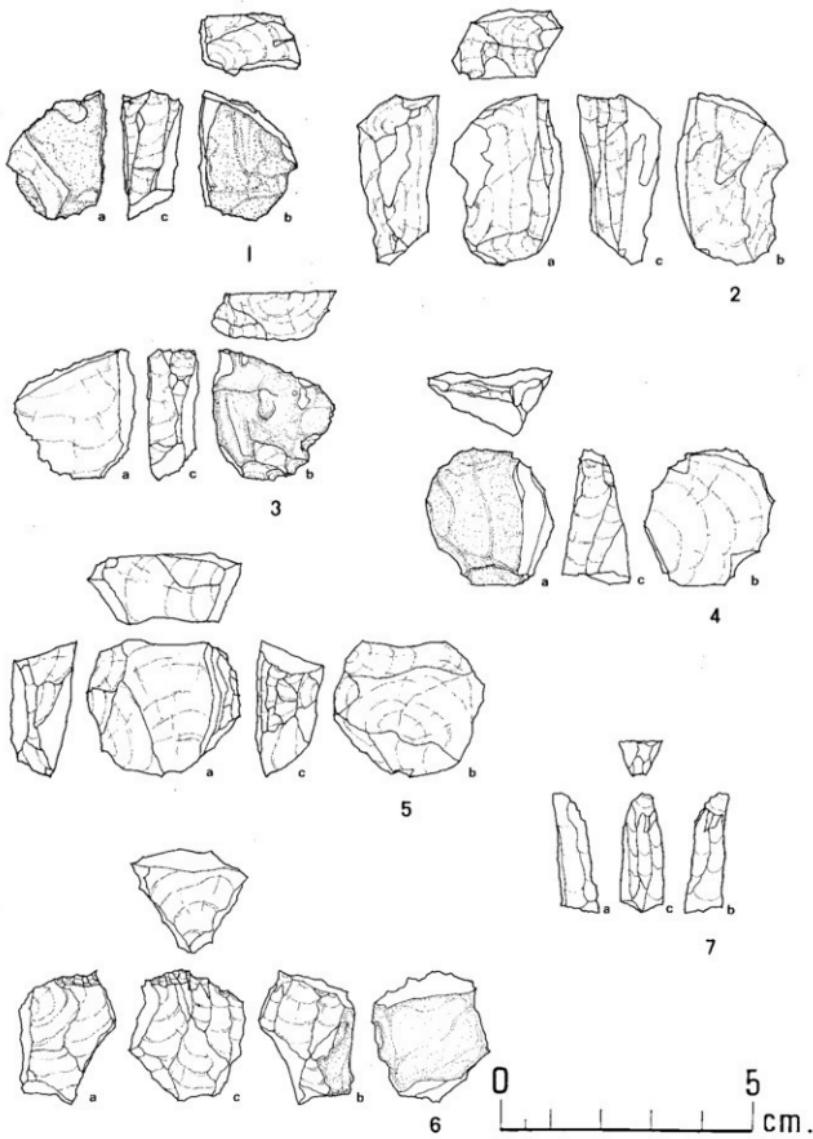
7. サヌカイト製の小さな細石刃核で、作業面cには2条のブレイド作出痕が認められるが、いずれも下縁部まで至っていない。

〈作業面が1つで、尖底(舟底形)を呈するもの〉(図版第31, 第66図8~11)

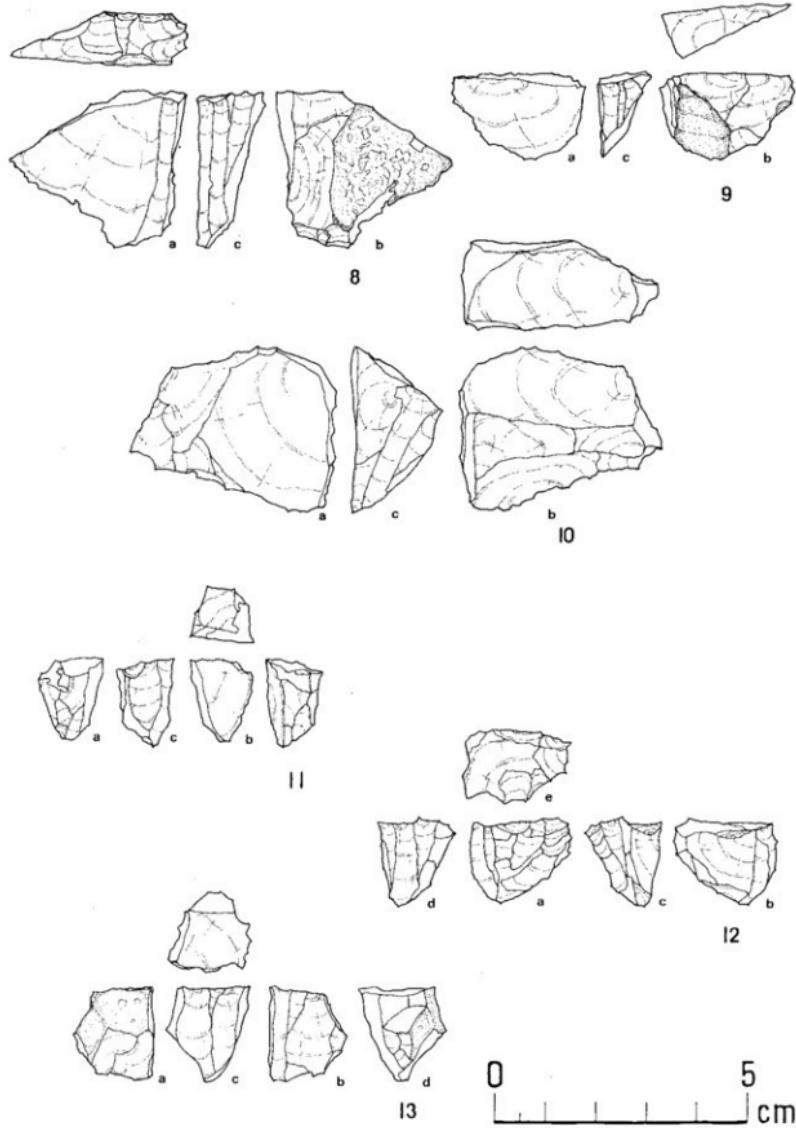
8. a面にポジティブ面を、b面に自然面とネガティブ面を残す。作業面cには3条の細長いブレイド作出痕がはっきりと認められる。打面にはc面側から有効加撃面調整が施されている。

9. 三角形の小さな作業面をもつ。打面に有効加撃面調整はなされていない。

10. かなり大きな細石刃核で、風化が著しい。作業面cは三角形を呈し、その中軸に1条の



第 65 図 細石刃核実測図(1)



第 66 図 細石刃核実測図(2)

ブレイド作出痕が下縁部までつきぬけている。

11. 小形の細石刃核で、作業面cには太く短いブレイド作出痕がみられる。打点は明瞭に残っている。

〈作業面が複数あるもの〉(図版第31, 第66図12・13)

12. b面の一部と他の3面がいずれも作業面として把握でき、数多くのブレイドが作出されている。打面eには、a面とc面からの有効加撃面調整がみられる。

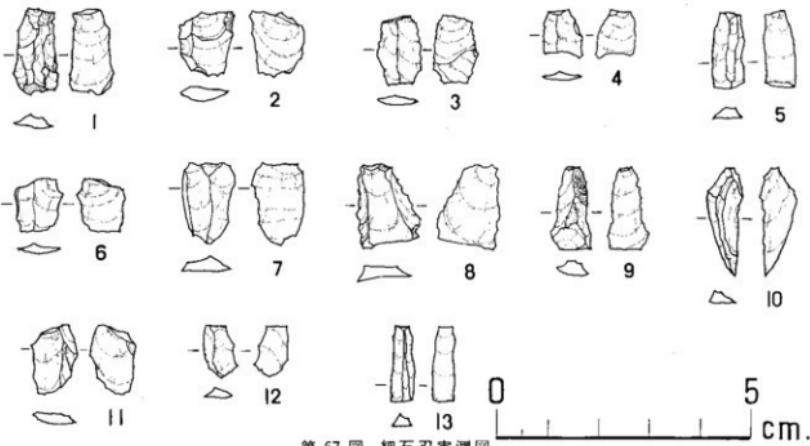
13. c面とb面に明確なブレイド作出痕が認められる。d面は風化が進み、破損もしているので明瞭でないが、ブレイドの作出を意識した作業面の1つではないかと思われる。

(9) 細石刃 (図版第32, 第67図1~13)

石材についてみると、大半がハリ質安山岩(1~8)で、サヌカイト(9~12)が4点、黄灰色の安山岩製のもの(13)が1点あった。出土した13点全部を図化して掲載している。

1. 頭部に明確な打点を残す完形品で、背面には数多くの剝離痕がみられる。
2. 太く短い完形の細石刃で、頭部に打点を残す。
3. 先端がわずかに欠損。背面中軸に1本の稜線がみえる。
4. 先端部が大きく欠損し、かなり偏平な感じがする。
5. 頭部に打点を残す。前回のブレイド作出が下縁部まで至っていない。
6. 先端部が欠損し、打点が中軸からずれている。
7. 頭部がわずかに欠損。背面中軸に稜線がみえる。
8. 頭部が欠損し、かなり幅広い。
9. 先端部に後世のものと思われる破損がみられる。背面の一部に自然面を残している。
10. やや彎曲しているが完形品である。背面に前回のブレイド作出痕が残っている。
11. 頭部に打点を残し、偏平な感じがする完形の細石刃である。
12. 非常に薄く小さいが、完形品である。
13. 先端部は欠損。石材のためか打点部が明瞭でない。背面には前回のブレイド作出痕が残っている。

(林)



第67図 細石刃実測図

#### ⑩ 細石刃核未製品（図版第33、第68図1～5）

いずれもハリ質安山岩製である。

1. 舟底状の形態をした細石刃核未製品である。a、b面は側面と想定できる。作業面と想定されるc面および反対面から両側面にむかっての連続的剝離が考えられる。両面加工品を半蔵したものとおもわれ、分割面と考えられるd面は打面と想定され、c面からの打面調整が施されている。

2. 作業面と想定できるc面に縦方向の剝離がみられる。この剝離は平坦な風化面を打面部としている。a、b面は側面と想定できる。a面の剝離面の打点部は除かれている。b面は、大部分自然面を残している。

3. 剥片を素材とした細石刃核未製品である。a、b面は側面と想定できる。a面は右側縁部に礫面を残し、d面、c面の反対側の礫面およびe面の3方向からの剝離が施されている。b面は主要剝離面と思われる。作業面と想定できるc面は礫面上に打点がある、一回の加撃による剝片剝離で作成されているとおもわれる。d面あるいはe面が打面と想定できるが、打面調整は施されていない。

4. 剥片を素材とした細石刃核未製品である。a、b面は側面を想定することができる。a面は礫面を大きく残し、c面、d面よりの剝離が施されている。b面は主要剝離があったと考えられる。d面あるいはe面が打面と想定できる。

5. 剥片を素材とした細石刃核未製品である。a面は礫面を大きく残している。b面は素材の主要剝離面である。e面はb面の打面として打面調整が施されている。作業面と想定できるc面はb側面からa側面に向っての調整剝離がみられる。またd面は打面と想定でき、b面からの打面調整がみられる。

#### ⑪ ハリ質安山岩剝片（図版第34、第69図1～19）

長崎通り遺跡出土のハリ質安山岩は、前述の細石刃・細石刃核、細石刃核未製品を除き、114点である。

1. 背面は自然面を残し、側縁からの剝離が施されている。  
2. ポジティブな剝離面を打面として剥ぎ取られた横長剝片である。背面は自然面を除いた剝片剝離と、これの逆方向からの剝離が施されている。

3. 横長剝片である。背面の下縁部からの剝離が礫面を切っている。主要剝離面は、剥片のわずかな平坦部を打面として剝離されている。

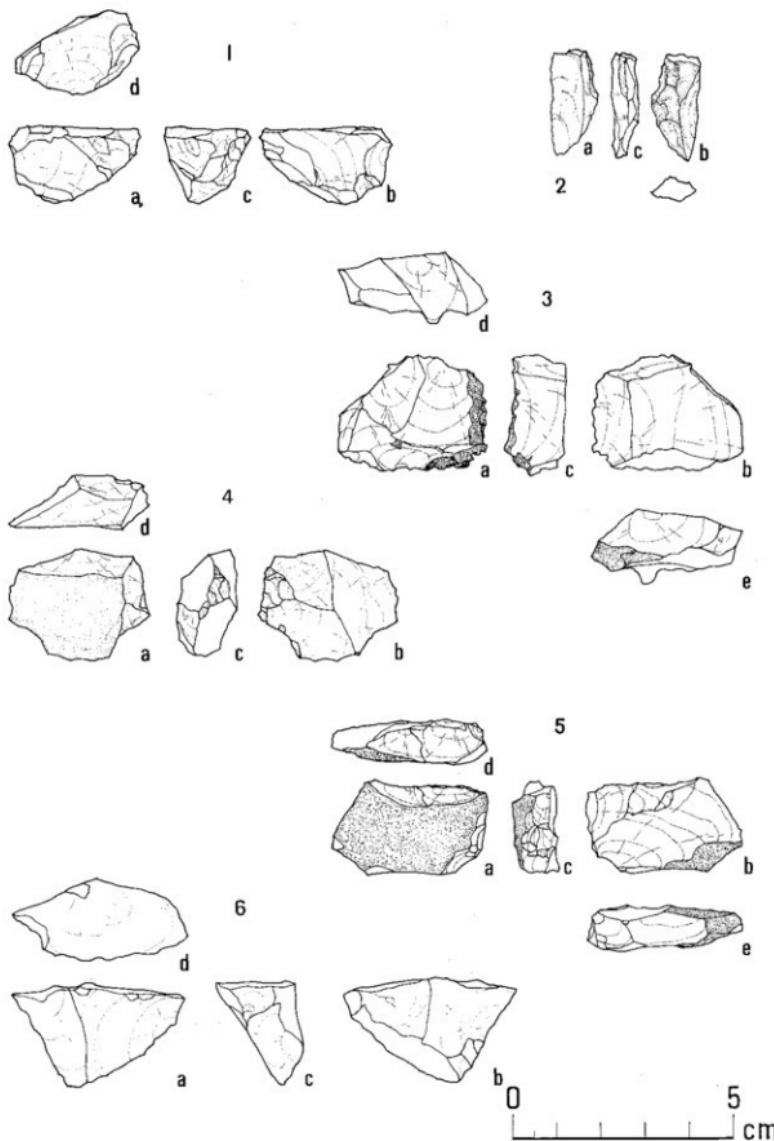
4. 縦長剝片である。主要剝離面から、側面、背面の剝離が施されている。剝片上端は打面調整が施されている。

5. 主要剝離面から背面にむかって、両側辺に調整が施されている。下縁部からの調整もみられる。

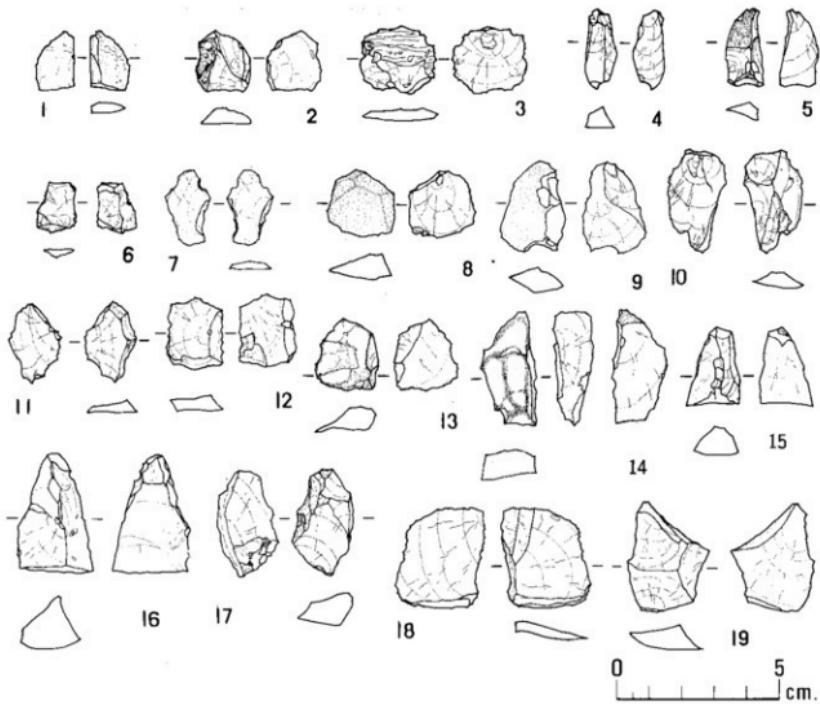
6. 小さな剝片である。主要剝離面から背面にむかっての剝離がみられる。  
7. 両側辺に細かな調整がみられる。剝片両端は刃部状にエッジが残る。  
8. 平坦な礫面部を打面としたファースト・フレイクである。背面は礫面のみで形成されている。

9. 縦長剝片である。主要剝離面は風化した平坦部を打面とした2つの剝離面が切れあっている。背面の右縁辺と下縁部に調整が施されるが、左縁辺部は礫面のままである。

10. 縦長剝片である。背面は、左側辺からの2回の剝離と剝離面上に打点のある剝離が施さ



第 68 図 細石刃核未製品実測図



第 69 図 ハリ賀安山岩制片実測図

れている。

11. 背面、主要剥離面とともに打点の残っていない剥離面で形成されている。主要剥離面から背面にむかって調整剥離がみられる。
12. 打点の残る剥離面が背面側にみられる。主要剥離面の左側縁からの2次調整がみられる。
13. 背面は躰面のみである。主要剥離面の打点部は新しい剥離により除かれている。
14. 背面は自然面である。自然面の平坦部を打面としてできた横長剝片を半折したものである。主要剥離面は、最終剥離面よりも古いものと思われ、風化している。
15. 主要剥離面が縦長状にのびる。背面に桶状剥離がみられ、細石刃核作業面再生剝片とも考えられる。
16. 主要剥離面側の端部に、剥離面とは逆方向からの2次調整がみられる。
17. 不定形の剝片である。背面の側辺上部に調整を施し、形を整えたものとおもわれる。主要剥離面にはさらに調整を施しており、細かい剥離が切れあっている。下縁部には使用痕とも考えられるわずかな剥離がみられる。
18. 板状の剝片である。横長剝片を半折したものである。
19. 横長剝片を半折したものとおもわれる。背面上部からの剥離は半折の後、半折面を打面

部として施されたものである。

(12) 黒曜石剝片 (図版第33, 第70図1・2)

黒曜石剝片は2点出土している。前述のごとく、黒曜石製ナイフ形石器が出土しているがこれらに伴うとおもわれる剝片類は一片も出土しておらず、この2点も剝片としてはかなり大型のもので石器として使用された可能性も考えられる。

1. 背面に自然面がみられ、中央部に平坦な剝離面を残して剝離が施されている。縁辺は刃部状にエッジが鋭く残っている。

2. 主要剝離面の打点部あたりに細かい調整が施されている。背面は礫面を残している。 (坂口)

(13) 尖頭器 (図版第35, 第71図1~7, 第72図8~15)

尖頭器は、26点出土し、15点図化した。分類は三稜形尖頭器を新たに加えた他は、櫛石島花見山遺跡ホウロク石地区<sup>(6)</sup>での基準に従って行なった。

I類. ナイフ形石器を素材にして主要剝離面より二次調整を加え、刃部をつぶしたもの。

1. ナイフ形石器②類<sup>(7)</sup>を素材とし、ポジティブな面から刃部の半分に調整を加えている。風化が強く、調整の跡は不明瞭である。

II類. I類に背面側からの調整を加え、両面加工を始めたもの。

2・3. ナイフ形石器④類を素材とする。2は、a面左側縁先端近くにポジティブな面から調整が加えられ、基部の片側縁には両面から調整が加えられている。3は、a面左側縁にポジティブな面から調整が加えられ、もう一方の側縁には肉厚をとるように両面から大きな調整がなされている。基部は欠失している。

4. ナイフ形石器⑤類を素材とする。c面右側縁にネガティブな面から調整が加えられている。もう一方の側縁には両面から疎らな調整が加えられている。基部は意図的に斜めに調整されている。

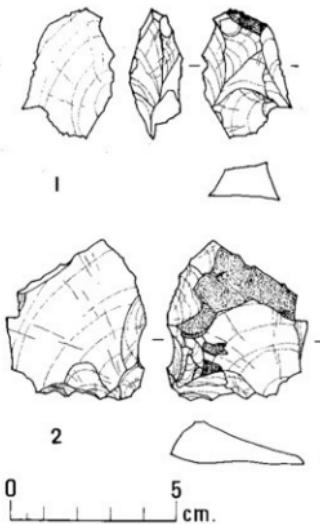
IV類. 調整が必要最少限に行なわれた尖頭器で、素材の痕跡が残存しているもの。

6. a面には縦長のネガティブ面が、b面には縦長のポジティブ面が残されている。両側縁には両面から細かな調整がなされている。鋭い先端部を有し、基部は調整がなされており、欠損はない。

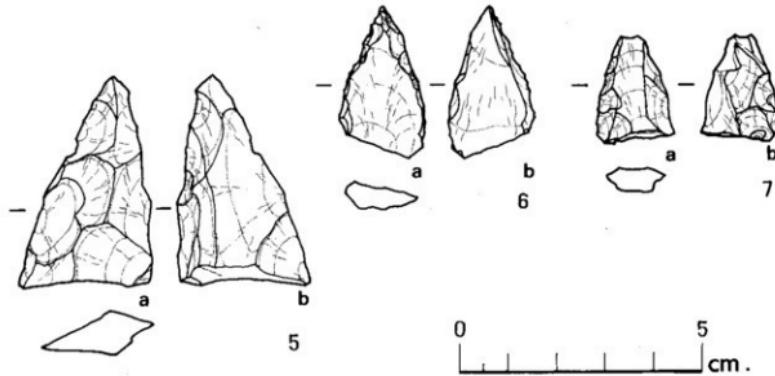
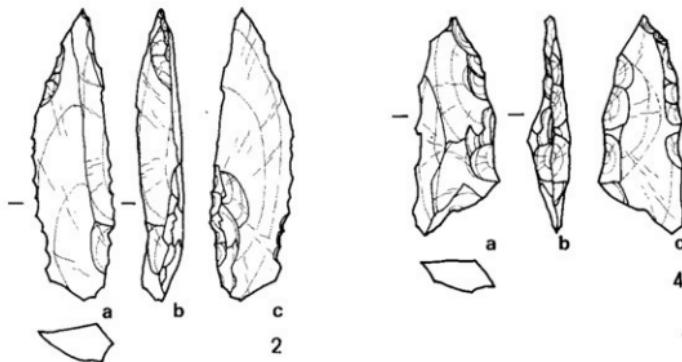
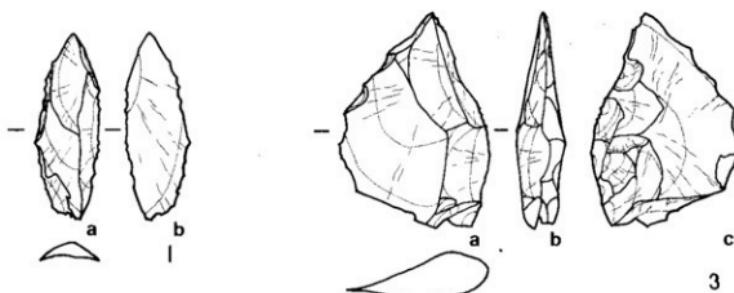
7. a面には縦長のネガティブな面が、b面には横長のポジティブな面が残されている。<sup>かようづひ</sup>両側縁に両面から調整が加えられている。b面左側縁の蝶番剝離は加撃の方向を誤ったことによるものであろう。

8. a面に縦長のネガティブな面が残されている。先端部片側縁に石核の一部と思われるフラットな面が残されている。両側縁に両面から粗い調整が加えられている。

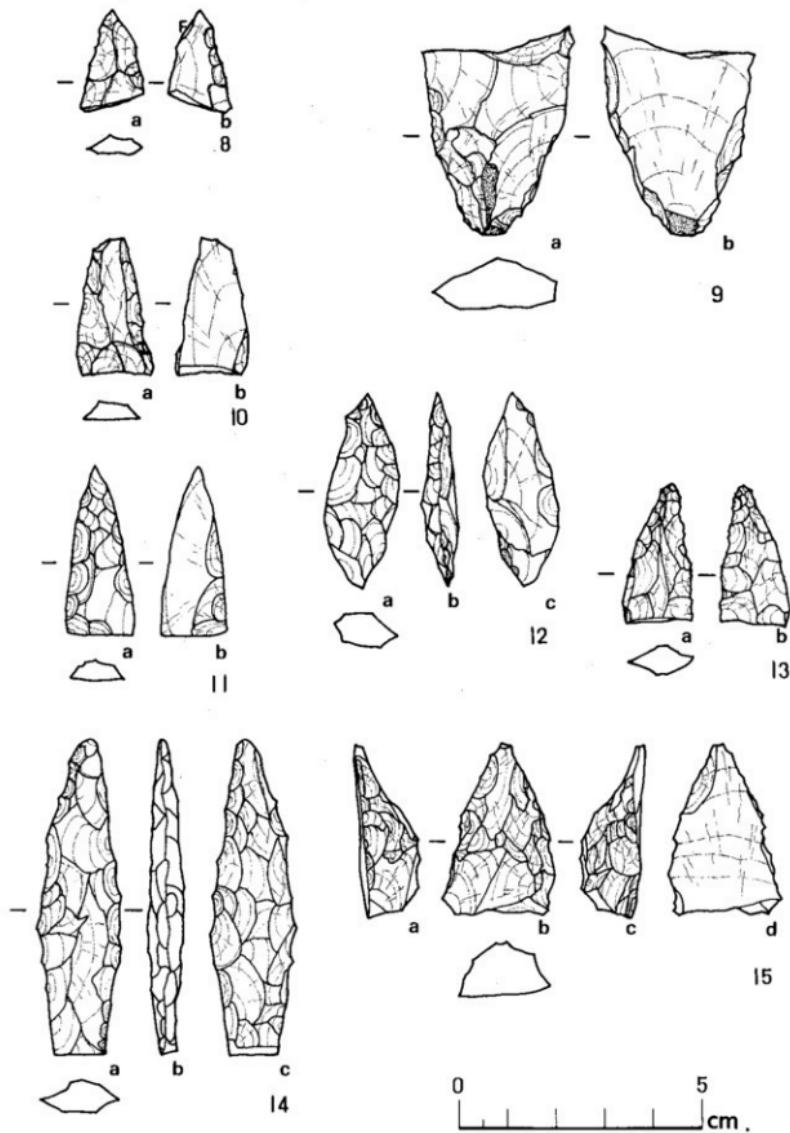
9. 大形の尖頭器の基部と思われる。しかし、スクレイパーとして利用されていた可能性もある。b面に縦長のポジティブな面が残されている。打点も残っている。a面には粗いが全面



第70図 黒曜石剝片実測図



第 71 図 尖頭器実測図(1)



第 72 図 尖頭器実測図(2)

に調整がなされている。b面側縁にはa面から調整がなされている。

10. b面に横長のポジティブな面が残されている。a面中央にネガティブな面が残され、両側縁と基部には腹面より粗い調整が施されている。先端部は欠損している。

11. b面に横長のポジティブな面を残す。a面に腹面より細かい調整が加えられている。風化が強く、調整痕は不明瞭である。

15. 山稜形尖頭器である。基部は欠損しているのであろう。山稜部に大きく粗い調整が全面になされている。

V類、調整が十分になされ、素材の想定が困難なもの。

12. 木葉形尖頭器である。風化が強い。a面には細かで丁寧な調整がなされている。b面中央にネガティブな面を残すが、両側縁には調整がなされている。断面はレンズ状である。

13. 両面全面に細かで丁寧な調整がなされている。基部面は平坦に調整されており、欠失はない。断面はレンズ状である。

14. 柳葉形尖頭器である。両面に比較的大きく、粗い調整が全面になされている。風化が強い。基部を欠損しているためにその形状は不明である。

I・II類は、ナイフ形石器が、本来有する「切る・突く」機能のうち後者の機能をより確実にするために新たな調整を加えた結果の製品である。IV類は、素材に種々あるが、最初から「突く」ための道具として製作されたものであろう。わずかに残された素材の痕跡から、縦長剝片の使用例が目立つ。その意味については今後の解明を待ちたい。V類は、調整が十分になされ、「突く」機能をより精確にするという意図がうかがえる。  
(野中)

#### ⑭ スクレイパー (図版第36、第73図1~5)

一辺あるいは複数の辺に調整を施して刃部を形成しているものをスクレイパーとして認定した。全部で22点出土したが、いずれもサヌカイト製であり、そのうち5点國化した。なお、形状から、刃部が内灣・外灣・直線となっているものをそれぞれ掲載している。

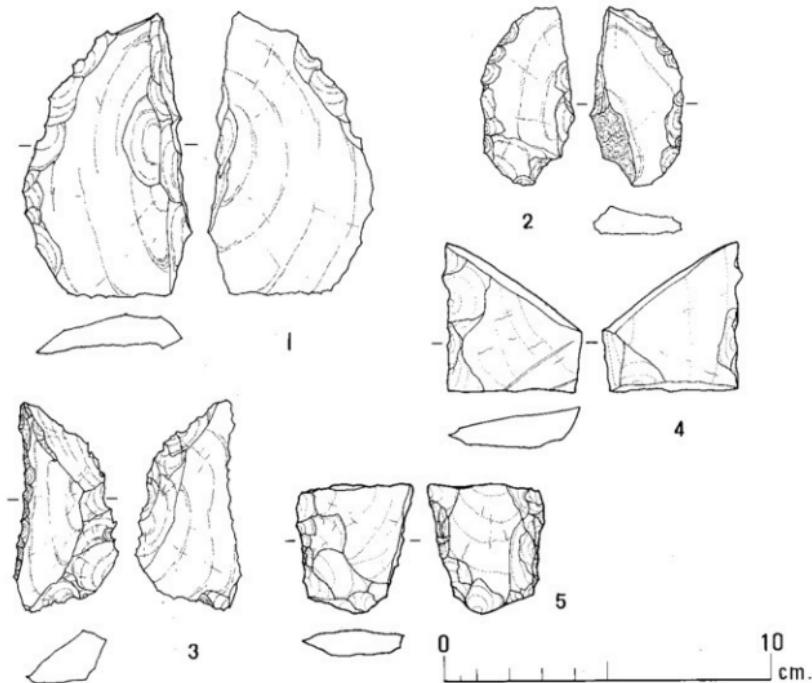
1. 横長の剥片を素材とし、外湾する一辺を刃部としている。調整は一部分を除いて片面に施され、あまり丁寧ではない。風化が激しく白色性が強い。

2. 1と同様に刃部は外湾する一辺に設けられ、風化も著しい。調整は両面からなされている。

3. 内湾する一辺を刃部とし、非常に細かく丁寧な調整が片面のみに施されている。他に比べ肉厚なスクレイパーである。

4. 板状の剥片を利用したもので、偏平である。大半が欠損しており、刃部は直線的な一辺に設けられている。両面には粗い調整が認められるが、風化が激しいためそれほど明瞭ではない。

5. 4と同様に直線的な一辺を刃部とし、下半部が欠損している。風化は激しいが、調整は両面にみられ、大きな剥離とその後の細かい剥離とが見受けられる。  
(林)



第73図 スクレイパー実測図

## ⑯ 石 鐵 (図版第37, 第74図 1~4)

4点出土している。いずれの石鐵も凹基式のものである。1, 3は基部の抉りが非常に浅い、弓状をしており、平基式に近い要素<sup>四</sup>を有するとおもわれる。

1. 小型の石鐵である。先端をわずかに欠損している。側辺はやや内彎ぎみで、調整も粗雑で鈍い感じがする。

2. 二等辺三角形を呈するもので、調整は粗いが先端部は鋭い。表面の中央部には細かな階段状剥離がみられる。

3. 側辺は基部に向って内彎している。表裏ともに大きく剥離面を残し、細かな調整剥離が全周している。

4. 二等辺三角形を呈する。表裏とも中央部に剥離を残している。周縁部の調整は大きく粗いものである。

## ⑰ ドリル (図版第37, 第74図 5)

刃部を一部欠損しているが形状からドリルと考えられる。表面は剥離面を大きく残し、側辺部に調整を施して刃部を作出したものである。裏面は粗雑な感じの大きな剥離が施されている。基部は鋭利な剥離片の縁辺部をそのまま利用している。

(d) 叩き石 (図版第37, 第74図 6~9)

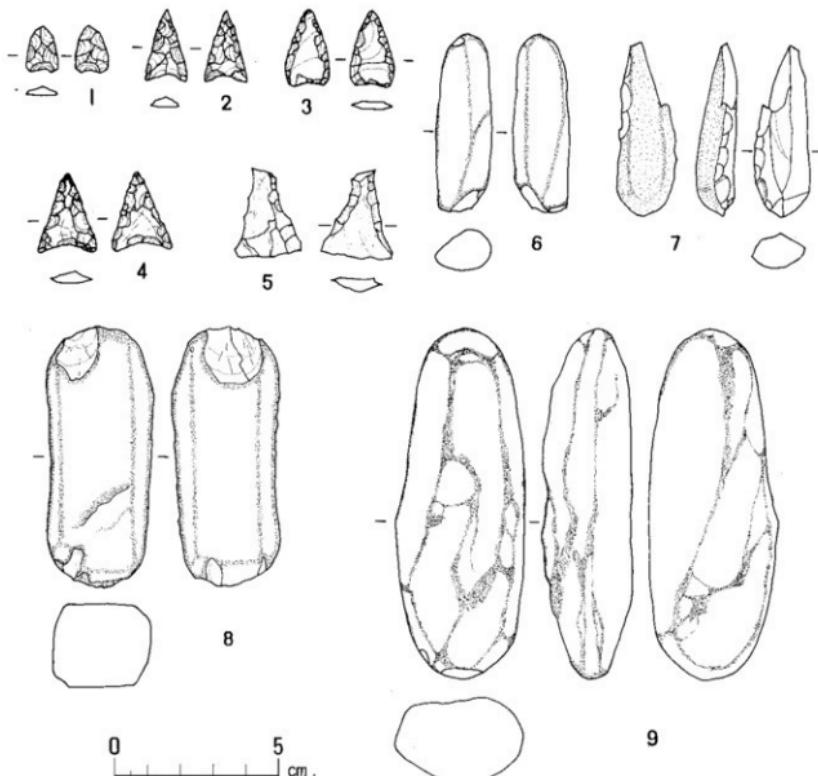
石材の一端あるいは両端部に使用痕とおもわれる打撃痕が認められるものを叩き石とした。5点出土している。

6. 下方端部に集中的に使用痕が認められる。またもう一端にも一箇所剥落がみられる。淡黄白色を呈する結晶片岩質のもので、かなり軟質である。

7. やや小型のものである。半截したものの両側面を研磨して形を整えたとおもわれる。中央面は研磨されていない。側辺部に調整がみられ、叩き石として使用後の二次転用も考えられる。淡緑暗灰色の石材で泥岩質のものとおもわれる。

8. 両端部に使用痕がみとめられる。上部には大きな剥落がみられる。下部には打撃痕がみられる。緻密な感じのする砂岩質のもので暗灰色を呈する。

9. もっとも大形のものである。叩き石として使用したとおもわれる明確な剝離痕がみられ



第74図 石鎌・ドリル・叩き石実測図

ないが、使用痕とも考えられる若干の剥落が両端部にみられる。灰黒色を呈する粘板岩系のもので、器盤全体に凹凸がはげしくみられる。

## 2 その他の遺物

長崎通り遺跡で出土した石器以外の遺物は、須恵器の甕2片、壺1片、皿1片、器種不明5片、土錘5点、土師器細片数10片、近・現代のものとおもわれる陶磁器2片などである。各時代にわたる遺物であるが、その出土量は石器に比べて少なく、いずれも器形を明確にできない破片であった。

(坂口)

### 注

- (1) 藤好史郎「与島西方遺跡」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告(I)」香川県教育委員会 1979年3月
- (2) 藤好史郎氏の御教示による
- (3) 刃部への調整加工の点を別にすれば、①～⑥類はおおむねA～F型に照合する。ただし、⑥類にはF型と異石材質のナイフ形石器を含めている。
- (4) いわゆる井島型ナイフ形石器を想定している。
- (5) 斎藤賢一「大浦遺跡の調査」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)」香川県教育委員会 1981年3月
- (6) 真鍋昌宏「花見山遺跡ホウロク石地区第1次調査」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(III)」香川県教育委員会 1980年3月
- (7) 本節(1)ナイフ形石器の項の分類に従っている。以下同様とする。
- (8) 香川県教育委員会「与島西方遺跡の調査」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(V)」1982年3月

## 第5節 小 結

5月下旬にはじまり4カ月弱を費やした長崎通り遺跡の調査も、各種石器の出土をみて、9月中旬に終了した。そこで、出土した石器を中心にして調査結果をとりまとめてみたい。

調査の結果は次の5点となる。

- ① 土層の攪乱を再確認したこと。
- ② 高台地区への遺物集中が明確になったこと。
- ③ 遺跡全体としての遺物出土量の少なさを確認したこと。
- ④ 細石刃核・細石刃の出土と縦長剥片・同石核の多さをおさえたこと。
- ⑤ 国府型ナイフ形石器と翼状剥片・同石核の少なさを把握したこと。

土層の攪乱は激しく、層位的に遺物をとらえることは不可能であった。このことは、遺物が花崗岩の風化土壤中に含まれるということとともに与島・羽佐島・櫛石島の旧石器時代各遺跡に共通している。

次に、遺物の集中度の観点からみて、長崎通り遺跡の中心を確定することができた。本遺跡の最高所であり、標高24～25mを測る「高台地区」である。石器出土総数の75.8%を占め、密集度でも他の地区の3倍にあたる数値を示している。

第3に、石器出土総数が非常に少ないということがあげられる。花見山遺跡に対しては約1/10、大浦遺跡に比べても約1/5である。尾根筋から東西両斜面への流失を考慮しても少い数値である。したがって、長崎通り遺跡を花見山遺跡・大浦遺跡のように規模の大きいキャンプ地——第1キャンプ<sup>(1)</sup>——として位置付けることは困難である。櫛石島における旧石器時代の遺跡が北辺ないし東辺から、細石器の段階になると中央部ないし西辺の方へ移動するという仮説<sup>(2)</sup>を前提とするならば、細石刃核・細石刃の出土と考え合わせて、このような遺跡群の消長の中で本遺跡をとらえることも一考に値すると思われる。

第4に、細石刃核・細石刃が出土していると同時に縦長剥片・同石核が多い点が注目される。この点は、旧石器時代終末期の遺跡と考えられる大浦遺跡と類似するが、なにぶんにも細石刃核・細石刃の出土点数はきわめて少なく、大浦遺跡と同列に論ずるわけにはいかないであろう。ただ、縦長剥片・同石核を位置付ける上で示唆的なものを含んでいると考えられる。

最後に、ナイフ形石器の中では典型的な「国府型」のものが少なく、横長の剥片・石核についても瀬戸内技法を示すものがあまりみられない。このことは前述の③、④項とともに長崎通り遺跡の時期を考える上で有力な資料となるであろう。  
(林)

#### 注

- (1) 真鍋昌宏「櫛石島の遺跡」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(IV)』香川県教育委員会 1981  
年3月 日常生活の場とは別に狩猟を目的としたキャンプ(見張り台)のこと  
(2) 同上

## 第5章 長崎古墳

### 第1節 調査の概要

長崎古墳は坂出市櫃石島字長崎通りに位置する。櫃石島の南部にあたり、周辺は風化、バイラン作用によるためであろうか、きわめて狭長な尾根状地形になっている。櫃石島に近接している歩渡島には、箱式石棺を埋葬施設とする古墳を中心として小規模ながら古墳群が認められるため、昭和52年度に実施した瀬戸大橋架橋にともなう埋蔵文化財予備調査ではこの地区にも古墳の分布を充分に想定していたが確認できなかった。しかしながら、須恵器を中心とした古墳時代の遺物の出土が知られており、その一部はすでに報告している。今回の調査でも当初、古墳あるいは古墳状の隆起を地表面に認めることができず、調査地区は比較的平坦な尾根筋が北から南に向かってなだらかにつづいている状態を呈するのみであった。

第4層で古墳周溝と石室掘り方を検出した。それより上層は近世までの擾乱土層となっている。そのことから古墳周辺は近世までに開墾によって地下げ、削平されたと思われる。

さて周溝は幅約80~180cmで確認した。半円形を呈するもので、古墳西側を画する。断面はゆるやかなU字型を呈しており、地山を掘り込んで設けられている。

石室は約480×288cmの掘り方をまず検出した。当初、石室側石がみられなかったが、掘り方の底近くで石室基底石が認められた。開墾によって石室の一部が破壊されたものと思われる。このことは、古墳に近接して尾根の東側傾斜面に設けたJ~L-21~23調査区に石室石材と同様の石が散乱することからも想定でき、かつての古墳・横穴式石室が破壊され、J~L-21~23調査区に石室用材が集石されたものと思われる。石室は横穴式石室であり、その内部に箱式石棺と考えられる施設をおさめていた。玄室より約30cm上位に羨道が設けられており、後述するが、羨道中央に溝が認められ周溝を破壊して外部に伸びている(図版第14)。

羨道西側の周溝内部より土器を多量に検出した。おおむね三カ所にわかれて出土している。

### 第2節 墳丘の調査

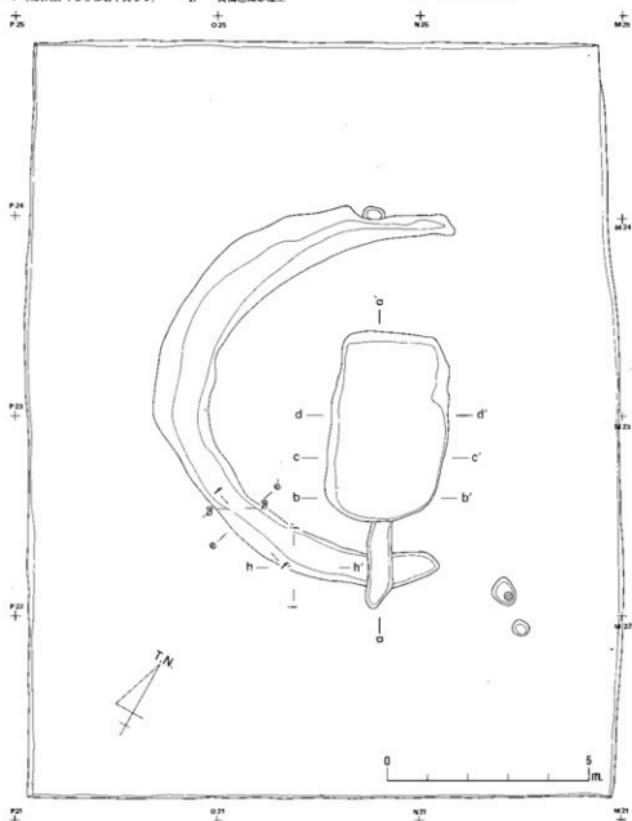
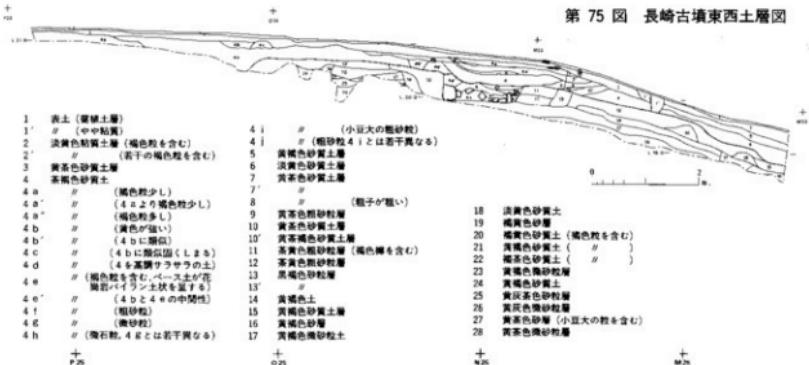
墳丘西半部は、すでに基底部まで削平されているために不明とせざるを得ない。墳丘東半部は尾根傾斜面にかかっている。緩傾斜を呈する地山に黒褐色砂質土、黄褐色砂粒を盛っている。盛り土の状態は不規則で粗雑さが感じられる。

### 第3節 埋葬施設

#### 1 石室

横穴式石室を内部主体としている。石室主軸はN29°30'Eであり、ほぼ東南方向に開口している。比較的小規模なものであるが、開墾により基底石まで除去されていた部分もあるために、その規模は明確にし難いが石室基底石の掘え穴より見て玄室長292×162cm、羨道は遺存してい

第 75 図 長崎古墳東西土層図



第 76 図 長崎古墳平面実測図

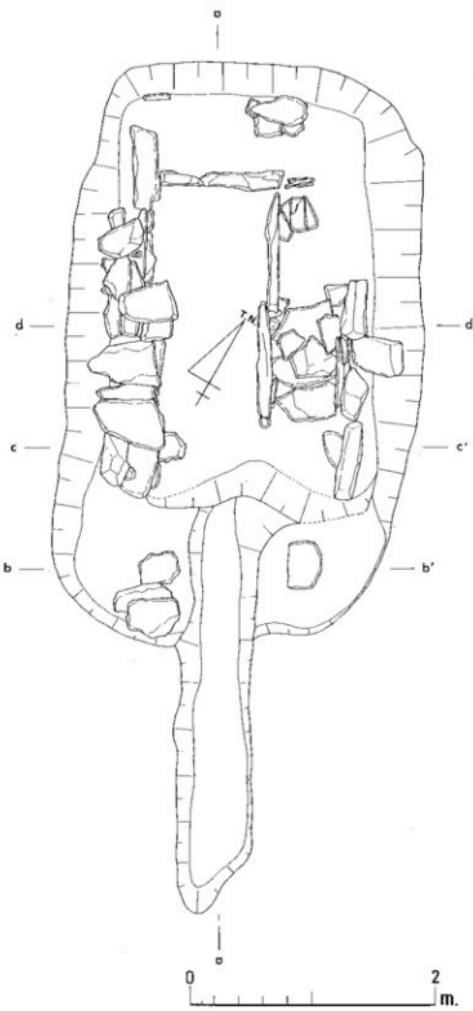
た部分で幅88cmの規模が計測される。

石室の構造と遺存状況について述べておく。石室構築のための掘り方が周溝でとり囲まれた墳丘の南東寄りに穿たれている。地山面に掘り込まれており、東西288cm、南北480cmをはかる。ついで玄室基底石を据えるために、掘り方直下に幅30cm程度の溝を「コの字」形にめぐらしている。石室最下段には厚さ20cmほどの花崗岩系の石を立てて用いている。さらに側壁石を立てたのち、その補強のために人頭大の石を玄室側に設置している。この場合、補強のための石は石室床面に接して置かれており、基底石の下端より上部に位置することになる。二段目から上段は同質の石を平積みに架構している。西側壁石が三段まで、東側壁石は最下段のみが遺存しており、奥壁は全て除去されていた。

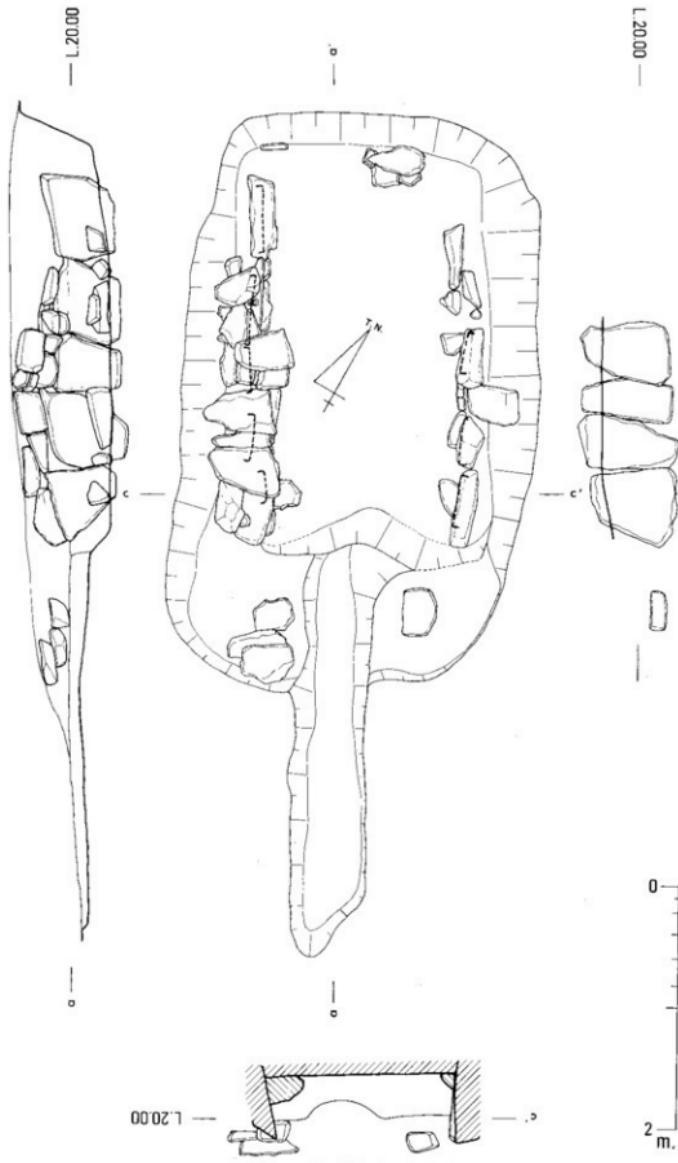
羨道床面は玄室床面と約30cmの比高差をもっている。本来、両者は同一の掘り方内に設けられているが、羨道側壁石が遺存する部分が一段高くなっている。前述したように、地山を掘り窪めて設けられた土塙であり、検出した状態は原状をたもっているとすべきであった。側壁石は地山を削平した平坦面に最下段の石を置き、さらに上部に積み上げただけの状態である。また、この部分には閉塞石と考えられる石積みが、不規則な状態で認められた。これらも羨道側壁石と同一のレベルで検出している。

以上の施設が羨道と考えられるならば、羨道長は約110cmをはかり、極めて短いものとなる。

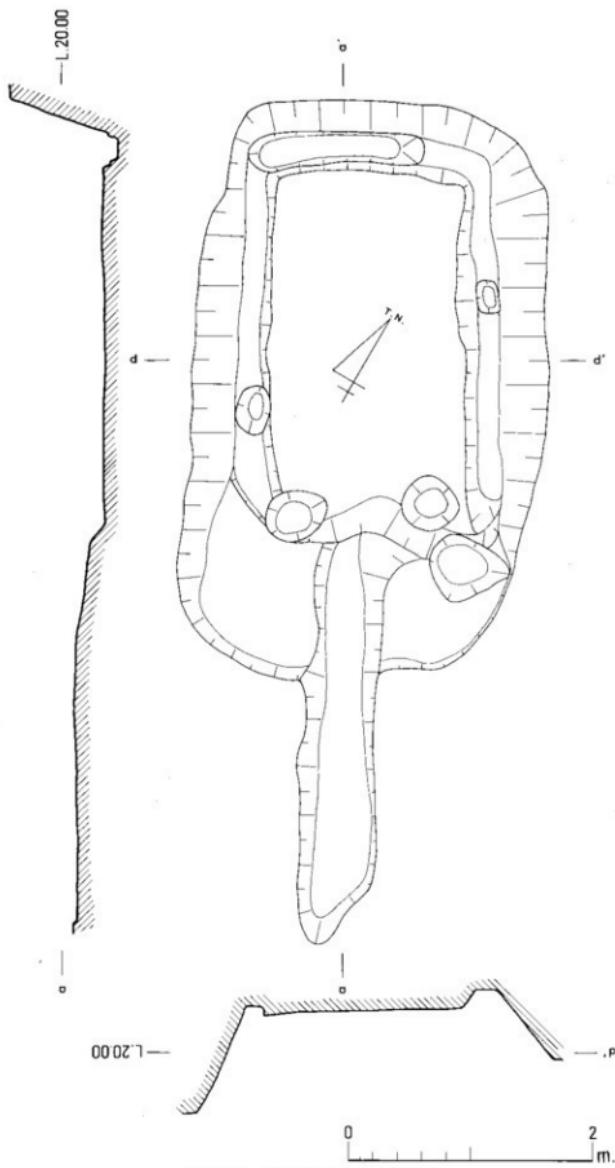
羨道中央部に、深さ約15cm、幅約60cmの溝状遺構が墳丘外に向って伸びており、周溝を破壊した状



第77図 横穴式石室平面実測図



第 78 図 横穴式石室実測図



第 79 図 横穴式石室掘り方実測図

態で検出した。排水溝の形態をとるが、前述したように、玄室が羨道より低いレベルに設けられているため、どのような機能をもった施設であるのか不明とせざるを得ない。

## 2 石棺

石室内に組合せ式石棺が遺存した。しかし遺存状況が良好でないために、どのような形態であったのか判断するのに躊躇する。以下、詳述して検討資料としたい。

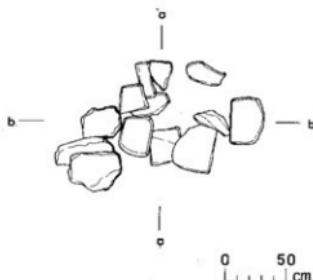
まず、石室中心線のやや東方で石室主軸と平行して2枚の立石を検出した。厚さ5cm程度、80×40cm程度の石を使用していた。石棺の長側石と考えられる。地山面に立て、土を貼ることによって安定させている。石室東側壁石に接して他方の長側壁石を一枚検出した。石室側壁石にもたれかかるような状態であり、安定が悪い。60×20cm大の石を使用している。床面は石棺南半部を検出した。三枚が残存しており、長側石下段より5~10cm上部に敷かれている。その他の石材は認められない。以上の施設が組合せ式石棺と考えられる

石室北西部をみてみることにする。前述した石室中心線のやや東方にある長板石の北端に近接して長側石と直交する状態で東西に伸びる石列が認められた。厚さ5~10cmの石を長側石と同じように立てて使用している。長側石と考えたものよりは低い状態であり、石室破壊時に上部が損壊していると思われる。石棺長側石より東の部分は石棺の短側石と考えることが可能である。西に伸びた部分がどのような機能をもつか、断定できない。石列下半部は長側石と同じように土が盛られているために検出した床面下に埋まる状態となり、石室本来の構造と考えられる。この場合、かつて石室西半部にもう一棺あり、その棺の西側石が除去されている状態と考えられるのか、それとも本来、石室中心線に平行してあった石棺の長側石のみがあり、短側石を石室壁面に接するように配置することによって埋葬施設をつくり出した状態を考えるのかのいずれかであると思われる。

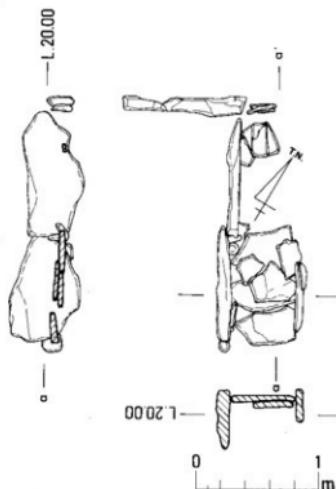
石室東半部の石棺は、長さ184cm以上、幅53cmである。

検出状態のみを報告して今後の類例の增加をまって再考すべき施設である。

なお、石室中央部からやや北により、赤色顔料の散布がみられた（第82図、S17~19, 21, 28付近）。



第80図 横穴式石室閉塞石実測図



第81図 石棺実測図

## 第4節 遺物出土状態

遺物は、石室内と周溝内でそれぞれ検出した。石室内は装身具・鉄器を中心に、周溝内では土器が出土している。

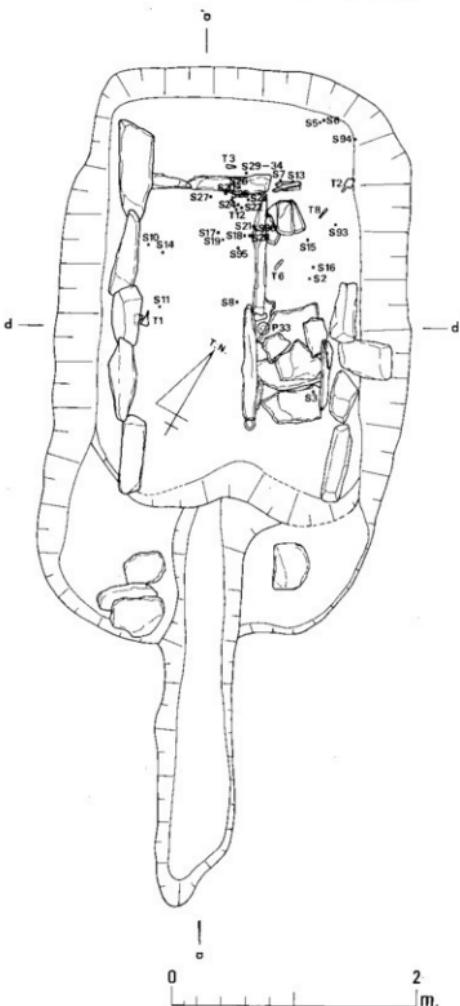
## 1. 石室内の遺物出土状況

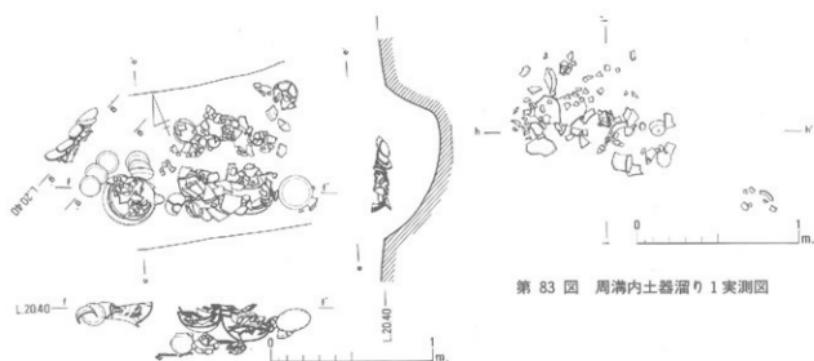
石室内は開墾その他によって大きく破壊されているため、原位置を保っている遺物は少ない。石室東半部の石棺内で土師器杯を検出している（P33）。耳環（S3）は石棺内南部で床面に接して検出した。これらの2例は比較的良好なかたちで、石棺床面に接して検出したものである。土玉、水晶玉を石室内北半部で検出しているが、出土状態は良くない。土玉は散乱していた。この出土状況は石室北半部に移動させられたものと思えない。本来はこの周辺にあつたものが、開墾時などに散乱したものとすべきであろう。

## 2. 周溝内の遺物出土状況

周溝内より土師器・須恵器を検出している。羨道に向って西側の部分であり、おおむね3カ所に分かれて出土している。しかし、整理作業を行った結果、接合できるものが多数認められ、本来1カ所におかれていただと思われる。

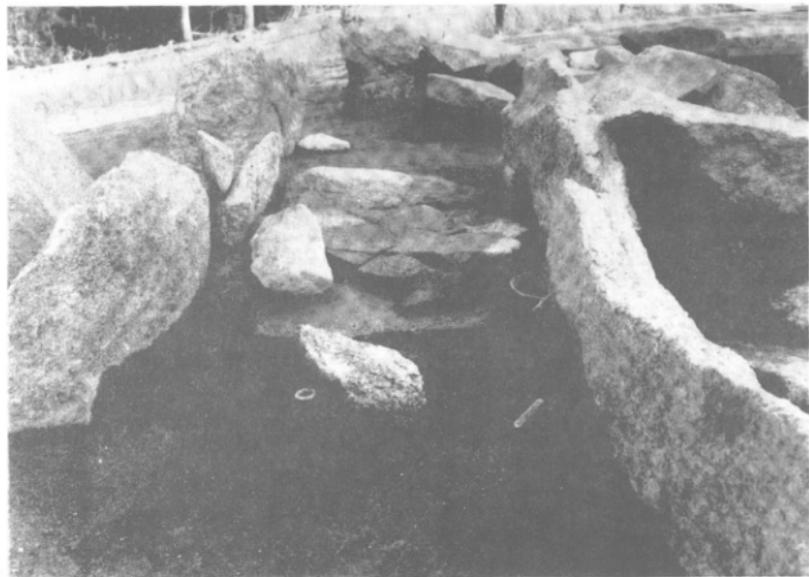
いずれの遺物も溝底部には接しておらず、最も下層より出土するものでも溝底部よりは約10cm上部から出土している。





第 83 図 周溝内土器溜り 1 実測図

第 84 図 周溝内土器溜り 2 実測図



遺物出土状態

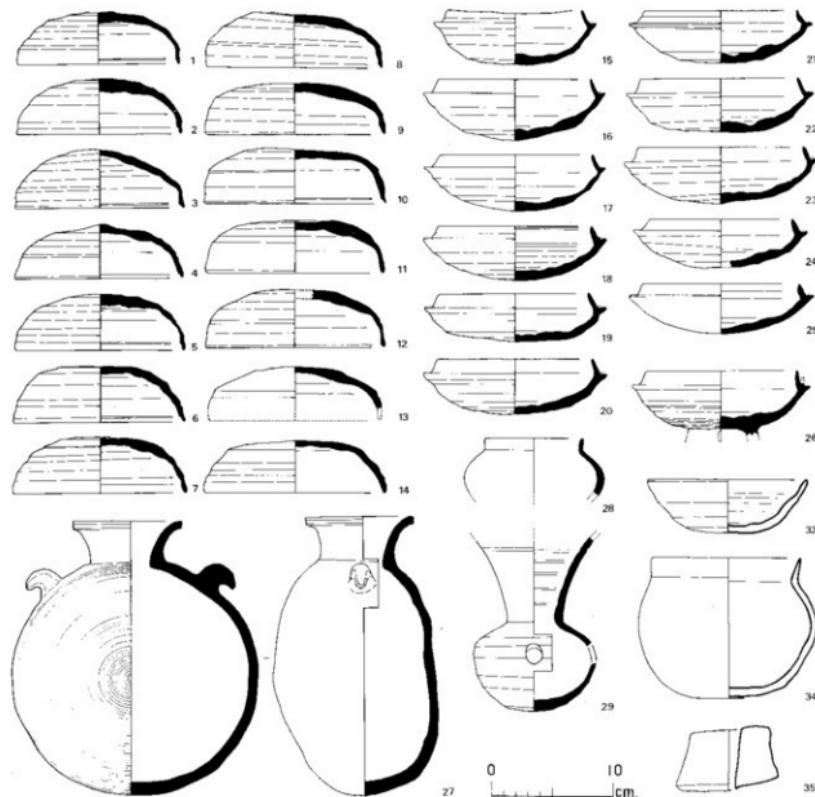
## 第5節 遺物

## 1 土器

周溝内より土師器・須恵器が、石棺内より土師器がそれぞれ出土している。

## 須恵器杯蓋（図版第38、第85図5~14）

14点を図化した。体部外面に段・凹線をともなうもの（4・6・8・10・12・13）と、ともなわないもの（1～3・5・7・9・11）に分かれる。また口縁端部内面に明確な段・稜線をともなうもの（1～6・8・10）とともにないもの（7・9・11～14）に分かれる。4・6・8・10は体部外面の段や凹線、口縁端部内面の段をもつ。



第85図 土器実測図(1)

**須恵器杯身** (図版第38～39、第85図15～25)

11点を図化した。いずれも周溝内より出土している。口径10.9～13.5cm、器高4.0～4.9cmの範囲の土器である。18のみが口縁端部に稜線をともなう。

**須恵器高杯** (図版第39、第85図26)

周溝内より杯部のみが出土した。三方向に透孔をもつと思われる。受け部に蓋の一部が焼成時に付着している。

**須恵器提瓶** (図版第39、第85図27)

周溝内より出土した。体部には明瞭なカキ目が認められる。環は周回せず、途中でとまる。

**須恵器短頸壺** (図版第40、第85図28)

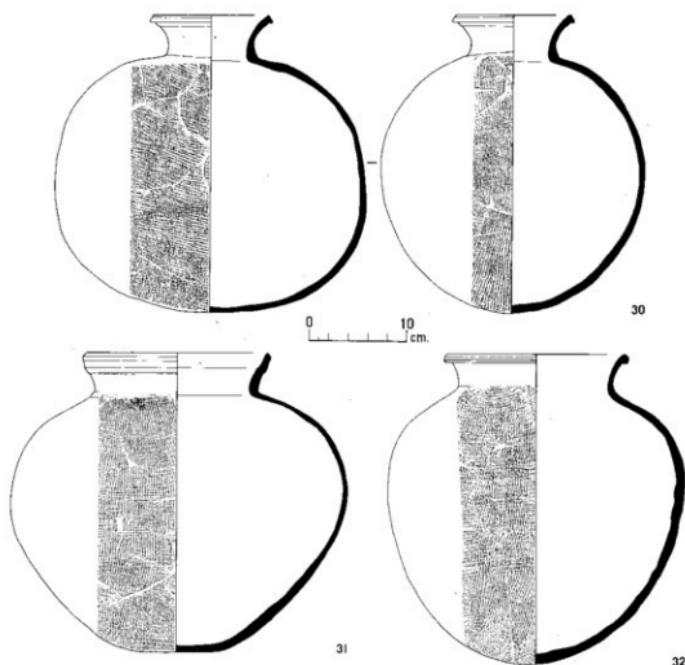
周溝内より出土した。上部のみの破片である。

**須恵器甌** (図版第39、第85図29)

周溝内より出土した。口縁部を欠失する。体部に明瞭なヘラ磨きが認められる。

**須恵器横瓶** (図版第40、第86図30)

周溝内より破片となって出土した。内面片側に径約7cmの粘土板の補填が認められる。



第86図 土器実測図(2)

## 須恵器壺（図版第40、第86図31・32）

周溝内より破片となって出土した。31は最大径が胸部上半にある。斜め上方向に伸びた口頸部は一度段をもってさらに伸び、端部は鋭くなる。32は長円形の胸部をもち、口縁端部は折り曲げ、さらに丸味をもたせておわっている。

## 土師器杯（図版第40、第85図33）

石棺内で検出した。全体的に丸味をおびた胸部をもち、數本の明確な稜線をともなう。端部は丸くおさめる。

## 土師器壺（図版第40、第85図34）

周溝内で検出した。頸部は短く、鋭く立ち上がる。端部は鋭くおさめる。胸部にタテ方向の細かい刷毛目が認められる。

## 土製品（図版第40、第85図35）

周溝内で土器にまじって出土した。高さ1.5cm、最大径8.3cm、最小径6.5cmをはかる。中心に片側からの穿孔が認められる。他に類例をみないため、その性格は不明とせざるを得ない。

## 2 鉄 器

## 鉄鎌（図版第40、第87図1～5）

いずれも石室内より出土した。完全なものはないが、平根式のものであろう。1・3は形態上同一のものである。

## 刀 子（図版第40、第87図7・8）

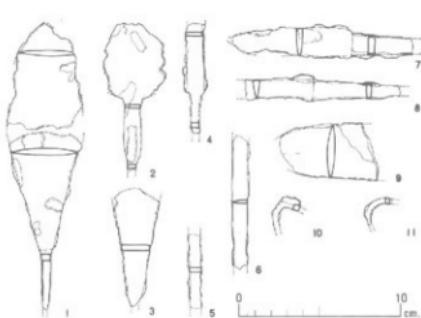
いずれも石室内より出土している。7は現存長11.1cm、現刃長7.4cm、背幅0.4cmである。茎部断面は方形を呈する。8は現存長9.5cmである。関部は不明瞭であるが遺存する。

## 鉄 剣（図版第40、第87図9）

石室内より出土した。剣先端の破片である。現存長6.1cmをはかる。鉄鎌の可能性もあるが形態より鉄剣と考えられる。

## 不明鉄器（図版第40、第87図10・11）

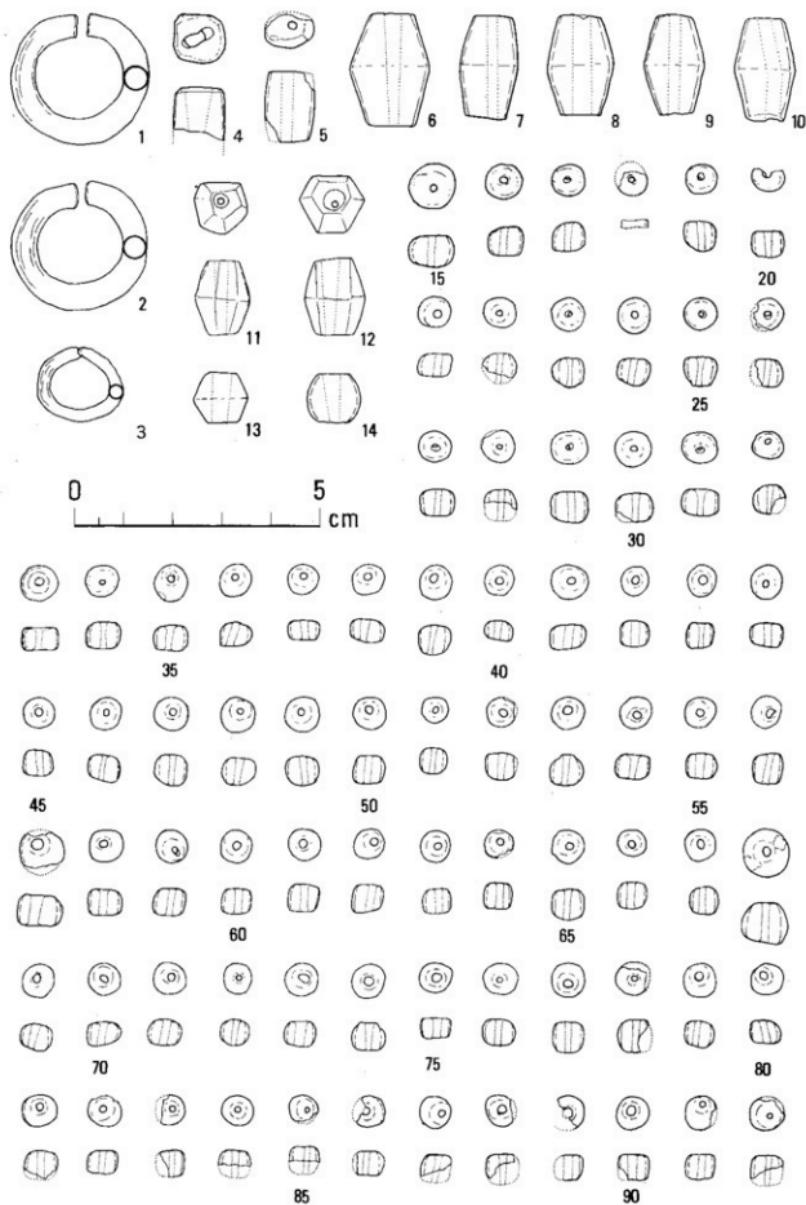
いずれも石室から出土した。小片であり種類は不明とせざるを得ないが、鉄釘か鉄具の可能性もある。断面は方形を呈する。



第87図 鉄器実測図



鉄鎌出土状態



第 88 図 裝身具類実測図

### 3 装身具

#### 金環（図版第41、第88図1～3）

2・3は石室内より出土した。2は長径2.8cm、短径2.6cm、断面径0.5cmをはかる。銅に金箔をかぶせたものであると思われる。3は長径1.7cm、短径1.5cm、断面径0.5cmをはかる。銅の地のみが遺存する状態である。1は床面より約50cm浮き上った状態で検出した。長径2.8cm、短径2.7cm、断面径0.5cmをはかる。銅に金箔をかぶせたものであると思われる。

#### 管玉（図版第41、第88図4）

碧玉製の管玉である。石室内より出土している。断面は四角形を呈するが、各角に面取りが行われているために円形に近い八角形にみえる。現存長1.1cm、片側から穿孔されているが二回試みられたため二重になっている。

#### 平玉（図版第41、第88図5）

琥珀製の玉である。現存長1.4cmをはかる。不整形な円筒形をしている。

#### 水晶製切子玉（図版第41、第88図6・7）

いずれも石室内より出土した。6は長さ1.1cmをはかる。片側より穿孔されている。7は長さ1.5cmをはかる。片側より穿孔されている。いずれも六面に面取りが行われている。

#### 水晶製算盤玉（図版第41、第88図8）

石室内より出土した。長さ1cm、直径1.1cmをはかる。片側より穿孔されている。

#### 水晶製丸玉（図版第41、第88図9）

石室内より出土した。長さ1cm、直径1cmをはかる。片側より穿孔している。

#### 棗玉（図版第41、第88図10～14）

いずれも石室内で出土している。埋木製である。長さ2.3～2.0cm、最大径1.6～1.2cmをはかる。

そのほか、琥珀製丸玉が出土しているが、図化できなかった。

### 第6節 小 結

長崎古墳の調査結果を列挙すると、

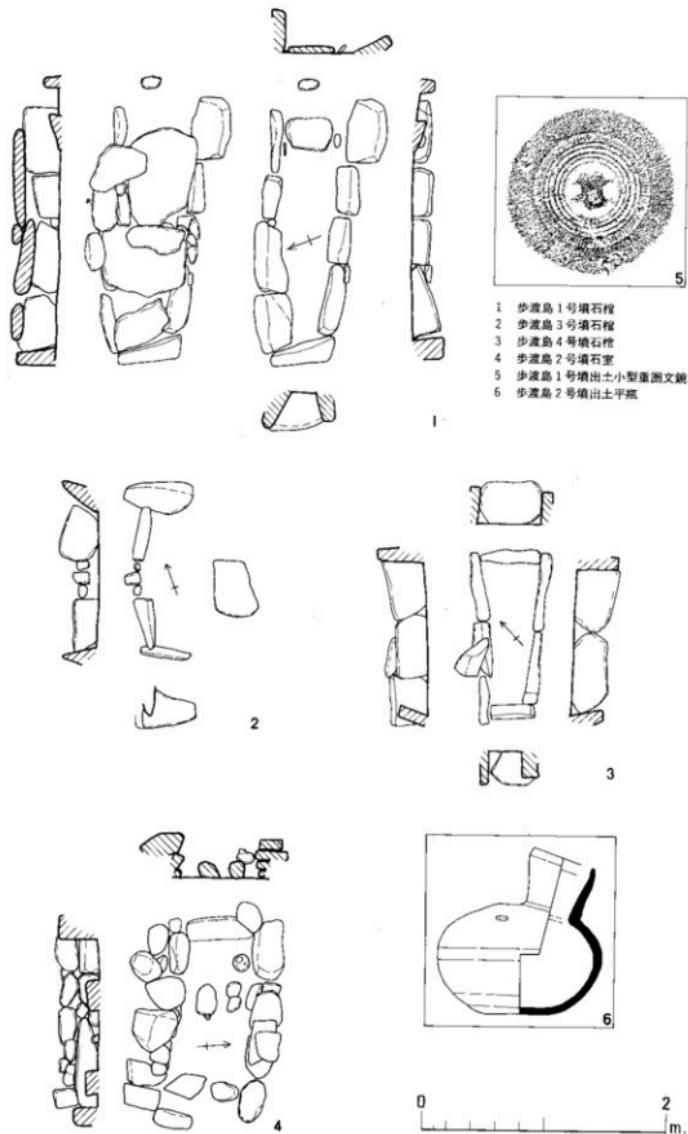
- 直徑約8mの円墳である。
  - 横穴式石室を内部主体としている。
  - 玄室は羨道より約0.2m下部につくられている。
  - 玄室長約2.98m、羨道長約1.04mをはかり、羨道は極めて短い。
  - 玄室内に一棺以上の箱式石棺をもっている。
  - 周溝内より土師器・須恵器を出土しているが、須恵器はおむね二型式に細分できる。
  - 須恵器は森浩一氏編年のIII型式中葉に併行するものと思われ、6世紀中葉から後半にかけてのものであろう。
- などがあげられる。長崎古墳は風化、バイラン作用でやせた尾根上に単独で位置しており、群を構成しない。

島嶼部に古墳が集中して築かれる例は多い。香川県内ののみをみても直島町喜兵衛島、同町葛島などにみられる。櫛石島に近接する歩渡島には、箱式石棺を埋葬施設とする3基の古墳と、

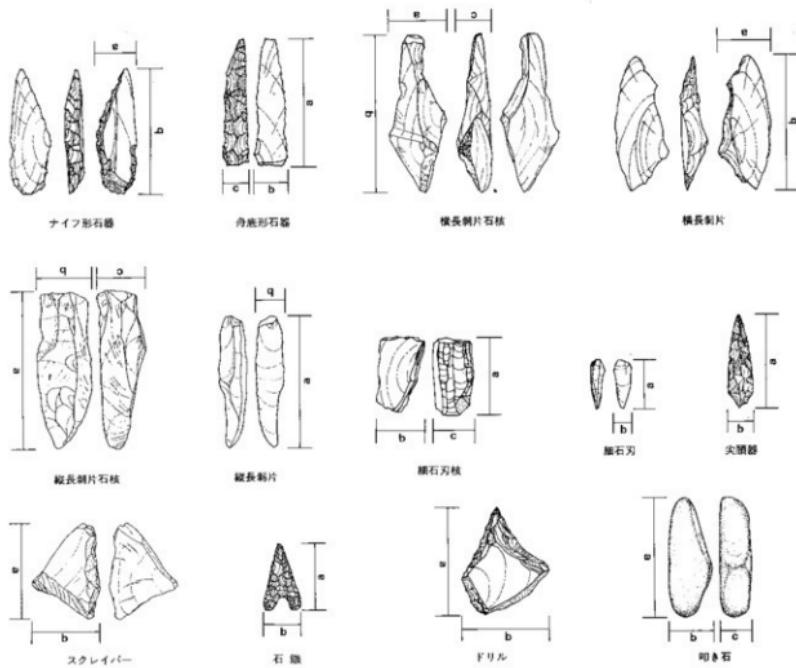
退化した横穴式石室と思われる埋葬施設をもつ古墳1基の合計4基で構成された古墳群がある。箱式石棺をもつ古墳は中期までの古墳と考えられるのに対し、横穴式石室をもつ古墳は後期末のものであり、築造時期には空白が認められる。一方、櫃石島にはたては地区に数基の古墳が分布し、うち2基は横穴式石室が開口している。明確な出土遺物は聞かないが、石室構造からみて古墳時代後期後半のものと考えられる。さらに、たては地区と歩渡島の中間地点に相当する長崎通り地区では、以前から須恵器を中心とする古墳時代の遺物の出土が知られており、古墳があった可能性が示唆されていた。須恵器は、古墳時代後期中葉に相当するものであった。

歩渡島は櫃石島の東南にあり、干潮になるとその名称のとおり、両島間を歩いて渡ることもできる距離にある。また、歩渡島には耕作可能な土地は認められず、おそらく歩渡島の古墳被葬者は櫃石島に基盤をもっていた集団の構成員であると思われる。今後、より詳細な検討を重ねるべきであるが、今回の長崎通り地区的調査で長崎古墳を確認したことは、歩渡島の箱式石棺を埋葬施設とする古墳とたては地区的古墳の空白をうめる資料を提出したことになり、その意義は大きい。

(廣瀬)



第 89 図 歩渡島古墳群の埋葬施設と遺物



石器計測基準図

○横長剥片石核、横長剥片はそれぞれ翼状剥片石核、翼状剥片を含む。

○ナイフ形石器、横長剥片、縦長剥片、細石刃におけるa値は打撃方向での最大長を表わす。

第5表 石器計測表

## ヤケヤマ遺跡

## ①ナイフ形石器

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考      |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|---------|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |         |
| 第11図-1 | 図版第14 | F-5  | 2.2   | 5.4   |       | 21.3  |         |
| -2     | 〃     | G-5  | 1.6   | 4.7   |       | 4.7   |         |
| -3     | 〃     | C-5  | 1.5   | 5.6   |       | 8.5   |         |
| -4     | 〃     | A-5  | 1.6   | 3.6   |       | 3.4   |         |
| -5     | 〃     | F-5  | 1.4   | 2.4   |       | 3.1   |         |
| -6     | 〃     | F-5  | 1.7   | 2.3   |       | 3.45  |         |
| -7     | 〃     | A-5  | 1.7   | 2.7   |       | 3.4   |         |
| -8     | 〃     | E-5  | 1.6   | 1.7   |       | 1.45  |         |
| -9     | 図版第15 | J-5  | 1.5   | 3.5   |       | 3.05  |         |
| -10    | 〃     | R-69 | 1.5   | 3.3   |       | 2.4   |         |
| -11    | 〃     | F-5  | 1.6   | 3.0   |       | 1.8   |         |
| -12    | 〃     | A-5  | 1.3   | 3.0   |       | 1.85  |         |
| -13    | 〃     | J-5  | 1.7   | 3.2   |       | 1.5   |         |
| -14    | 〃     | E-5  | 2.8   | 1.1   |       | 0.8   |         |
| -15    | 〃     | L-5  | 1.2   | 2.5   |       | 0.95  |         |
| -16    | 〃     | R-69 | 2.1   | 3.6   |       | 3.7   |         |
| -17    | 〃     | K-5  | 1.8   | 3.2   |       | 3.0   |         |
| -18    | 〃     | A-5  | 1.6   | 3.6   |       | 3.4   |         |
| -19    | 〃     | G-5  | 3.4   | 2.0   |       | 3.9   |         |
| -20    | 〃     | B-5  | 2.0   | 5.3   |       | 10.4  |         |
| -21    | 〃     | J-5  | 1.6   | 2.0   |       | 1.2   | ハリ賀安山岩製 |

## ②横長剣片

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第12図-1 | 図版第16 | E-5  | 1.8   | 4.1   |       | 4.9   |    |
| -2     | 〃     | C-5  | 1.7   | 3.5   |       | 4.1   |    |
| -3     | 〃     | D-5  | 1.5   | 3.0   |       | 1.7   |    |
| -4     | 〃     | E-5  | 1.9   | 3.0   |       | 2.1   |    |
| -5     | 〃     | F-5  | 2.3   | 3.1   |       | 3.8   |    |
| -6     | 〃     | F-5  | 1.5   | 2.9   |       | 1.9   |    |
| -7     | 〃     | C-5  | 1.3   | 3.1   |       | 2.2   |    |
| -8     | 〃     | F-5  | 1.7   | 3.0   |       | 2.0   |    |

## ③縦長削片

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第13図-1 | 図版第17 | C-5  | 9.8   | 1.9   |       | 25.5  |    |
| -2     | 〃     | R-69 | 5.4   | 1.6   |       | 4.7   |    |
| -3     | 〃     | A-5  | 4.0   | 1.1   |       | 2.3   |    |
| -4     | 〃     | E-5  | 4.6   | 2.0   |       | 6.9   |    |
| -5     | 〃     | A-5  | 3.9   | 1.9   |       | 4.3   |    |
| -6     | 〃     | D-5  | 6.2   | 2.6   |       | 9.6   |    |
| -7     | 〃     | E-5  | 5.1   | 1.6   |       | 6.4   |    |
| -8     | 〃     | R-68 | 4.4   | 2.8   |       | 7.3   |    |
| -9     | 〃     | A-5  | 5.5   | 2.4   |       | 10.2  |    |
| -10    | 〃     | E-5  | 3.8   | 2.2   |       | 3.6   |    |

## ④横長削片石核

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第15図-1 | 図版第18 | E-5  | 2.9   | 7.9   | 1.7   | 28.6  |    |
| -2     | 〃     | K-5  | 3.7   | 5.8   | 2.0   | 37.2  |    |
| -3     | 〃     | J-5  | 3.1   | 4.2   | 1.7   | 22.6  |    |

## ⑤縦長削片石核

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第15図-4 | 図版第18 | E-5  | 5.5   | 3.4   | 2.6   | 40.9  |    |
| -5     | 〃     | A-5  | 6.4   | 2.7   | 1.7   | 31.2  |    |
| -6     | 〃     | A-5  | 6.1   | 4.1   | 3.0   | 79.3  |    |
| -7     | 〃     | K-69 | 5.4   | 3.7   | 1.7   | 37.9  |    |

## ⑥細石刃

| 挿図番号   | 図版番号      | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考     |
|--------|-----------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
|        |           |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |        |
| 第14図-1 | 図版第19-1・2 | G-5  | 2.3   | 1.1   |       | 0.6   | サヌカイト製 |
| -2     | 〃         | F-5  | 1.9   | 1.3   |       | 0.8   | ハリ質安山岩 |

## ⑦尖頭器

| 挿図番号   | 図版番号      | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考     |
|--------|-----------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
|        |           |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |        |
| 第16図-1 | 図版第19-3・4 | R-65 | 7.2   | 1.8   |       | 7.8   | 先端角43° |
| -2     | 〃         | R-68 | 3.7   | 2.2   |       | 5.4   |        |

## ⑧ チョッピング・トゥール

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考     |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |        |
| 第17図-1 | 図版第20 | E-5  | 8.4   | 7.0   |       | 150   | 刃部角84° |

## ⑨ スクレイパー

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考     |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |        |
| 第17図-2 | 図版第20 | D-5  | 6.9   | 5.2   |       | 32.8  | 刃部角63° |
| -3     | 〃     | D-5  | 5.8   | 5.4   |       | 44.3  |        |

## ⑩ 二次調整ある剝片

| 挿図番号   | 図版番号      | 出土区画 | 計測値   |       |       |        | 備考   |
|--------|-----------|------|-------|-------|-------|--------|------|
|        |           |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g)  |      |
| 第16図-3 | 図版第19-5・6 | R-64 | (3.0) | 2.3   |       | (2.45) |      |
| -4     | 〃         | C-5  | (5.1) | 2.1   |       | 5.7    |      |
| 第17図-4 | 図版第21-1・2 | E-5  | 2.6   | 1.5   |       | 1.4    |      |
| -5     | 〃         | D-5  | 2.2   | 1.5   |       | 1.3    | ドリルか |
| -6     | 〃         | E-5  | 3.0   | 2.6   |       | 4.7    |      |
| -7     | 〃         | A-5  | 8.1   | 4.7   |       | 53.2   | ドリルか |

## ⑪ 石 錄

| 挿図番号   | 図版番号    | 出土区画 | 計測値   |       |       |        | 備考     |
|--------|---------|------|-------|-------|-------|--------|--------|
|        |         |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g)  |        |
| 第18図-1 | 図版第21-3 | D-5  | 1.8   | 1.6   |       | 0.85   | 先端角53° |
| -2     | 〃       | D-5  | 2.0   | 1.8   |       | 0.8    | 59°    |
| -3     | 〃       | R-69 | 2.3   | 2.1   |       | 1.05   | 66°    |
| -4     | 〃       | G-5  | 1.9   | 1.3   |       | 0.65   | 56°    |
| -5     | 〃       | D-5  | 2.3   | 1.8   |       | 0.95   | 59°    |
| -6     | 〃       | R-58 | (2.3) | 1.6   |       | (1.05) | 35°    |
| -7     | 〃       | C-5  | (2.3) | (1.9) |       | (1.4)  |        |
| -8     | 〃       | D-5  | (2.9) | (1.6) |       | (1.0)  | 32°    |
| -9     | 〃       | D-5  | 2.9   | 1.6   |       | 1.15   | 34°    |
| -10    | 〃       | R-69 | 2.4   | (1.3) |       | (0.55) | 49°    |
| -11    | 〃       | F-5  | 2.2   | 1.5   |       | 0.7    | 55°    |

長崎通り遺跡

①ナイフ形石器

| 擲 図 番 号    | 図 版 番 号  | 出土区画   | 計 測 値  |        |        |        | 備 考 |
|------------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
|            |          |        | a (cm) | b (cm) | c (cm) | 重量 (g) |     |
| 第 52 図 - 1 | 図 版 第 23 | P - 39 | 2.8    | 8.5    |        | 19.9   |     |
| - 2        | II       | N - 42 | 3.4    | 5.2    |        | 14.1   |     |
| - 3        | II       | P - 30 | 2.0    | 4.1    |        | 8.8    |     |
| - 4        | II       | P - 40 | 1.5    | 3.7    |        | 5.5    |     |
| - 5        | II       | D - 43 | 1.5    | 2.5    |        | 1.6    |     |
| - 6        | II       | N - 42 | 1.9    | 3.6    |        | 4.4    |     |
| - 7        | II       | O - 31 | 1.9    | 2.4    |        | 2.4    |     |
| - 8        | II       | P - 33 | 1.8    | 7.2    |        | 8.5    |     |
| - 9        | II       | P - 42 | 2.4    | 5.9    |        | 11.2   |     |
| - 10       | II       | P - 45 | 1.9    | 2.0    |        | 2.4    |     |
| 第 53 図 - 1 | 図 版 第 24 | N - 42 | 1.6    | 5.2    |        | 8.8    |     |
| - 2        | II       | P - 43 | 2.5    | 3.8    |        | 11.7   |     |
| - 3        | II       | P - 42 | 1.7    | 3.4    |        | 4.6    |     |
| - 4        | II       | P - 43 | 2.0    | 3.7    |        | 6.1    |     |
| - 5        | II       | O - 45 | 1.7    | 3.3    |        | 4.4    |     |
| - 6        | II       | L - 31 | 1.2    | 3.3    |        | 2.2    |     |
| - 7        | II       | O - 43 | 1.9    | 2.1    |        | 2.5    |     |
| - 8        | II       | P - 31 | 2.3    | 4.7    |        | 9.3    |     |
| - 9        | II       | O - 43 | 1.6    | 4.1    |        | 5.5    |     |
| - 10       | II       | P - 39 | 1.1    | 3.2    |        | 1.2    |     |
| - 11       | II       | O - 43 | 2.5    | 4.3    |        | 8.6    |     |
| 第 54 図 - 1 | 図 版 第 25 | O - 31 | 1.7    | 5.3    |        | 6.1    |     |
| - 2        | II       | O - 43 | 1.6    | 2.7    |        | 3.0    |     |
| - 3        | II       | P - 43 | 1.3    | 4.3    |        | 3.5    |     |
| - 4        | II       | O - 39 | 2.1    | 2.8    |        | 3.5    |     |
| - 5        | II       | O - 45 | 1.5    | 5.1    |        | 4.1    |     |
| - 6        | II       | P - 44 | 2.5    | 3.4    |        | 5.7    |     |
| - 7        | II       | N - 42 | 1.8    | 4.1    |        | 4.1    |     |
| 第 55 図 - 1 | 図 版 第 26 | P - 38 | 1.9    | 4.3    |        | 4.2    |     |
| - 2        | II       | N - 40 | 1.9    | 4.5    |        | 3.3    |     |
| - 3        | II       | P - 26 | 1.5    | 2.3    |        | 1.4    |     |
| - 4        | II       | O - 49 | 1.6    | 3.6    |        | 3.0    |     |
| - 5        | II       | P - 45 | 1.5    | 3.9    |        | 2.7    |     |
| - 6        | II       | N - 45 | 1.3    | 3.4    |        | 2.5    |     |
| - 7        | II       | O - 39 | 1.2    | 3.0    |        | 1.3    |     |

| 捕獲番号       | 図版番号    | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考     |
|------------|---------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
|            |         |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |        |
| 第 55 図 - 8 | 図版 第 26 | N-40 | 1.2   | 2.8   |       | 1.4   |        |
| - 9        | 〃       | P-40 | 2.1   | 1.4   |       | 1.2   | 縦長削片利用 |
| - 10       | 〃       | P-25 | 1.3   | 1.2   |       | 0.9   | 縦長削片利用 |
| 第 56 図 - 1 | 図版 第 27 | N-44 | 2.1   | 3.9   |       | 8.1   |        |
| - 2        | 〃       | O-31 | 2.0   | 3.8   |       | 5.2   |        |
| - 3        | 〃       | P-43 | 1.2   | 2.4   |       | 1.3   |        |
| - 4        | 〃       | P-43 | 1.4   | 3.2   |       | 2.6   |        |
| - 5        | 〃       | N-40 | 5.1   | 2.0   |       | 9.0   | 縦長削片利用 |
| - 6        | 〃       | N-42 | 1.5   | 3.5   |       | 3.9   | 黒曜石製   |
| - 7        | 〃       | L-31 | 2.1   | 1.4   |       | 1.4   | 黒曜石製   |

## ②舟底形石器

| 捕獲番号   | 図版番号    | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|---------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |         |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第 57 図 | 図版 第 27 | O-39 | 3.9   | 1.2   | 0.6   | 3.2   |    |

## ③横長削片石核

| 捕獲番号       | 図版番号    | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|------------|---------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|            |         |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第 58 図 - 1 | 図版 第 28 | P-43 | 2.8   | 5.4   | 1.4   | 24.9  |    |
| - 2        | 〃       | O-41 | 2.2   | 5.1   | 1.2   | 14.0  |    |
| - 3        | 〃       | P-39 | 3.7   | 6.4   | 1.5   | 30.2  |    |
| - 4        | 〃       | O-31 | 1.9   | 6.1   | 1.2   | 10.7  |    |
| - 5        | 〃       | P-43 | 4.3   | 5.4   | 2.1   | 39.7  |    |
| - 6        | 〃       | P-40 | 2.7   | 4.5   | 1.5   | 18.4  |    |
| - 7        | 〃       | P-44 | 3.4   | 6.4   | 1.3   | 25.1  |    |
| 第 59 図 - 8 | 〃       | O-44 | 2.9   | 6.3   | 1.3   | 17.8  |    |
| - 9        | 〃       | N-44 | 4.5   | 9.1   | 2.1   | 60.7  |    |
| - 10       | 〃       | P-42 | 3.2   | 6.6   | 1.1   | 20.5  |    |
| - 11       | 〃       | P-43 | 2.3   | 4.6   | 1.7   | 19.6  |    |
| - 12       | 〃       | O-42 | 4.1   | 6.7   | 1.5   | 39.3  |    |
| - 13       | 〃       | N-41 | 5.4   | 6.1   | 2.0   | 90.1  |    |

## ④横長削片

| 捕獲番号       | 図版番号    | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|------------|---------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|            |         |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第 60 図 - 1 | 図版 第 29 | N-42 | 3.5   | 5.6   |       | 21.3  |    |
| - 2        | 〃       | O-43 | 3.4   | 7.2   |       | 26.6  |    |
| - 3        | 〃       | O-42 | 3.0   | 4.4   |       | 12.3  |    |
| 第 61 図 - 4 | 〃       | N-40 | 3.3   | 7.4   |       | 20.8  |    |

| 擇図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第61図-5 | 図版第29 | N-40 | 3.9   | 7.7   |       | 30.2  |    |
| -6     | 〃     | N-40 | 3.9   | 6.0   |       | 27.7  |    |
| -7     | 〃     | O-41 | 2.9   | 5.5   |       | 13.2  |    |
| -8     | 〃     | P-25 | 1.2   | 2.3   |       | 0.9   |    |
| -9     | 〃     | O-42 | 4.4   | 6.2   |       | 29.5  |    |
| -10    | 〃     | N-40 | 3.5   | 7.4   |       | 31.4  |    |
| -11    | 〃     | P-40 | 2.9   | 7.4   |       | 19.6  |    |
| -12    | 〃     | P-21 | 1.4   | 2.7   |       | 1.8   |    |

⑤縫長剝片石核

| 擇図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第62図-1 | 図版第30 | P-32 | 4.6   | 1.9   | 1.4   | 18.3  |    |
| -2     | 〃     | O-42 | 5.0   | 2.1   | 1.5   | 17.8  |    |
| -3     | 〃     | O-44 | 6.5   | 4.6   | 1.5   | 34.3  |    |

⑥縫長剝片

| 擇図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第63図-1 | 図版第30 | N-40 | 4.1   | 1.7   |       | 4.7   |    |
| -2     | 〃     | N-41 | 5.1   | 1.6   |       | 6.9   |    |
| -3     | 〃     | N-40 | 3.8   | 1.8   |       | 4.0   |    |
| -4     | 〃     | P-42 | 5.9   | 3.4   |       | 21.4  |    |
| -5     | 〃     | P-43 | 9.2   | 3.0   |       | 40.1  |    |
| -6     | 〃     | P-37 | 5.6   | 1.2   |       | 6.1   |    |
| -7     | 〃     | P-45 | 6.3   | 2.5   |       | 13.3  |    |
| -8     | 〃     | O-46 | 2.6   | 2.1   |       | 3.9   |    |
| -9     | 〃     | P-39 | 5.1   | 4.6   |       | 30.8  |    |

⑦縫石刃核

| 擇図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考     |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |        |
| 第65図-1 | 図版第31 | O-43 | 2.6   | 2.0   | 1.2   | 6.2   |        |
| -2     | 〃     | O-45 | 3.4   | 2.2   | 1.4   | 10.7  |        |
| -3     | 〃     | P-39 | 2.6   | 2.4   | 1.0   | 6.8   |        |
| -4     | 〃     | O-41 | 2.2   | 2.6   | 1.3   | 7.8   |        |
| -5     | 〃     | O-46 | 2.7   | 2.9   | 1.5   | 12.3  |        |
| -6     | 〃     | P-45 | 2.7   | 2.3   | 2.1   | 10.3  |        |
| -7     | 〃     | O-41 | 2.3   | 0.9   | 0.7   | 1.8   | サヌカイト製 |
| 第66図-8 | 〃     | P-45 | 3.1   | 3.4   | 1.1   | 9.8   |        |

| 挿図番号       | 図版番号    | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|------------|---------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|            |         |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第 66 図 - 9 | 図版 第 31 | P-44 | 3.6   | 1.8   | 1.1   | 3.0   |    |
| - 10       | 〃       | O-44 | 4.1   | 3.2   | 1.8   | 24.3  |    |
| - 11       | 〃       | O-31 | 1.8   | 1.6   | 1.2   | 2.4   |    |
| - 12       | 〃       | P-36 | 1.7   | 2.0   | 1.5   | 4.5   |    |
| - 13       | 〃       | P-43 | 1.9   | 1.7   | 1.6   | 4.4   |    |

## ⑧細石刃

| 挿図番号       | 図版番号    | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考       |
|------------|---------|------|-------|-------|-------|-------|----------|
|            |         |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |          |
| 第 67 図 - 1 | 図版 第 32 | N-40 | 1.7   | 1.0   |       | 0.4   |          |
| - 2        | 〃       | N-42 | 1.2   | 1.1   |       | 0.3   |          |
| - 3        | 〃       | N-42 | 1.3   | 0.9   |       | 0.2   |          |
| - 4        | 〃       | P-43 | 1.0   | 0.8   |       | 0.1   |          |
| - 5        | 〃       | P-39 | 1.5   | 1.6   |       | 0.2   |          |
| - 6        | 〃       | O-31 | 1.0   | 1.0   |       | 0.1   |          |
| - 7        | 〃       | O-31 | 1.6   | 1.0   |       | 0.4   |          |
| - 8        | 〃       | P-42 | 1.7   | 1.3   |       | 0.6   |          |
| - 9        | 〃       | O-43 | 1.6   | 0.8   |       | 0.3   | サヌカイト製   |
| - 10       | 〃       | O-43 | 2.1   | 0.7   |       | 0.3   | サヌカイト製   |
| - 11       | 〃       | P-32 | 1.4   | 0.9   |       | 0.2   | サヌカイト製   |
| - 12       | 〃       | P-24 | 1.1   | 0.7   |       | 0.1   | サヌカイト製   |
| - 13       | 〃       | O-40 | 1.5   | 0.5   |       | 0.1   | 黄灰色の安山岩製 |

## ⑨尖頭器

| 挿図番号       | 図版番号    | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考     |
|------------|---------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
|            |         |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |        |
| 第 71 図 - 1 | 図版 第 35 | P-23 | 3.9   | 1.3   |       | 2.0   | 先端角60° |
| - 2        | 〃       | P-30 | 6.0   | 1.7   |       | 6.8   | 〃 45°  |
| - 3        | 〃       | P-43 | 4.4   | 3.1   |       | 10.5  | 〃 60°  |
| - 4        | 〃       | O-39 | 4.5   | 1.8   |       | 4.4   | 〃 60°  |
| - 5        | 〃       | P-40 | 4.3   | 2.8   |       | 8.8   | 〃 40°  |
| - 6        | 〃       | N-40 | 3.1   | 1.8   |       | 2.7   | 〃 60°  |
| - 7        | 〃       | N-45 | 2.2   | 1.6   |       | 1.7   | 〃 40°  |
| - 8        | 〃       | O-50 | 2.1   | 1.3   |       | 1.0   | 〃 70°  |
| - 9        | 〃       | O-45 | 4.3   | 3.2   |       | 12.8  |        |
| - 10       | 〃       | O-31 | 2.8   | 1.5   |       | 1.9   | 先端角45° |
| - 11       | 〃       | O-49 | 3.5   | 1.4   |       | 2.3   | 〃 45°  |
| - 12       | 〃       | P-43 | 3.9   | 1.5   |       | 3.6   | 〃 55°  |
| - 13       | 〃       | P-43 | 2.9   | 1.4   |       | 2.8   | 〃 35°  |

| 挿図番号    | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考           |
|---------|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------------|
|         |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |              |
| 第71図-14 | 図版第35 | P-43 | 6.5   | 1.7   |       | 7.7   | 先端角35°       |
| -15     | 〃     | P-44 | 3.6   | 2.3   | 1.2   | 8.2   | 〃 50° 山彫形尖頭器 |

⑩スクリイバー

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第73図-1 | 図版第36 | N-43 | 8.7   | 5.2   |       | 48.8  |    |
| -2     | 〃     | P-39 | 5.5   | 2.8   |       | 12.8  |    |
| -3     | 〃     | O-44 | 6.5   | 3.2   |       | 24.0  |    |
| -4     | 〃     | O-49 | 4.6   | 4.2   |       | 24.4  |    |
| -5     | 〃     | P-41 | 3.9   | 3.5   |       | 16.8  |    |

⑪石錠

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第74図-1 | 図版第37 | O-42 | 1.4   | 1.1   |       | 0.2   |    |
| -2     | 〃     | N-46 | 2.3   | 1.3   |       | 0.6   |    |
| -3     | 〃     | N-39 | 2.3   | 1.3   |       | 0.8   |    |
| -4     | 〃     | P-37 | 2.4   | 1.8   |       | 1.0   |    |

⑫ドリル

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第74図-5 | 図版第37 | P-31 | 2.8   | 2.1   |       | 2.0   |    |

⑬叩き石

| 挿図番号   | 図版番号  | 出土区画 | 計測値   |       |       |       | 備考 |
|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|
|        |       |      | a(cm) | b(cm) | c(cm) | 重量(g) |    |
| 第74図-6 | 図版第37 | O-43 | 5.5   | 1.8   | 1.4   | 14.5  |    |
| -7     | 〃     | O-39 | 5.3   | 1.9   | 1.1   | 10.4  |    |
| -8     | 〃     | P-40 | 7.8   | 3.2   | 2.8   | 123.0 |    |
| -9     | 〃     | P-40 | 10.8  | 4.0   | 2.5   | 155.0 |    |

第6表 大浦浜遺跡南端調査区出土土器観察表

| 標図番号   | 図版番号                            | 出土地                             | 器種      | 法<br>口径<br>高さ<br>底径 | 色調  | 胎土                          | 焼成  | 手<br>法                        | 形<br>態  |
|--------|---------------------------------|---------------------------------|---------|---------------------|---|-----------------------------|---|-------------------------------|---------|
| 第31図-1 | S Z 01<br>中<br>上<br>土<br>器<br>皿 | S Z 01<br>中<br>上<br>土<br>器<br>皿 | 小皿      | 8.5<br>1.4<br>5.6   | 内外面とも褐色<br>1~2mmの砂粒を含む                        | 普通                          | 内面<br>外面<br>ナデと混わるが質感のため不明  | 底部は平底で体部はゆるやかに外反、口縁端部はやや肥厚    |         |
| -2     |                                 |                                 | 小皿      | 8.5<br>2<br>5.5     | 内面 淡黄色<br>外面 棕色<br>1~2mmの砂粒を含む                | 普通                          | 内面<br>ナデ調整<br>外面<br>ナデ調整<br>底部 板目状圧痕  | 底部は平底、口縁端部や肥厚                 |         |
| -3     |                                 |                                 | 高台付碗    | 5.5                 | 内面 底白色<br>外面 底白色<br>1~2mmの砂粒を含む               | 普通                          | 磨減のため調整不明<br>高台は貼り付け  | 高台の断面三角形                      |         |
| -4     |                                 | S Z 03<br>西<br>方                | 高台付碗    | 13.4<br>4.8<br>6    | 内面 底乳白色<br>外面 底乳白色<br>1~2mmの砂粒を含む             | 普通                          | 磨減のため調整不明<br>高台の貼り付け粗面  | 高台の断面三角形                      |         |
| -5     |                                 | 第3層<br>下層                       | 土器<br>皿 | 羽釜<br>27.5          | 内面 黒灰色<br>外面 黑茶色<br>下半に墨点の墨点あり<br>1~2mmの砂粒を含む | 普通                          | 内面<br>口縁に刷毛調<br>外縁<br>11枚端部に2枚の墨点がある<br>外面<br>11枚端部に2枚の墨点がある<br>内面<br>11枚端部に2枚の墨点がある<br>底部<br>ナデと混ざり<br>全体はナデと混ざり<br>11枚端部に2枚の墨点がある | 底部は「く」の字状外反、支脚は3本あり、体部貼り付け    |         |
| -6     |                                 | 第3層                             | 土器<br>碗 |                     | 7.4   | 内面 底白色<br>外面 底白色<br>砂粒の含有量少 | 普通  | 内面<br>ナデ調整<br>外面<br>底部は凹輪へラ切り | 底部は切り高台 |
| -7     |                                 | 第4層<br>上<br>土<br>器              | 小皿      |                     | 内面 黄白灰色<br>外面 黄白灰色<br>1~2mmの砂粒を含む             | 普通                          | 内面ともナデ調整  | 立ち上りはゆるやかである。                 |         |
| -8     |                                 | 第4層<br>上<br>土<br>器              | 皿       |                     | 内面 墓底白色<br>外面 底灰青色<br>1mm未満の微砂粒を含む            | 良好                          | 内面<br>ヘラ磨きで暗文あり<br>外面<br>ナデ調整   |                               |         |
| -9     |                                 | 第4層<br>土器                       | 杯       | 5.5                 | 内面 茶乳白色<br>外面 茶乳白色<br>1~2mmの砂粒を含む             | 良好                          | 内面<br>凹輪ナデ調整<br>外縁ヘラ切り<br>全体はナデ調整   | 底部の墨厚は厚い                      |         |
| -10    |                                 | 第4層<br>土器                       | 鍋       | 22.8                | 内面 赤茶色<br>外面 赤茶色<br>1~2mmの砂粒を含む               | 普通                          | 内面<br>ナデ調整<br>外面<br>磨減のため不明   | 口縁端部は直立して絞り、底部は「く」の字状に外反      |         |
| -11    |                                 | 第5層<br>一<br>土<br>器              | 碗       | 14.4                | 内面 黒色<br>外面 淡茶色<br>1~2mmの砂粒を含む                | 普通                          | 内面<br>ヘラ磨き<br>外面<br>ナデ調整  | 口縁端部が肥厚している。                  |         |
| -12    |                                 | 第5層<br>土器                       | 碗       | 7.8                 | 内面 棕色<br>外面 淡茶色<br>1~2mmの砂粒を含む                | 普通                          | 磨減し、調整不明  | 底部は切り高台である。                   |         |
| -13    |                                 | 第5層<br>瓦<br>器                   | 碗       |                     | 内面 黒灰色<br>外面 黒灰色<br>砂粒の微かい土で構成                | 良好                          | 内面<br>ヘラ磨きで暗文あり<br>外面<br>ナデ調整   | 口縁端部に凹線                       |         |
| -14    |                                 | 第5層<br>瓦<br>器                   | 碗       | 14.6                | 内面 黑色<br>外面 赤茶色<br>1~2mmの砂粒を含む                | 普通                          | 内面<br>ヘラ磨きで暗文あり<br>外面<br>ナデ調整   | 口縁端部はやや肥厚する。                  |         |
| -15    |                                 | 第5層<br>土器                       | 皿       |                     | 内面 暗茶色<br>外面 茶褐色<br>1mm未満の微砂粒を含む              | 普通                          | 内面<br>ヘラ磨き<br>全体ナデ調整で底部凹輪へラ切り   | 立ち上りはゆるやかに外反、上げ底気球の底蓋         |         |
| -16    |                                 | 第5層<br>黑色土器                     | 碗       |                     | 内面 黑色<br>外面 淡茶色<br>1~2mmの砂粒を含む                | 普通                          | 内面<br>磨減のためナデ調整、高台貼り付け  | 高台の断面三角形                      |         |
| -17    |                                 | 第7層<br>上<br>土<br>器              | 壺       | 11                  | 内面 茶褐色<br>外面 茶褐色<br>1~2mmの砂粒を含む               | 良好                          | 内面<br>ナデ調整<br>外面<br>ナデ調整  | 底部は「く」の字状に外反する                |         |
| -18    | 第7層<br>上<br>土<br>器              | ミニチュア<br>土器                     | 4       | 2.2                 | 内面 茶褐色<br>外面 茶褐色<br>1~2mmの砂粒を含む               | 普通                          | 内面<br>ナデ調整<br>外面<br>指痕圧痕  |                               |         |

第7表 大浦浜遺跡南端調査区出土製塙土器観察表

| 押団番号   | 図版番号 | 出土層 | 器種   | 法量<br>(cm) | 色調             | 胎土          | 焼成 | 手法                          | 形態                |
|--------|------|-----|------|------------|----------------|-------------|----|-----------------------------|-------------------|
| 第32回-1 |      | 第5層 | 製塙土器 | (口径) 9     | 内面赤茶色<br>外面茶色  | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ調整<br>外面剥離して不明          | 端部は内彎する。          |
| -2     |      | 第5層 | 製塙土器 | (口径) 9.5   | 内面赤茶色<br>外面茶褐色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ調整<br>外面指頭圧痕あり          | 端部は内彎する           |
| -3     |      | 第6層 | 製塙土器 | (口径) 10    | 内面薄茶色<br>外面赤茶色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ調整<br>外面指頭圧痕あり          | 端部は内彎し、歪んで波打っている。 |
| -4     |      | 第5層 | 製塙土器 |            | 内面赤茶色<br>外面赤茶色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ、底部に指頭圧痕あり<br>外側指頭圧痕あり  |                   |
| -5     |      | 第5層 | 製塙土器 |            | 内面茶褐色<br>外面茶褐色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ調整<br>外側指頭圧痕あり          |                   |
| -6     |      | 第5層 | 製塙土器 |            | 内面赤茶色<br>外面赤茶色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ調整<br>外側指頭圧痕あり          |                   |
| -7     |      | 第5層 | 製塙土器 |            | 内面赤茶色<br>外面茶褐色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ調整、底部にヘラ状圧痕<br>外側指頭圧痕あり |                   |
| -8     |      | 第7層 | 製塙土器 |            | 内面焦茶色<br>外面赤茶色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面指頭圧痕あり<br>外側指頭圧痕あり        |                   |
| -9     |      | 第7層 | 製塙土器 |            | 内面薄茶色<br>外面茶褐色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ調整<br>外側指頭圧痕あり          |                   |
| -10    |      | 第7層 | 製塙土器 |            | 内面灰茶色<br>外面薄茶色 | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面剥落し不明<br>外側剥落し不明          |                   |
| -11    |      | 第7層 | 製塙土器 |            | 内面赤茶色<br>外面茶色  | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面底部に指頭圧痕あり<br>外側指頭圧痕あり     |                   |
| -12    |      | 第7層 | 製塙土器 |            | 内面茶色<br>外面茶色   | 1~2mmの砂粒を含む | 普通 | 内面ナデ調整<br>外側剥離して不明          |                   |

第8表 長崎古墳出土土器観察表

| 排目番号   | 図版番号         | 器種  | 法量(cm)<br>A<br>B | 器台 | 胎土               | 色<br>内外<br>口                   | 調<br>断<br>縁 | 焼成 | 形態及び手法の特徴   | 備考                |
|--------|--------------|-----|------------------|----|------------------|--------------------------------|-------------|----|---|-------------------|
| 第85図-1 | 図版<br>第38-1  | 杯 蓋 | A 13.0<br>B 4.3  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>青みが<br>かった灰<br>色        | 普 通         |    | LJ縫端部にするとい<br>う縫線をもつ。天井部外面<br>は回転ヘラ削り。              | 回転方向左廻り           |
| -2     | -2           | II  | A 13.2<br>B 4.6  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色                     | 普 通         |    | 天井部外面は回転ヘラ<br>削り。端部内面に棱縁<br>をもつ。                    | 回転方向右廻り           |
| -3     | -3           | II  | A 13.6<br>B 4.8  |    | 2mmの砂粒を含<br>む。   | 内外面<br>青みが<br>かった灰<br>色        | 普 通         |    | 口縫部はやや外方に下<br>り、端部に棱縁をもつ。天井部<br>外面は回転ヘラ削り。          | 回転方向左廻り           |
| -4     | -4           | II  | A 13.6<br>B 4.6  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色                     | 普 通         |    | 口縫部は外方に開く。端<br>部に棱縁をもつ。天井部<br>外面は回転ヘラ削り。            | 回転方向右廻り           |
| -5     | -5           | II  | A 13.7<br>B 4.7  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色                     | 良 好         |    | 口縫部に棱縁をも<br>つ。天井部外面回転ヘラ削<br>り。                      | 回転方向右廻り           |
| -6     | -6           | II  | A 14.0<br>B 4.6  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 黒色                    | 良 好         |    | 天井部からなだらかに<br>端部にいたる。端部に<br>棱縁をもつ。天井部外<br>面は回転ヘラ削り。 | 回転方向右廻り           |
| -7     | -7           | II  | A 14.1<br>B 4.7  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内面<br>外側<br>乳白色<br>灰白色         | 良 好         |    | 天井部よりogn曲しなが<br>らLJ縫端部にいたる。<br>端部は丸くおさめる。           | 回転方向右廻り           |
| -8     | -8           | II  | A 14.3<br>B 4.4  |    | 2~4mmの砂粒<br>を含む  | 内面<br>外側<br>灰 色<br>灰青色         | 普 通         |    | LJ縫端部は垂直に下<br>り、端部に棱縁をもつ。<br>天井部下面は回転ヘラ削<br>り。      | 回転方向右廻り           |
| -9     | -9           | II  | A 14.6<br>B 4.3  |    | 2mmの砂粒を含<br>む    | 内面<br>外側<br>青みが<br>かった灰<br>灰 色 | 良 好         |    | LJ縫端部は丸くおさめ<br>る。天井部外面は回転<br>ヘラ削り。                  | 回転方向左廻り           |
| -10    | -10          | II  | A 14.6<br>B 4.4  |    | 2mmの砂粒を含<br>む    | 内外面<br>灰 色<br>青みが<br>かった灰<br>色 | 良 好         |    | LJ縫端部は外方に下<br>り、端部は丸くおさ<br>める。                      | 回転方向左廻り           |
| -11    | -11          | II  | A 14.4<br>B 4.4  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色                     | 普 通         |    | 口縫部はやや外方に下<br>り、端部は丸くおさ<br>める。                      | 回転方向左廻り           |
| -12    | -12          | II  | A 14.5<br>B 4.6  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色                     | 普 通         |    | 口縫部は外方に下<br>り、端部は棱縁をもつ。<br>天井部外面は回転ヘラ削<br>り。        | 回転方向左廻り           |
| -13    | /            | II  |                  |    | 1mm前後の微砂<br>粒を含む | 内外面<br>灰 色                     | 普 通         |    | 天井部外面ヘラ削り。  | 回転方向右廻り           |
| -14    | /            | II  | A 14.8<br>B 4.3  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色                     | 普 通         |    | 天井部より口縫端部に<br>向ってなだらかに開く。<br>端部は丸くおさめる。             | 回転方向右廻り           |
| -15    | 図版<br>第38-13 | 杯 身 | A 10.9<br>B 4.2  |    | 2mm前後の砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色<br>青みが<br>かった灰<br>色 | 普 通         |    | たちあがりは内縫して<br>のび、端部は丸くおさ<br>める。                     | 回転方向左廻り<br>外表面自然構 |
| -16    | -14          | II  | A 12.4<br>B 5.1  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内面<br>外側<br>灰 色<br>灰白色         | 普 通         |    | たちあがりは内縫して<br>のび、端部は丸くおさ<br>める。底部は回転ヘラ<br>削り。       | 回転方向左廻り           |
| -17    | 図版<br>第39-1  | II  | A 12.4<br>B 4.7  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色                     | 良 好         |    | たちあがりは内縫して<br>のび、端部は丸くおさ<br>める。                     | 回転方向左廻り           |
| -18    | -2           | II  | A 12.5<br>B 4.5  |    | 1~2mmの砂粒<br>を含む  | 内外面<br>灰 色                     | 良 好         |    | 口縫端部に棱縁をも<br>つ。たちあがりは内縫<br>してのびる。                   | 回転方向左廻り           |

| 検査番号         | 図版番号        | 器種      | 法量(cm)<br>A 口径<br>B 奥台 | 胎土                       | 色<br>内外<br>断<br>縁                    | 焼成 | 形態及び手法の特徴   | 備考                       |
|--------------|-------------|---------|------------------------|--------------------------|--------------------------------------|----|---|--------------------------|
| 第85図-19      | 図版<br>第39-3 | 〃       | A 12.3<br>B 4.0        | 2mmの砂粒を含むが密である           | 内面<br>外面<br>灰<br>黒灰色                 | 良好 | たちあがりは内傾して<br>のび、端部は脱くおさ<br>める。底部は回転ヘラ<br>削り。     | 回転方向左廻り                  |
| -20          | -4          | 〃       | A 12.8<br>B 4.6        | 2mmの砂粒を含む                | 内面<br>外面<br>灰白色<br>赤灰色               | 普通 | たちあがりは内傾して<br>のび、端部は丸くおさ<br>める。受部は上外方に<br>のびる。    | 回転方向左廻り                  |
| -21          | -5          | 〃       | A 12.4<br>B 4.3        | 1~2mmの砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>灰<br>色                   | 普通 | たちあがりは内傾して<br>のび、端部は脱くおさ<br>める。底部は回転ヘラ<br>削り。     | 回転方向左廻り                  |
| -22          | -6          | 〃       | A 12.8<br>B 4.4        | 1mm前後の砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>灰白色<br>黒灰色               | 良好 | たちあがりは内傾して<br>のび、端部は丸くおさ<br>める。受部に杯蓋が付<br>着。      | 回転方向左廻り                  |
| -23          | -7          | 〃       | A 13.4<br>B 4.7        | 2mm前後の砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>黒<br>灰色                  | 普通 | たちあがりは内傾して<br>のび、端部は脱くおさ<br>める。底部は回転ヘラ<br>削り。     | 回転方向左廻り                  |
| -24          | -8          | 〃       | A 11.6<br>B 4.0        | 2mm前後の砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>灰<br>黒灰色                 | 普通 | たちあがりは内傾して<br>のび、端部は脱くおさ<br>める。受部は上外方に<br>のびる。    | 回転方向左廻り                  |
| 25           | -9          | 〃       | A 12.7<br>B 4.2        | 1~2mmの砂粒<br>を含み、目は粗<br>い | 内面<br>外面<br>茶色<br>がかった<br>灰色         | 普通 | たちあがりは内傾して<br>のび、口縁内面に横線<br>をもつ。底部は丸い。            | 回転方向左廻り                  |
| -26          | -10         | 高 杯     | A 12.3                 | 1~2mmの砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>青<br>みが<br>か<br>った<br>灰色 | 良好 | たちあがりは垂直に近<br>く上方にのび、端部は<br>丸くおさめる。受部は<br>水平にのびる。 | 回転方向左廻り                  |
| -27          | -11         | 提 瓶     | A 8.9<br>B 23.0        | 1mm前後~4mm<br>の砂粒を含む      | 内面<br>外面<br>灰<br>色                   | 良好 | 底部の方に回転カキ<br>かのこ。                                 | 若干自然感が<br>かかる            |
| -28          | 短 頭 瓶       | Δ       | A 7.8                  | 1~2mmの砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>灰<br>色                   | 普通 | 体部外面にカキ目を施<br>す。                                  |                          |
| 図版<br>第39-12 | 瓶           |         |                        | 1mm未満の微<br>粒を含む          | 内面<br>外面<br>灰<br>色                   | 普通 | 延約1.5cmの穿孔。体部<br>下半は回転ヘラ削り。                       | 回転方向左廻り                  |
| -33          | 図版<br>第40-4 | 土 師 器 桶 | A 12.8<br>B 4.4        | 2mmの砂粒を含む                | 内面<br>外面<br>赤<br>茶<br>色              | 普通 | 体部から口縁部にかけ<br>てやや内擽ぎみ。端部<br>は丸くおさめる。              | 内外面とも著し<br>く磨耗           |
| -34          | -5          | 上 師 器 桶 | A 12.0<br>B 11.5       | 1~3mmの砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>赤<br>茶<br>色              | 普通 | 胴部内面に不定力向ナ<br>ダ。                                  | 外面は部分的に<br>表面が剥離して<br>いる |
| 第86図-30      | -1          | 須 慈 槌 盆 | A 11.7<br>B 30.7       | 1~2mmの砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>青<br>みが<br>か<br>った<br>灰色 | 良好 | カキ目を施した後、部<br>分的に平行クタキ目。                          |                          |
| -31          | -2          | 須 慈 器 桶 | A 18.6<br>B 30.8       | 1~2mmの砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>灰<br>白<br>色              | 普通 | 胴部はカキ目を施した<br>後、落子状クタキ目。<br>口縁部は回転ナフ。             |                          |
| -32          | -3          | 〃       | A 18.2<br>B 32.0       | 1~2mmの砂粒<br>を含む          | 内面<br>外面<br>灰<br>白<br>色              | 普通 | 胴部全体に格子状タ<br>タキ目。                                 |                          |

第9表 長崎古墳出土土玉計測表

(単位:mm)

| No | 径    | 孔 径       | 厚さ   | 色調     | 穿孔方法 | No | 径    | 孔 径       | 厚さ   | 色調     | 穿孔方法 |
|----|------|-----------|------|--------|------|----|------|-----------|------|--------|------|
| 15 | 9.00 | 1.80      | 6.55 | 黒<br>片 | 〃    | 54 | 6.30 | 1.70~1.25 | 4.75 | 黒<br>片 | 〃    |
| 16 | 6.80 | 1.45      | 5.75 | 〃      | 〃    | 55 | 6.20 | 1.80~1.70 | 5.25 | 〃      | 〃    |
| 17 | 6.35 | 1.35      | 5.40 | 〃      | 〃    | 56 | 6.00 | 1.20~1.70 | 6.15 | 〃      | 〃    |
| 18 | —    | 1.55      | —    | 〃      | 〃    | 57 | 8.65 | 2.20~2.00 | 5.85 | 〃      | 〃    |
| 19 | 5.90 | 1.30      | 5.90 | 〃      | 〃    | 58 | 6.60 | 1.45~1.80 | 5.00 | 〃      | 〃    |
| 20 | 6.50 | 1.75      | 5.15 | 〃      | 〃    | 59 | 6.40 | 1.25~1.10 | 5.30 | 〃      | 〃    |
| 21 | 6.45 | 1.55~1.75 | 4.60 | 〃      | 〃    | 60 | 6.15 | 1.45~1.30 | 5.00 | 〃      | 〃    |
| 22 | 6.30 | 1.65      | —    | 〃      | 〃    | 61 | 6.50 | 1.60~1.45 | 5.35 | 〃      | 〃    |
| 23 | 5.70 | 1.50~1.05 | 5.45 | 〃      | 〃    | 62 | 6.00 | 1.50      | 5.45 | 〃      | 〃    |
| 24 | 6.65 | 1.40~1.45 | 5.40 | 〃      | 〃    | 63 | 6.00 | 1.55~1.40 | 4.80 | 〃      | 〃    |
| 25 | 6.50 | 1.70~2.00 | 6.05 | 〃      | 〃    | 64 | 5.80 | 1.40~1.45 | 5.10 | 〃      | 〃    |
| 26 | 6.40 | 1.45~1.50 | 5.45 | 〃      | 〃    | 65 | 6.05 | 1.30~1.40 | 5.65 | 〃      | 〃    |
| 27 | 6.30 | 1.40~1.70 | 5.45 | 〃      | 〃    | 66 | 5.65 | 1.60~1.70 | 4.80 | 〃      | 〃    |
| 28 | 6.35 | 1.20      | —    | 〃      | 〃    | 67 | 5.90 | 1.05~1.35 | 5.35 | 〃      | 〃    |
| 29 | 7.35 | 1.50~1.70 | 6.25 | 〃      | 〃    | 68 | 9.30 | 1.15~1.50 | 9.00 | 〃      | 〃    |
| 30 | 6.90 | 1.70~1.85 | 5.65 | 〃      | 〃    | 69 | 6.00 | 1.60~1.10 | 5.10 | 〃      | 〃    |
| 31 | 6.75 | 1.45~1.90 | 5.30 | 〃      | 〃    | 70 | 6.30 | 1.45      | 4.50 | 〃      | 〃    |
| 32 | 6.35 | 1.25~1.50 | 5.50 | 〃      | 〃    | 71 | 6.45 | 1.70      | 5.00 | 〃      | 〃    |
| 33 | 7.00 | 1.50~1.95 | 5.10 | 〃      | 〃    | 72 | 5.55 | 1.05~1.00 | 4.95 | 〃      | 〃    |
| 34 | 6.55 | 1.65      | 5.25 | 〃      | 〃    | 73 | 6.65 | 2.10~1.90 | 4.95 | 〃      | 〃    |
| 35 | 7.20 | 1.15~1.25 | 5.05 | 〃      | 〃    | 74 | 6.60 | 1.60~1.00 | 5.50 | 〃      | 〃    |
| 36 | 6.55 | 1.35      | 5.50 | 〃      | 〃    | 75 | 6.30 | 1.70~1.50 | 3.90 | 〃      | 〃    |
| 37 | 6.60 | 1.35~1.65 | 4.20 | 〃      | 〃    | 76 | 7.00 | 1.30~1.35 | 5.00 | 〃      | 〃    |
| 38 | 6.40 | 1.45      | 4.70 | 〃      | 〃    | 77 | 6.20 | 1.20      | 6.15 | 〃      | 〃    |
| 39 | 6.70 | 1.35~1.40 | 5.40 | 〃      | 〃    | 78 | —    | 1.15~     | 6.10 | 〃      | 〃    |
| 40 | 6.00 | 1.55      | 4.25 | 〃      | 〃    | 79 | 6.25 | 1.00~1.05 | 5.10 | 〃      | 〃    |
| 41 | 7.45 | 1.65      | 5.25 | 〃      | 〃    | 80 | 6.05 | 1.30~1.50 | 4.30 | 〃      | 〃    |
| 42 | 5.60 | 1.60      | 5.40 | 〃      | 〃    | 81 | 6.85 | 1.30      | —    | 〃      | 〃    |
| 43 | 6.30 | 1.35      | 5.25 | 〃      | 〃    | 82 | 6.60 | 1.25      | 4.35 | 〃      | 〃    |
| 44 | 6.80 | 1.30      | 5.10 | 〃      | 〃    | 83 | 6.00 | 1.00      | 4.95 | 〃      | 〃    |
| 45 | 5.90 | 1.20~1.45 | 5.15 | 〃      | 〃    | 84 | 6.20 | 1.30      | —    | 〃      | 〃    |
| 46 | 6.75 | 0.90      | 5.50 | 〃      | 〃    | 85 | 5.55 | 1.00      | —    | 〃      | 〃    |
| 47 | 6.80 | 1.15~1.40 | 5.95 | 〃      | 〃    | 86 | 6.05 | —         | 5.00 | 〃      | 〃    |
| 48 | 6.95 | 1.20~1.70 | 5.60 | 〃      | 〃    | 87 | 6.00 | 1.20      | —    | 〃      | 〃    |
| 49 | 6.95 | 1.15~1.65 | 5.75 | 〃      | 〃    | 88 | 6.30 | —         | —    | 〃      | 〃    |
| 50 | 6.40 | 1.40      | 5.45 | 〃      | 〃    | 89 | —    | —         | 4.95 | 〃      | 〃    |
| 51 | 5.25 | 1.20~1.05 | 5.20 | 〃      | 〃    | 90 | 6.45 | 1.80~1.60 | 5.00 | 〃      | 〃    |
| 52 | 5.85 | 1.80~1.40 | 5.30 | 〃      | 〃    | 91 | 6.60 | 1.00~1.45 | 5.00 | 〃      | 〃    |
| 53 | 6.45 | 1.35~1.20 | 6.05 | 〃      | 〃    | 92 | 6.80 | 1.10      | —    | 〃      | 〃    |

# 図 版

(1) ヤケヤマ遺跡  
a-5~N-5全景(西より)



(2) ヤケヤマ遺跡  
R-56~R-69全景(南より)



(3) ヤケヤマ遺跡  
N-56ピット(南より)





(1) ヤケヤマ遺跡

a-5 東壁(西より)



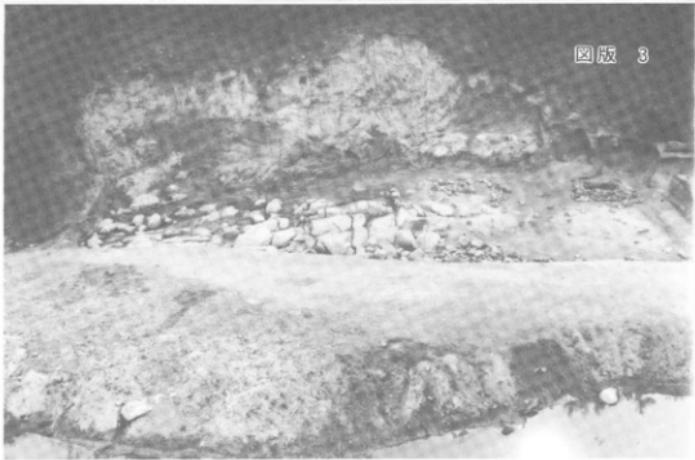
(2) ヤケヤマ遺跡

R-61 東壁(西より)



(3) ヤケヤマ遺跡

M-56 東壁(西より)



(1) 大浦浜遺跡南端調査区  
全景（東より）



(2) 大浦浜遺跡南端調査区  
SZ8201・8202・8203  
(東より)



4 大浦浜遺跡南端調査区  
SZ8201（東より）



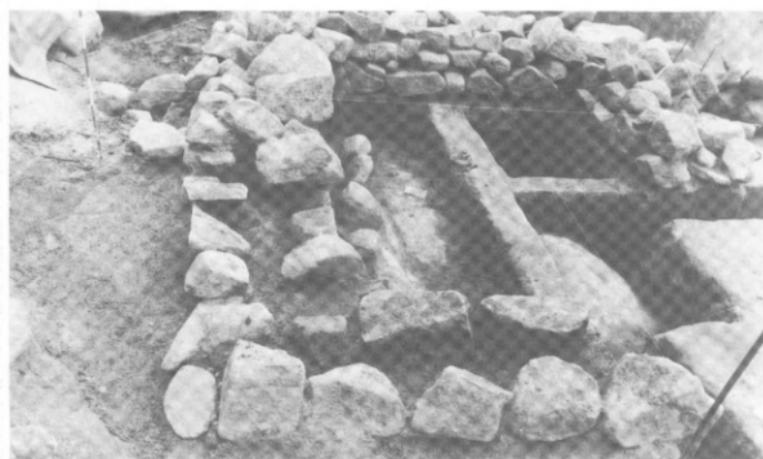
5 大浦浜遺跡南端調査区SZ8201  
(南より)

3 大浦浜遺跡南端調査区  
SZ8201・8202・8203（北より）





(1) 大浦浜遺跡南端  
調査区 SZ8201  
(南より)



2 大浦浜遺跡南端  
調査区 SZ8201  
(南より)



3 大浦浜遺跡南端  
調査区



(1) 長崎通り遺跡全景・調査前  
(北より)



(2) 長崎通り遺跡全景・調査後  
(北より)



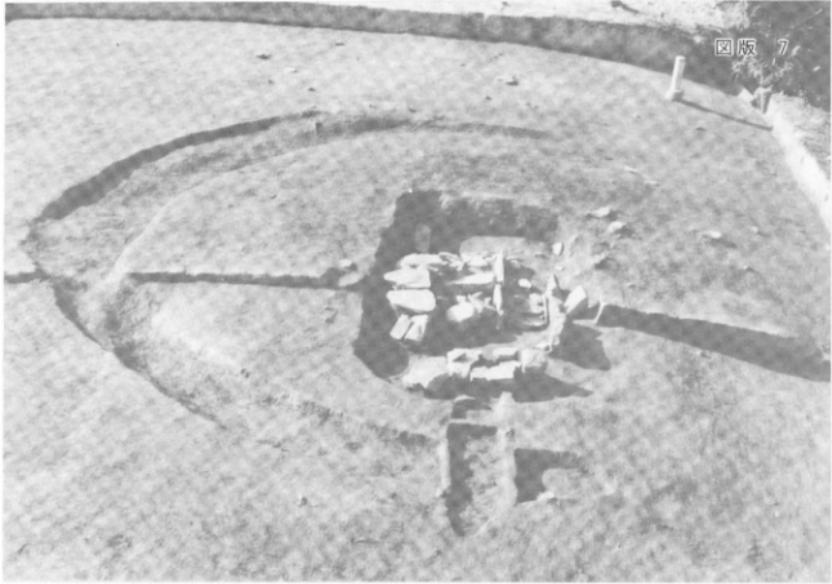
(1) 長崎通り遺跡 0—47～  
0—50 (南より)



(2) 長崎通り遺跡 N～P—  
39～46 (北より)



(3) 長崎通り遺跡 K～0—31  
(西より)



(1) 長崎古墳全景  
(南より)



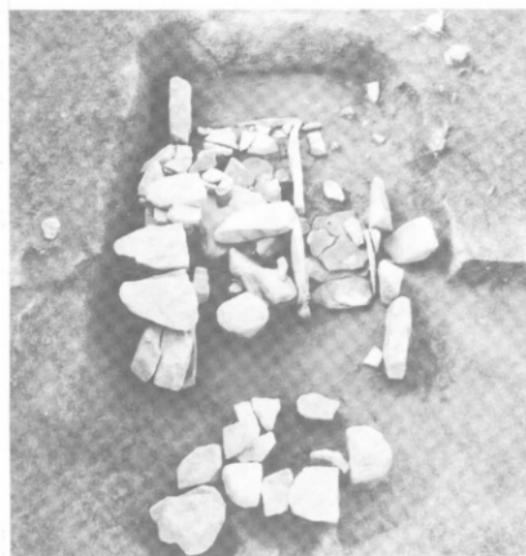
(2) 長崎古墳全景  
(北より)



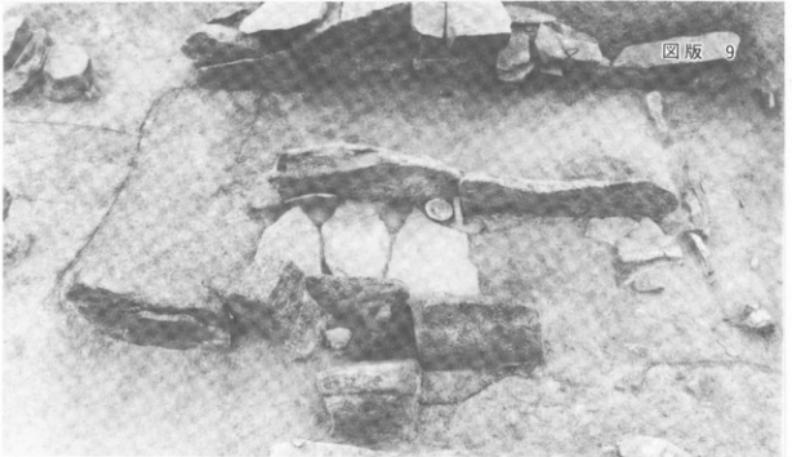
(1) 長崎古墳横穴式  
石室（東より）



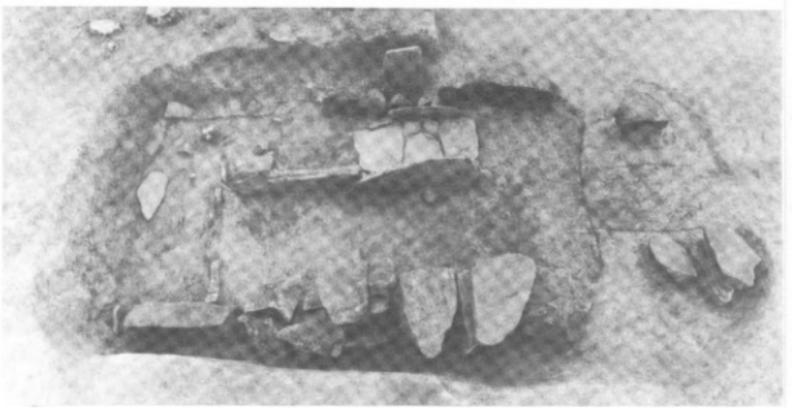
(2) 長崎古墳横穴式  
石室（西より）



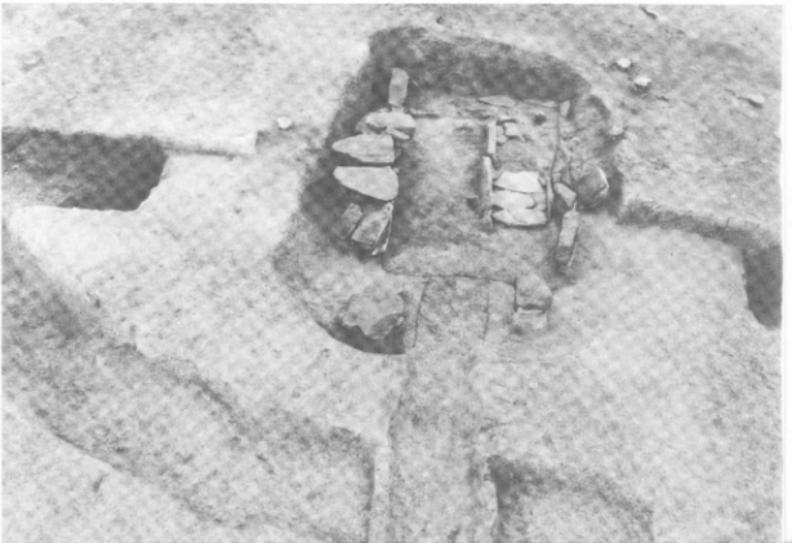
(3) 長崎古墳横穴式石室  
(南より)



(1) 長崎古墳横穴  
式石室(東より)



(2) 長崎古墳横穴  
式石室(西より)



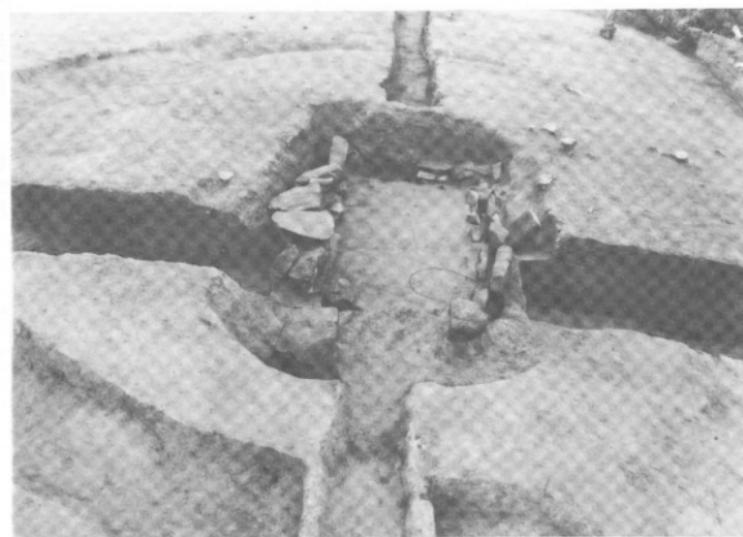
(3) 長崎古墳横穴  
式石室(南より)



(1) 長崎古墳横穴式  
石室（北より）



(2) 長崎古墳横穴式  
石室（西より）



(3) 長崎古墳横穴式  
石室（南より）